

# 博士論文

複合建築の運営・利用実態の評価と  
共有空間の心理的評価に関する研究

STUDY ON EVALUATION OF ACTUAL OPERATION AND USE  
OF COMPLEX BUILDINGS  
AND PSYCHOLOGICAL EVALUATION OF SHARED SPACES

2022年3月

山田由美子

STUDY ON EVALUATION OF ACTUAL OPERATION  
AND USE OF COMPLEX BUILDINGS AND  
SYCHOLOGICAL EVALUATION OF SHARED SPACES

DISSERTATION

YUMIKO YAMADA

Tokyo Denki University

March 2022

# 複合建築の運営・利用実態の評価と共有空間の心理的評価に関する研究

## —目次—

序章	1
1. 研究の背景	
2. 研究の目的	
3. 本論文における用語の定義	
4. 研究方法の概要	
5. 既往研究のレビュー	
第1部 複合建築の問題点・要望	
第1章 官民複合建築の実態調査	18
1.1 調査の目的と調査対象の選定	
1.2 官民複合建築の実態	
1.3 まとめ	
第2章 官民複合建築の用途構成の類型化と管理者による運営・利用実態の評価	25
2.1 調査の目的と調査対象	
2.2 官民複合建築の用途構成による類型化	
2.3 建物の運営と利用実態	
2.3.1 管理者アンケート調査の概要	
2.3.2 管理者アンケートによる官民複合建築の利用実態	
2.4 まとめ	
第3章 利用者の行動実態の分析	43
3.1 建物利用者に対する実態調査の概要	
3.1.1 利用者実態調査対象の概要	
3.1.2 利用者アンケート調査票	
3.1.3 滞留調査の概要	
3.2 利用者による利用実態	
3.3 共有空間の滞留調査からみた利用者の行動	
3.4 利用者による利用実態のまとめ	
3.5 複合建築の課題と要望	

## 第2部 空間構成の心理的評価

### 第4章 共有空間の構成による心理的評価との関係 . . . . . 71

- 4.1 研究の目的
- 4.2 実験対象の選定
- 4.3 研究の方法
- 4.4 心理評価構造の分析
  - 4.4.1 実験方法
  - 4.4.2 代表心理因子軸
- 4.5 意識型分析
- 4.6 空間構成要素の分析
- 4.7 単相関分析
- 4.8 重回帰分析
- 4.9 特異例の考察
- 4.10 既往研究と本研究の心理的評価との関係
- 4.11 まとめ

### 第5章 まとめ . . . . . 108

- まとめ
- 結語
- 謝辞
- 参考文献
- 注釈
- 発表論文



複合建築 1034 事例のリスト

官民複合建築 208 事例のリスト

管理者アンケート調査票

利用者アンケート調査票

官民複合建築 78 事例（調査票回収）の概要

雑誌掲載 複合建築 50 事例のリスト

共有空間対象 19 事例のリスト

30 共有空間のリスト

共有空間シート

# 序章

研究の背景  
研究の目的  
用語の定義  
研究方法の概要  
既往研究のレビュー

## 1. 研究の背景

近年、複合建築は、交通の拠点である駅周辺に多く建設されている。建築雑誌(1967. 07号) 座談会「複合建築とは」<sup>74)</sup>によると「複合建築とは都市機能の集中と集積を建築的に処理したものである」とまとめられている。複合建築の具体例として新宿副都心、パレスサイドビル(写真1.1)等があげられているが、近年では地方都市にも複合建築が建設されている(写真1.2)。これらは、土地の有効活用や集客の増加と収益をあげることも期待されている。例えば、オフィスの用途に集客効果が期待される商業や文化施設などを組み合わせた用途構成によって、オフィス単体構成での建設よりも人々を多く呼び込み、その地域の賑わいをつくりだす効果のある事例もみられる。



写真 1.1 出典 <https://www.mai-b.co.jp/about/> 2



所在地：兵庫 出典 <https://www.nul.co.jp>



所在地：北海道 出典 <https://www.kiralis.jp>



所在地：熊本 出典 <https://kumamoto-guide.jp/>



所在地：千葉 出典 <https://www.qibaal.jp>

写真 1.2 地方都市における複合建築事例

さらに、急激な人口減少や高齢化の背景もあって、国土交通省によるコンパクトな都市構造への見直しが全国でされている。また、1999年に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」が制定され、官民連携事業のひとつとして、老朽化した公共施設の再配置の検討や建替え需要により、行政によるサービスと民間によるサービスをひとつの建物で提供する複合建築（官民複合建築と称す）の建設が進められている（表 1.1）。

表 1.1 官民複合建築の事例（国土交通省事例集「官民複合施設」<sup>注1)</sup>を抜粋)

事業名	用途
①中央合同庁舎第7号館整備等事業	行政施設、商業施設
②神宮前一丁目民生再生プロジェクト	一団地申請(図書館、警察施設、共同住宅、業務・商業施設)
③紫波中央駅前有地活用事業	図書館、支援施設、商業施設
④都市再生ステップアップ・プロジェクト(竹芝地区)	行政施設、共同住宅、商業施設
⑤篠崎駅西口公益複合施設プロジェクト	共同住宅、図書館、商業施設
⑥練馬駅北口有地活用事業	行政施設、病院、商業施設
⑦鶴見中央一丁目土地有効活用事業	福祉施設、共同住宅
⑧藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業	図書館、商業施設、映画館
⑨豊島区新庁舎整備事業	行政施設、共同住宅、業務・商業施設
⑩南青山一丁目団地建替プロジェクト	共同住宅、教育施設、福祉施設、商業施設
⑪所沢元町北地区第一種市街地再開発	交流施設、共同住宅、
⑫鹿嶋市北田大手町地区第一種市街地再開発事業	公共施設、業務・商業施設
⑬安城市中心市街地拠点整備事業	図書館多目的ホール、商業施設



①



⑥



⑦



⑬



一方で、地方都市にみられる郊外型ショッピングセンターの進出や通信販売などの影響により複合建築の核の一端を担っていた百貨店や総合スーパー型商業施設の撤退がみられ、必ずしも複合建築が人々の往来を呼び込めていない事例もみられる。テナントの撤退は複合建築本来の目的である施設間の相乗効果が望めず、かつ、街の空洞化につながるおそれもある。対策として行政が買い取り役所機能などに転換した官民複合建築の事例も見受けられる。このように複合建築の成り立ちや用途構成において世情と共により複雑さを増している。

また、さまざまな用途や機能を集積する複合建築の多くは再開発や総合設計制度による高層化と容積率緩和により、各建物に、「ガレリア」「アトリウム」「テラス」「敷地内の広場・通路」などの共有空間が配置されている。

それらの配置により各施設を繋ぎ、時にはイベント会場や心地の良いサード・プレイス等の多様な利用によって、共有空間は施設の利用目的以外にも利用されている。また、共有空間は複合建築全体の印象を高め、豊かな空間を演出する効果も果たしている（写真 1.3）。



写真 1.3 複合建築の共有空間 事例

(撮影 2017/11～2019/9)

## 2. 研究の目的

複合建築は、土地の有効活用や集客の増加と収益をあげることも期待されていること、老朽化した公共施設の再配置の検討や建替え需要があり、今後、各地で複合建築の計画が予測されること、複数の機能集積や合理化により、複合建築の多くは、「ガレリア」「アトリウム」「テラス」「敷地内の広場・通路」などの共有空間が配置されることによって、建物の価値を高めているなどの背景から、本研究は、文化施設や商業施設などの複数の用途が集まった複合建築を対象として、人々を呼び込む要素である「用途構成」、「空間構成」に着目した。

また、複合建築の「用途構成」や「空間構成」が建物の管理者や建物の利用者からどのように評価されているかを把握することは、複合建築の設計をすすめるにあたって、重要である。

本論文は、第1部と第2部から構成されている。

第1部では、行政が官民連携による取組みを推進し、公共施設と民間運営の施設を有する官民複合建築の建設が進められている背景から、全国主要都市の複合建築のうち官民複合建築を対象にした。官民複合建築について、都市人口と建物の規模、竣工時期との関係や立地と周辺環境、断面構成と平面構成（コア形式）の傾向を把握する。

その上で、複合建築は老若男女、多様な人々が利用することから、建物全般の利用について把握している建物の管理者あてに調査を依頼し、回答を得た事例について、「用途構成」に着目して分析し、タイプ別に類型化する。これにより、官民複合建築の「用途構成」タイプ別による特徴と傾向をあきらかにする。

次に建物の管理者および建物の利用者の評価についての分析から利用実態を把握する。官民複合建築各タイプ共通の課題と要望、および各タイプ別の課題と要望をあきらかにする。管理者や利用者のニーズの把握は、設計を進める際の基本的な知見である。

第2部では、「共有空間」に着目した。官民に関わらず、複合建築の共有空間は、建物の中心的な存在である。不特定多数の人々も自由に行き来できる「ガレリア」「アトリウム」「テラス」「敷地内の広場・通路」などの共有空間が複合建築に配置されている。それらの配置は、各施設を繋ぎ、時にはイベント会場や心地の良いサード・プレイス等、多様に利用されている。共有空間は複合建築全体の印象を高め、豊かな空間を演出している。

特に、共有空間は、平面の大きさや形、天井高さなどのボリュームなどの形態的な機能を満足するほか、人々の利用を誘発するためには、人々にとって快よい雰囲気をつくることも重要である。船越徹・積田洋編著：建築・都市計画のための空間の文法では「雰囲気は、空間の大きさ、形・材料（色・質感）・光・開口などで規定され（略）、設計の際はこれらの空間構成要素が空間の雰囲気に及ぼす影響を客観的に捉えておく必要がある」<sup>22)</sup>とある。人々がその空間をどのように評価しているかを分析し、そこで得られた内容は、建築設計の実務において、空間を設計する際の重要な知見である。

本研究では、主に屋外空間の既往研究で用いた分析方法、心理的評価構造と空間構成要素との分析、単相関分析および重回帰分析から、複合建築の共有空間の雰囲気を数量的にあきらかにする。

既往の関連研究に対して、本研究での独自性は次のとおりである。

- ・全国の官民複合建築を対象とし、用途による類型別に建物の管理者や利用者の評価について分析する。類型別の特徴を把握し、課題と要望をあきらかにする。
- ・共有空間について、既往研究ではロビーなどの重要性は論じてはいるが具体的な指針はなく、また、心理的評価構造の分析は主に面積、高低差などの空間の規模や形状、空間に付属する装置などの空間構成要素との関係を分析しているが、仕上げ素材との分析はおこなわれていない。仕上げ素材は、空間の雰囲気に影響を与える空間構成要素であり、かつ、建築設計実務において設計図書に記載される仕上げは、空間を構築する設計の基本的重要な内容である。本研究では一連の分析手法を用いて、利用実態と心理的評価と空間構成との関係性を、特に「仕上げの素材」に応用して分析する。

以上により、複合建築の設計における基礎的知見を得ることを目的とする。

### 3. 本論文による用語の定義

複合建築 2つ以上の用途の施設が合わさってひとつの建物となったもの。  
国土交通省の2018年度着工実績<sup>注2)</sup>によると全国で571件着工している。

本論文では次のケースは対象外とした。

- ・併用住宅
- ・一団地申請等の同一敷地に複数の建物があった場合で、その建物が一用途で独立した棟のもの。  
例：共同住宅棟（共同住宅単体）、事務所棟（商業施設＋オフィス）  
が同一敷地の中にある場合の共同住宅棟は含めない。

用途 建築基準法による建物の用途 本論文では次のように区分する。

業務	: 事務所（オフィス）、官公署、税務署、警察署、消防署、 地方公共団体の支庁、郵便局、銀行等
商業	: 店舗、百貨店、スーパーマーケット、理髪店、美容院、 各サービス店、飲食店、食堂等
住居	: 共同住宅
教育	: 大学、高等専門学校、専修学校、中学校、小学校、幼稚園等
文化	: 博物館、美術館、図書館、劇場、音楽ホール、多目的ホ ー、映画館、ギャラリー等
コミュニティ	: 住民の交流や活動の拠点として公共的な目的で使用され る施設。公民館、集会所、各種交流センター、生涯学習 センター、児童館、研修室・会議室等
運動	: 体育館、武道場、プール、スポーツジム等
宿泊	: ホテル、旅館
医療	: 病院、診療所
福祉	: 保育園、保健施設、デイサービス、福祉支援センター等
交通	: 駅舎、バスターミナル等

次は特殊性により本論文では含めない。

物流	: 倉庫、車庫、物流ターミナル等
生産	: 工場等
宗教	: 社寺、教会等



官民連携 行政と民間が公共施設等の運営、維持管理、運営等を連携して行う手法。  
ただし、本論文では、連携事業の手法等については論じない。

官民複合建築 公共施設と民間運営による用途がひとつの建物にあるもの。

管理者 建物の管理者。  
本論文での「管理者」は建物の管理を主な業務としている場合と、建物の管理のほか、施設運営(一部の施設の場合も含む)もおこなっている場合、施設所有者(区分所有の場合を含む)でもある場合等、さまざまな形態であったが、共通しているのは「建物の管理者」または「建物の管理代表者」であったので総称として「管理者」とした。

利用者 建物内の施設の利用者や共有空間への訪問者。  
アンケート調査は主にエントランスホール等の共有空間でおこなった。

設地階 地上階のうち最も下階にあり、地盤面から直接アプローチできる階。

共有空間 建物内または敷地内における、商業施設、オフィス、公共施設など2つ以上の用途と接合する共用部で、不特定多数の人々が自由に行き来できる「ギャラリー」「アトリウム」「ホール」などの屋内空間、「テラス」「通路」などの半屋外空間、「敷地内の広場」「通路」などの屋外空間。

アトリウム 吹抜け空間。

ギャラリー 回廊。  
本論文では、吹抜け空間であっても、図面に「ギャラリー」とあるものはその名称を踏襲した。

#### 4. 研究方法の概要

研究フローを示す。



本研究では、はじめに、インターネット検索機能を使って、全国 977 都市（区・市）にある 1034 事例の複合建築を収集した。そのうち、建物規模が判明したの官民複合建築 208 事例を抽出し、それらを整理して実態を把握した。

「第 1 部 複合建築の問題点・要望」に関する分析では、官民複合建築の管理者への調査票を回収した 78 事例を対象として分析する。

- ① 官民複合建築の実態情報（所在地、都市人口と竣工年、建物規模、断面構成・コア形式、立地環境）。
- ② クラスタ分析による施設用途別の類型化。
- ③ 管理者アンケートによる施設の運営・利用実態の評価を類型別に分析。
- ④ 類型別 5 事例について利用者アンケート調査による利用状況の分析。
- ⑤ 類型別 6 事例について共有空間の利用実態調査（滞留調査）。

「第 2 部 空間構成と心理的評価」に関する分析では、まず、共有空間を吹抜け（アトリウム、ガレリア）、通路（通路、大階段）、広場、休憩空間（テラス、休憩スペース）の 4 分類した。

研究対象は建築雑誌の過去 18 年間（2000 年～2018 年）に掲載された商業用途（店舗等）を含む複合建築 96 事例のうち共有空間のある 50 事例から、現地調査（写真撮影）が可能であった 19 事例を選別した。

これらの共有空間を「屋内」「半屋外」「屋外」の 3 タイプに分類し、多様な使い方が可能で各施設や敷地内外等へアクセスできる機能を備えた空間を 10 箇所ずつ選定した。計 19 事例 30 空間を対象として分析した。

- ⑧ 計測調査が可能な 11 事例 15 空間について空間構成要素の定量化（物理量）と空間構成要素の分析。
- ⑨ 19 事例 30 空間に対して心理的評価実験。
- ⑩ 心理評価構造の分析と意識型分析。
- ⑪ 心理量と空間構成要素（物理量）との相関分析。

## 5. 既往研究のレビュー

既往研究は、用途構成に関する研究、利用実態に関する研究、滞留調査に関する研究、共有空間に関する研究、内部空間に関する研究がある。

### 5.1 用途構成に関する既往研究

地域施設を含む複合建築については、宮本文人ら<sup>1)</sup>の「駅前再開発による複合建築物における地域集会施設の複合化形態と相互利用」は、第一種市街地再開発事業によって建設された地域集会施設を含む複合建築を対象に、施設の構成・複合形態の整理、地域集会施設のロビー空間の利用状況とその特徴を、地域集会施設の職員に対しての利用頻度のアンケートから把握し、地域集会施設のロビー空間においておこなわれている典型的な利用状況は、待合・休憩・談話と掲示物・チラシの閲覧であることを挙げている。ロビー空間を利用者の行動からみて、自由利用・多機能型、休憩・談話型、登録団体活動型、小機能型の4タイプに類型化し、それぞれの特徴をまとめている。複合に生じる地域集会施設における問題点は、縦動線に関連するものであったこと。地域集会施設の位置が上階にあるため、歩行者の視線に入らない等により、利用者による施設の認知低下の問題があること。吹抜けを通しての商業施設からの騒音と臭いの問題があること、営業時間帯の相違による問題があること等を挙げている。また、地域コミュニティ施設のロビースペースが比較的広く、利用者の機能が複数ある場合は、相互利用を促進する重要な役割を担っていることを論じ、複合建築で施設相互の利用を促進するためには、ロビー空間の計画が重要な課題のひとつであることを挙げている。

## 5.2 利用実態に関する既往研究

図書館を含む複合建築については、酒井要ら<sup>2)</sup>の「設置された図書館・施設の状況と図書館来館者数に対する影響：複合施設に設ける図書館整備に関する研究」は、複合施設に設置した図書館と複合される公共施設（集会所、多目的ホール、庁舎、生涯学習、文化振興等）の配置組み合わせパターンを整理した整備状況の把握、および図書館利用の来訪者は蔵書規模が同じの場合、来訪者は複合型のほうが多い傾向がみられたと論じている。

福祉施設を含む複合建築については奥田欣也ら<sup>3)</sup>「複合型福祉施設の利用実態と交流様態に関する研究」は、福祉事業、飲食・物販、温浴施設を含む石川県1事例について利用者に対する行動観測と施設管理者に対するヒアリングを実施し、利用実態の把握、交流実態の把握から多様な地域の人々の利用を促進するためにも温泉、喫茶、駄菓子屋などの複数の機能を組み込むことが重要であると論じている。

教育関連施設を含む複合建築については、谷口汎邦ら<sup>4) 5)</sup>「教育関連施設の空間複合形態の類型化とその利用形態の特性について 都市における教育関連施設の複合化計画に関する研究 (3)」は、東京都23区の図書館、公民館、区民会館、児童施設、青少年対象施設、高齢者対象施設を含む複合施設について、施設間の結合動線形態からの類型化と複合機能数別に、入口分離、入口共通、内部動線による室配置の特性を把握し、都区内の4図書館に対してアンケート調査により施設相互利用の特性を論じている。

民間運営の複合施設の視点からの利用実態に関する既往研究では、

李 東ウックら<sup>6)</sup>の「都市型用途複合施設の利用実態に関する研究 -日本と韓国の4事例を対象として」は、日本の対象は六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、恵比寿ガーデンプレイスにおける15時から21時までの施設の利用状況アンケート（訪問目的、回数等）により、集客力の高い核心施設で人を集め、そこから他の施設に波及を及ぼす利用パターンが見られ、連携利用が集客において重要な役割であると論じている。

北崎朋希<sup>7)</sup>の「大規模複合再開発施設の利用実態と評価構造に関する研究 東京都23区内10施設を対象として」は、大規模複合再開発（①丸の内エリア、②日本橋室町エリア、③晴海トリトンスクエア、④六本木ヒルズ、⑤東京ミッドタウン、⑥恵比寿ガーデンプレイス、⑦汐留シオサイト、⑧大崎エリア、⑨品川エリア、⑩天王洲アイル）を調査対象とし、来訪者、勤務者、居住者へのインターネットアンケート調査により利用実態を把握し、施設の満足度10点満点での評価結果をもとに、大規模再開発策定時には、敷地条件や立地条件に依存するのではなく、入居する店舗や施設に加えて商品やサービスの多様性、リニューアルやイベント開催等の話題性、周辺地域や類似施設との差別化を通じた希少性の確保といった観点を最も重視する必要があると論じている。

劇場を含む複合建築については、田村 正<sup>8)</sup>の「複合化大型商業劇場の事業背景と空間構成」は、帝国劇場などの5事例の劇場支配人クラスの聞き取り調査により、大型劇場を含む複合建築について事業性と平断面構成、建築計画上の項目を整理している。

### 5.3 滞留調査に関する既往研究

滞留調査実施に関する既往研究では、船曳 悦子ら<sup>9) 10)</sup>の「市庁舎における市民空間の位置関係とその滞留特性について」は、市庁舎内の市民空間に焦点をあて、現状の市民空間の利用状況を把握し、市庁舎としての空間の役割と必要性を滞留調査と市庁舎管理部局担当者アンケートから、滞留空間を事務室との隣接型、非隣接型に分類し、滞留特性の違いを論じている。

そのほか、駅舎の複合施設に関する既往研究では、長谷部 久人ら<sup>11)</sup>日本建築学会賞（作品）岩見沢複合駅舎の利用実態と空間特性」など、複数あるが、いずれも公共施設を中心とした研究または民間施設を中心とした研究である。本研究のような公共施設と民間運営による施設が混在し全国を対象とした複合建築の分析は行われていない。

#### 5.4 複合建築の共有空間に関する既往研究

三ヶ尻 幸生ら<sup>12)</sup>の「生涯学習施設におけるコモンスペースの評価に関する研究：複合化による新たな機能創出に向けてのコモンスペースの役割」は、九州地方の生涯学習に関連した複合施設5施設を対象に、ロビー、ラウンジやエントランスホールをコモンスペースと称し、行動観測とアンケート調査から多くの世代の多様な目的によるいつでも気軽に来館と自由で日常的で多様な利用をコモンスペースが高めていると論じている。

広田 直行ら<sup>13)</sup>の「コミュニティ施設の複合化事例にみる共用スペースの構成-横浜市地区センターを対象として-」は、コミュニティ施設に着目し横浜市地区センターを調査対象として館長に対するヒアリング調査と共用スペースの実態確認調査より、共有スペースを誰でも自由に利用できるオープンスペース、利用する際に予約を必要とするリザーベーションスペース、管理者のみ立ち入ることができるコントロールスペースに分類し、建設年にみる共用スペースの変遷と構成比、利用実態について論じている。

積田 洋ら<sup>14)</sup>の「アーバンコンプレックスにおける空間意識と空間構成要素の相関分析-アーバンコンプレックスの研究(その1)-」は、都市型大規模複合建築群の敷地内の空地(オープンスペース)に着目し、人々に与える心理的影響(雰囲気)を定量的に明らかにして、また、空間構成要素との相関関係を数量的に分析している。



## 5.5 内部空間に関する既往研究

李 知映ら<sup>15)16) 17)</sup>の「現代建築におけるアトリウムの類型と評価に関する研究：管理者・利用者アンケート調査および歩行・滞留者数観察調査にもとづく分析」は、アトリウムにおける滞留者アンケートから「満足度」と「入りやすさ」をアトリウム空間意識評価の基本変数と選定し、共通する要因を滞留空間性・イベント・アクセス、地域開放性、アトリウム規模、満足度ではさらに外部空地、植栽、外部との関係を、入りやすさではアメニティをあげている。

積田 洋ら<sup>18)</sup>の「吹抜け空間における幅・奥行・高さの認知特性の研究」は公共建築の吹抜け空間を対象にグリッドマップ法による空間認知と空間特性の関係について論じている。

積田 洋ら<sup>19)</sup>の「内部空間における開口形態と心理評価の相関分析」は、実際に設計された建築の開口形態をCGにてモデル化し、そのCG画像を用いての心理的評価実験と分析から、開口形態の変化が空間全体の雰囲気を与える影響を定量的にあきらかにしている。

中山 誠健ら<sup>20)</sup>の「階段空間における基本的構成要素が及ぼすデザインの評価の研究」は、階段のCGを用いて、手摺のデザイン、手摺子の間隔、蹴込み板の有無や階段の幅を操作し、階段空間のデザインに対する評価の視点を客観的にあきらかにしている。

槇 究ら<sup>21)</sup>の「室内雰囲気評価に及ぼす色彩・照明・素材の複合効果」は、小規模オフィスを想定し、壁面素材はカッティングシート、和紙、パイル地と色紙4種類の素材による室内模型にて心理的評価実験をおこない色彩、照明、素材との交互左右について論じている。

また、「船越徹・積田洋編著：建築・都市計画のための空間の文法<sup>22)</sup> 4章内部空間内部空間と雰囲気の関係」では「雰囲気は空間の大きさ、形・材料（色・質感）・光・開口などによって規定され」と述べている。ここで「設計に際しては各空間構成要素が空間の雰囲気に及ぼす影響を客観的に捉えておく必要がある」とある。

共有空間や内部空間の既往研究は、主に面積、高低差などの空間の大きさや形および空間に付属する装置などの空間構成要素と心理的評価との関係を分析しているが、仕上げの素材（材料）との分析はおこなわれていない。

本研究での独自性は次のとおりである。

- ・国土交通省がすすめる官民連携事業の背景もあって、全国にある官民複合建築の実態を把握した。
- ・対象を特定の施設用途に絞らず、官民複合建築の管理者へのアンケート調査を実施して、用途による類型別に評価（課題と要望）をあきらかにした。
- ・類型別代表事例の利用実態調査をおこない、利用者の評価（課題と要望）を抽出した。
- ・宮本文人ら<sup>1)</sup>、三ヶ尻 幸生ら<sup>12)</sup>の既往研究ではロビーなどの共有空間が重要であることを論じているが、具体的な指針がみあたらなかった。本研究では、共有空間の対象を複合建築全般に広げ、積田 洋<sup>23)</sup>の既往研究で用いた一連の分析手法を用いて、利用実態と心理的評価と空間構成との関係性を、特に仕上げの素材に応用して分析した。

# 第 1 部

## 複合建築の問題点・要望

### 第 1 章

#### 官民複合建築の実態調査

調査の目的と調査対象の選定  
官民複合建築の実態  
まとめ

# 第1部 官民複合建築の課題と要望

## 第1章 官民複合建築の実態調査

### 1.1 調査の目的と調査対象の選定

はじめに、全国主要都市の複合建築のうち、行政が官民連携による取組みを推進し、公共施設と民間運営の施設を有する官民複合建築の建設が進められている背景から、官民複合建築を対象に、都市人口と建物の規模、竣工時期との関係や立地環境を整理し現状を把握する。

全国 977 都市（区・市）にある複合建築を、市街地再開発リストや各県・市の再開発事例情報およびインターネットの検索機能を使って 1034 事例を収集し、建物規模（延べ面積、階数）が判明している官民複合建築 208 事例を抽出した。

所在地の地域別（表 1.1.1）では、南関東（東京、神奈川、埼玉、千葉）が 89/208 事例で最も官民複合建築数が多い。全般的に官民複合建築数は、人口が多く都市化が進んでいる地域に多いが、その他の地域でもほぼ均等に分布しており、地域別の差異が見られなかった。

表 1.1.1 対象とする官民複合建築の所在地域別 計 208(78)事例  
※（ ）内は地域別の調査票の回収数を示す。

北海道	8(7)	南関東	89(24)	近畿	20(9)
東北	18(12)	北関東・甲信	18(5)	中国・四国	7(4)
北陸	15(5)	東海	15(6)	九州・沖縄	18(6)

抽出した官民複合建築 208 事例を対象に建物の管理者へ調査を依頼して承諾を得た 150 事例に対して、郵送にて調査票を配布し 78 事例を回収した（回収率 52%）。

## 1.2. 官民複合建築の実態

抽出した 208 事例の官民複合建築の全体傾向を分析する。

### 都市人口と官民複合建築の竣工年（図 1.2.1）：

官民複合建築の分布と供用期間を示す。バブル崩壊後(1990 年代後半)から 2005 年にかけては人口 100 万人以下の都市に 152/208 事例、2015 年以降 2020 年は 32 事例、そのうち 50 万人未満の都市には 27 事例が建設されている。供用期間の平均は 2020 年時点で約 17 年（竣工 1~49 年）であった。当初は商業施設としてオープンしたが、その後の商業テナント撤退により改修の上、官民複合建築としたものも含まれている。

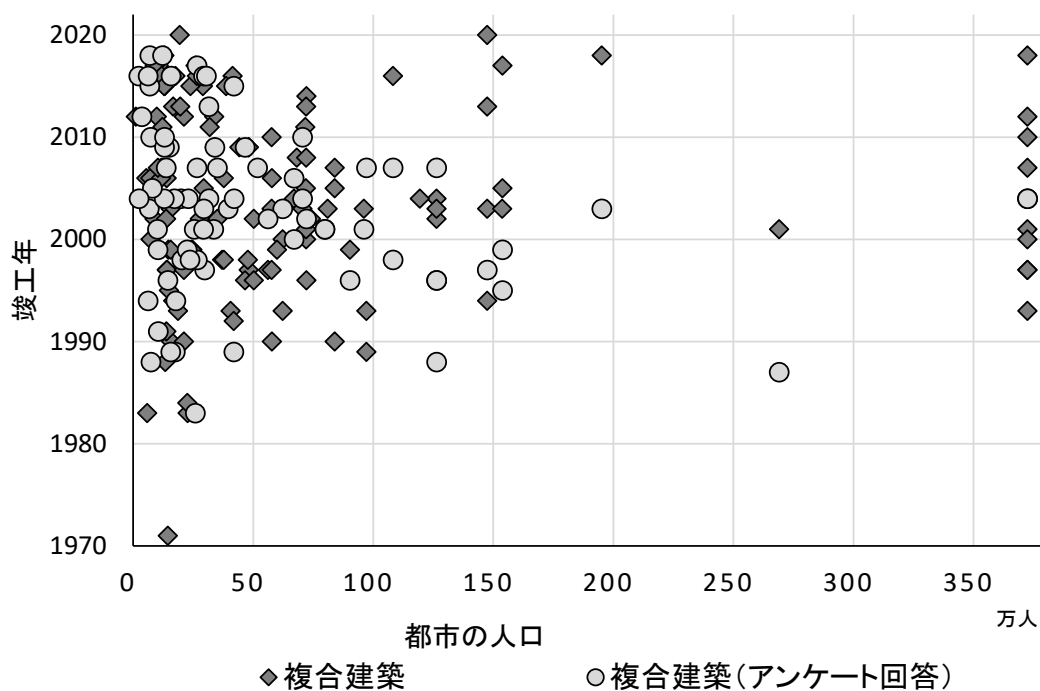


図 1.2.1 都市人口と官民複合建築の竣工年

### 都市人口と建物規模（図 1.2.2、図 1.2.3）：

50 万人未満の都市では延べ面積 50,000 m<sup>2</sup>以下が最も多く(135/208 事例)、人口が増えるにつれ延べ面積は増加傾向にある。階数では 50 万人未満の都市では中低層建物が多い(10 階以下 77/208 事例)が、30 階以上の高層建物もあり、これは市街地再開発等の事業による都市の高層化がみられる。全体的には、

都市人口にかかわらず建物階数は低層～30 階に分布しており官民複合建築の規模は広範囲にあることが確認できる。

なお、本研究で分析対象とするアンケートに回答した官民複合建築の規模は偏りなく分布していることが確認できた。

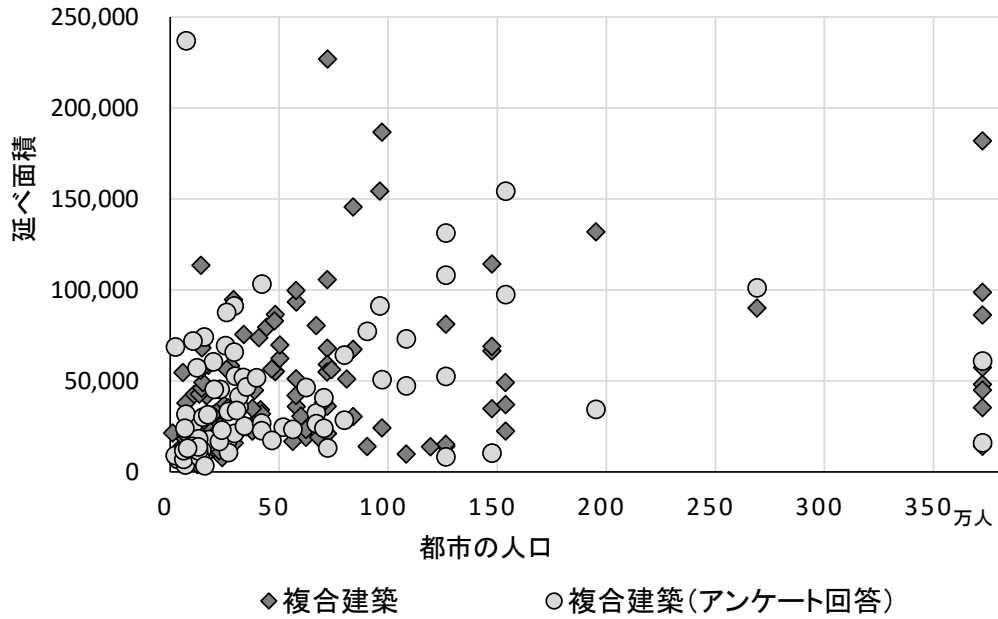


図 1.2.2 都市人口と官民複合建築の延べ面積

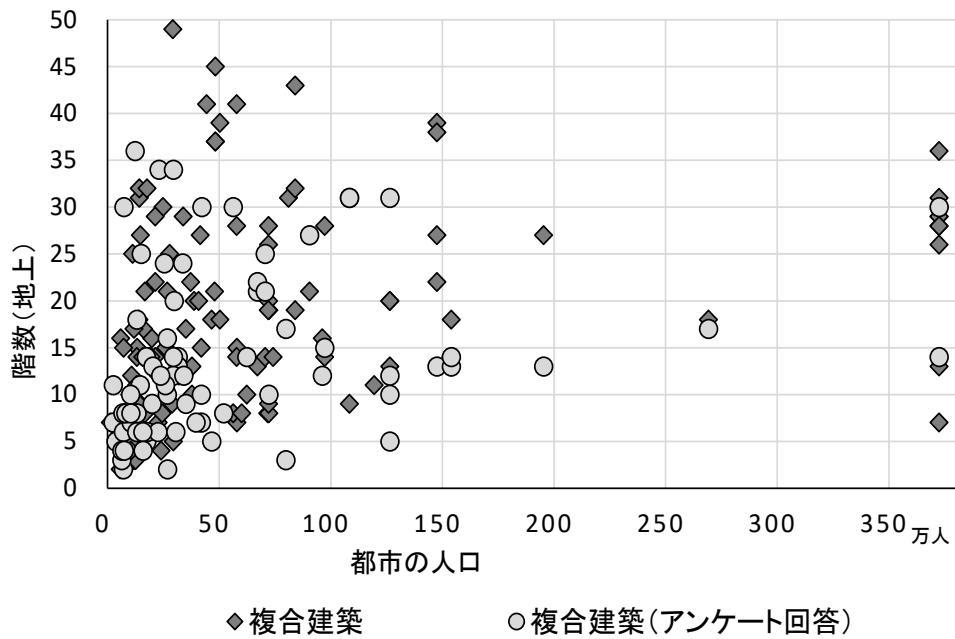


図 1.2.3 都市人口と官民複合建築の階数

### 立地（表 1.2.3）：

対象とした官民複合建築のウェブサイトのアクセス案内情報をもとに、駅から建物までの時間を、駅（地下）直結、駅から徒歩5分未満、徒歩5分以上、車・バス利用の4カテゴリーに分類した。駅から徒歩5分未満に位置するのが134/208事例で64%（アンケート45/78事例, 58%）を占める。公共交通機関の発着場所が近く、周辺地域だけでなく交通機関を利用する利用者の利便性に配慮されている。

表 1.2.3 最寄り駅からの位置

※（ ）内は回収した調査票の割合を示す。

	N1: 駅直結	N2: 歩5分未 満	N3: 歩5分以上	N4: バス・車	計
%	11(15)	64(58)	14(12)	11(15)	100

### 立地と周辺環境（図 1.2.4）：

立地と敷地周辺の環境について整理する。地図より、敷地が「角地」、「大通り」「商店街」「駅前ロータリー」に隣接している、敷地周辺は〔ペデストリアンデッキ〕〔公園〕「水辺」〔駅連絡通路〕の計8カテゴリーを抽出して分類した。

「角地」かつ「大通り」に該当するのが約72%（150/208事例）を占め、交通の利便性と多数の人が行来する環境を重視することがわかる。また、建蔽率アップなど建築基準法上の有利性があり、二面以上道路に接していることからメインとバックヤード、駐車場の出入口を分けて計画できるメリットがある。「広場、ペデストリアンデッキ」と「駅連絡通路」では駅から雨等に濡れないアクセスを重視している。一方で、公園や水辺、あるいは商店街などに隣接し建設された官民複合建築は少なかった。人が集まりやすい環境という点では公園や商店街もあるが、建築基準法等の規制により高層建築が建設されにくい環境が要因であると推測する。

※ ( ) 内は回収した調査票の場合を示す。


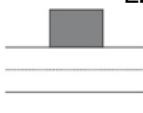
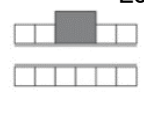
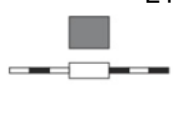
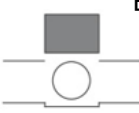

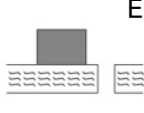
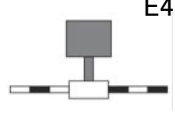
模 式 図	角地	大通り	商店街	駅ロータリー
	L1 	L2 	L3 	L4 
%	92 (91)	78 (79)	1 (0)	37 (37)
模 式 図	ペDESTリアン デッキ	公園	水辺	駅連絡通路
	E1 	E2 	E3 	E4 
%	11 (12)	2 (5)	4 (6)	13 (37)

図 1.2.4 立地・周辺環境の分類 ※L1+L2 の場合 72 (74) %

#### 断面構成と平面（コア）構成（図 1.2.5）：

断面図による諸用途の配置は、類似用途の施設を階にまとめて配置する積層集結型が 163/208 事例で 78%と最も多い。平面型に比べ、積層集結型は官と民の専用部における共用スペースの省略化が図られる。収集した平面図等（185 事例/208 事例）<sup>注 11)</sup>によりコア形式別に整理した。片側コア形式が 68/208 事例の 33%、分散コア形式が 93/208 事例で 45%を占め商業施設を中心とした官民複合建築に多い。また、住居を含む場合は住居専用コアを有する。

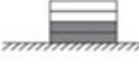


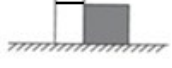




断 面	積層集結	積層分散	平面	平面積層
	S1 	S2 	S3 	S4 
%	78 (76)	6 (6)	6 (6)	10 (12)
平 面	片側コア	センターコア	両端コア	分散コア
	P1 	P2 	P3 	P4 
%	33 (29)	5 (7)	7 (15)	45 (49)

図 1.2.5 断面・平面（コア）形式の分類



### 1.3. まとめ

官民複合建築 208 事例では、以下の傾向がみられた。

- (1) 所在地別では、南関東地域が 42%であったが、その他の地域でもほぼ均等に分布している。
- (2) 竣工年では、73% (152/208 事例) が、1990 年代後半から 2005 年にかけて人口 100 万人以下の都市に建設されていた。

2015 年以降 2020 年は 32 事例建設され、そのうちの 84% (27/32 事例) は 50 万人未満の都市に建設されており、近年、大都市以外の都市にも建設が進められている傾向がある。

- (3) 建物規模では、64%(135/208 事例) が、50 万人未満の都市で延べ面積 50,000 m<sup>2</sup>以下の建物であった。人口が増えるにつれ延べ面積は増加傾向にある。

50 万人未満の都市では中低層建物が多いが、30 階以上の高層建物もあり、全体的には、都市人口にかかわらず建物階数は低層～30 階に分布しており官民複合建築の規模は広範囲にある。

- (4) 立地では、75%が駅に直結、または駅から徒歩 5 分未満の場所にあり、また、72%が「角地」「大通り」に面した敷地に建設されている。公共交通を利用する利用者の利便性と多数の人が行来する環境を重視している。
- (5) 断面構成では、78%が諸用途の配置が類似用途の施設を階にまとめて配置する「積層集結型」であった。コア形式では、収集できた 185 事例のうちの 45%が「分散コア」、33%が「片側コア」であった。

以上により、208 事例の実態をあきらかにした。

## 第 2 章

### 官民複合建築の用途構成の類型化と 管理者による運営・利用実態の評価

調査の目的と調査対象  
官民複合建築の用途構成による類型化  
建物の運営と利用実態  
まとめ

## 第2章 官民複合建築の用途構成の類型化と管理者による 運営・利用実態の評価

### 2.1 調査の目的と調査対象

第1章で抽出した官民複合建築208事例のうち、承諾の得た建物の管理者150事例に郵送にて調査票(表2.1.1)を配布し、78事例を回収した(回収率52%)。

この78事例(表2.1.2)を、用途構成におけるタイプ別に類型化し、建物の管理者の利用実態調査から、タイプ別の課題や要望を把握する。

表2.1.1 管理者あて調査票の設問内容

回答は主に自由記述形式
Q1. この施設の <b>運用時期</b> について記入してください。
Q2. <b>管理運営体制</b> について記入してください。
Q3-1. この施設は複合施設ですが、 <b>管理運営の効果的な点</b> など、ございますか。
Q3-2. この施設で <b>不都合、非効率な点</b> など、ございますか。
Q4. 来場者の総人数、一番多いと思われる時間帯等を記入してください。 (複数回答可)
Q5. この施設で、 <b>イベントの開催の有無、内容、頻度</b> はどの程度でしょうか (複数回答可)
Q6. この施設の <b>利用者年代の多い順に数字と、利用者割合</b> を記入ください。
Q7. この施設の <b>利用者間同士の交流状況</b> はいかがでしょう。感想をお聞かせください。
Q8. この施設の中で <b>気に入っている場所・自慢したいところ</b> はどこですか。 (複数回答可)
Q9. 施設の中で、 <b>もう少し改善が必要と思われる場所</b> はどこですか。
Q10. この複合施設内に、 <b>あればよいと思う施設や空間</b> はありますか。
Q11. この複合施設で <b>混雑する場所</b> はありますか。(選択式) ①玄関ロビー・エントランスホール、②エレベーターホール ③吹抜け・アトリウム、④待合ロビー、ラウンジ、ホワイエ ⑤水まわり(トイレ・洗面等)、⑥給湯室・リフレッシュコーナー ⑦喫煙スペース、⑧屋上庭園・展望台、⑨屋外スペース(テラス・中庭)
Q11-2. この <b>複合施設の中</b> でもっとも利用されている <b>室・場所</b> を5つあげてください。
Q11-3. この施設で <b>あまり利用されていない室・場所</b> がありますか。5つあげてください。
Q12. この複合施設の <b>総合的な印象</b> を記入してください。 (選択式：[1]不満、[2]やや不満、[3]どちらともいえない、[4]やや満足、[5]満足) ①この施設の <b>外観</b> 、②この施設の <b>内観</b> (エントランスホールなど) ③ <b>屋外スペース</b> (この施設の敷地内)

表 2.1.2 官民複合建築 78 事例の概要

分析対象 官民/NO.	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数			回答者 の属性
							官 用途	民 用途	計	
							回答者の属性 ①管理会社 ②管理組合、共同企業体 ③行政			
1	01S_ERU	北海道	1,952,356	2003	34,434	13	2	2	4	③
2	01H_KRH	北海道	265,979	2017	17,776	16	2	3	5	①
3	01K_KFM	北海道	174,742	1989	16,028	5	4	2	6	①
4	01W_KTK	北海道	36,380	2012	6,785	5	1	4	5	②
5	01F_NBT	北海道	22,936	2016	9,012	7	2	1	3	①
6	01E_IZR	北海道	69,702	2015	9,913	6	2	3	5	①
7	01E_ANI	北海道	69,702	2018	3,800	2	4	3	7	①
8	02H_HRR	青森県	177,411	1994	17,776	6	3	1	4	①
9	03M_MRO	岩手県	297,631	1997	52,625	20	2	3	5	②
10	04S_THK	宮城県	1,082,159	2007	47,281	31	2	2	4	①
11	04S_SAE	宮城県	1,082,159	1998	73,131	31	3	2	5	②
12	04T_TGK	宮城県	62,096	2016	6,898	3	1	1	2	②
13	05A_ALV	秋田県	315,814	2004	35,600	14	4	5	9	①
14	05A_ERA	秋田県	315,814	2013	41,493	13	2	3	5	②
15	06Y_KJS	山形県	253,832	2001	69,500	24	4	4	8	①
16	06T_TDB	山形県	62,194	1994	11,700	4	1	3	4	①
17	07F_KRS	福島県	294,247	2003	21,226	12	2	2	4	②
18	07K_BGI	福島県	335,444	2001	51,900	24	3	2	5	②
19	07I_LAT	福島県	350,237	2007	46,666	9	3	2	5	②
20	08T_STS	茨城県	104,573	1991	25,647	7	3	3	6	①
21	09U_OSS	栃木県	518,594	2007	24,628	8	4	2	6	②
22	11S_STB	埼玉県	1,263,979	2007	108,138	10	2	2	4	②
23	11S_OSS	埼玉県	1,263,979	1988	131,256	31	3	4	7	②
24	11S_WTW	埼玉県	1,263,979	1996	8,300	5	2	2	4	①
25	11S_WTE	埼玉県	1,263,979	1996	52,528	12	2	1	3	①
26	11K_MTA	埼玉県	198,742	2004	60,529	9	2	5	7	②
27	11Y_KKR	埼玉県	72,260	2010	31,751	30	2	2	4	②
28	11O_OKM	埼玉県	73,936	1988	236,999	4	1	2	3	①
29	12C_QBR	千葉県	971,882	2007	50,755	15	3	1	4	②
30	12F_FAB	千葉県	622,890	2003	46,489	14	1	2	3	①
31	13S_KRT	東京都	903,346	1996	77,365	27	2	2	4	①
32	13I_ITW	東京都	561,916	2002	23,380	30	2	4	6	①
33	13A_MBP	東京都	670,122	2000	32,459	21	2	2	4	②
34	13A_TGS	東京都	670,122	2006	26,542	22	2	2	4	①
35	13N_OGY	東京都	721,722	2002	13,135	10	1	2	3	②
36	13M_MSB	東京都	144,730	1996	11,898	11	2	3	5	②
37	13O_KTB	東京都	137,381	2007	7,636	6	2	1	3	①

回答者の属性 ①管理会社 ②管理組合、共同企業体 ③行政

分析対象 官民/NO.	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数			回答者 の属性
							官 用途	民 用途	計	
38	13C_GRC	東京都	229,061	2004	45,384	34	1	2	3	②
39	13H_PHW	東京都	149,956	2009	30,043	25	3	2	5	②
40	13K_STK	東京都	122,742	2018	57,317	36	1	2	3	②
41	14Y_KKP	神奈川県	3,724,844	2004	16,000	14	2	2	4	①
42	14Y_RBS	神奈川県	3,724,844	2004	60,936	30	2	3	5	②
43	14K_NCT	神奈川県	1,475,213	1997	10,359	13	1	3	4	①
44	15N_FNE	新潟県	130,190	2009	18,200	8	2	2	4	②
45	15N_FNW	新潟県	130,190	2010	11,480	18	2	2	4	②
46	16T_KRR	富山県	418,686	2015	26,792	10	1	2	3	②
47	16T_TSP	富山県	418,686	1989	22,702	7	3	2	5	①
48	16N_WWT	富山県	172,125	2004	31,500	14	2	3	5	①
49	17K_OIK	石川県	465,699	2009	17,349	5	1	1	2	②
50	18F_AOS	福井県	265,904	2007	33,170	10	2	2	4	②
51	20N_GIP	長野県	377,598	2015	4,593	4	1	2	3	①
52	20L_THH	長野県	101,581	2001	14,010	10	1	3	4	②
53	20S_MZP	長野県	67,135	2003	23,941	8	1	2	3	②
54	22S_AOT	静岡県	704,989	2010	40,793	25	1	2	3	②
55	22S_PSB	静岡県	704,989	2004	24,000	21	2	2	4	①
56	22N_NYT	静岡県	797,980	2001	28,455	3	1	2	3	①
57	22H_ZZH	静岡県	797,980	2001	64,183	17	1	2	3	①
58	23S_PRT	愛知県	129,046	2004	13,760	6	4	1	5	②
59	23T_SGK	愛知県	202,302	1998	45,460	13	1	2	3	①
60	26N_BBO	京都府	80,090	2005	13,000	8	1	1	2	②
61	27O_ABB	大阪府	2,691,185	1987	101,244	17	1	3	4	②
62	27T_RCO	大阪府	395,479	2003	51,832	7	4	2	6	②
63	28A_PPO	兵庫県	293,409	2016	65,848	34	3	3	6	②
64	28A_ASP	兵庫県	293,409	2001	91,198	14	2	2	4	②
65	28K_KUP	兵庫県	267,435	1998	10,677	2	2	1	3	②
66	28T_PPM	兵庫県	224,903	1999	16,700	6	3	3	6	②
67	28K_ASK	兵庫県	156,375	1989	74,212	6	2	1	3	③
68	29K_RBO	奈良県	24,215	2004	68,750	11	1	4	5	②
69	33T_ARN	岡山県	103,746	1999	72,000	8	2	1	3	②
70	36T_AMK	徳島県	258,554	1983	87,653	11	3	4	7	②
71	37T_TMS	香川県	420,748	2004	103,264	30	3	2	5	②
72	38I_HBM	愛媛県	158,114	2016	3,310	4	3	1	4	③
73	40K_KMS	福岡県	961,286	2001	91,206	12	4	4	8	②
74	40F_HRB	福岡県	1,538,681	1999	154,368	13	1	3	4	①
75	40F_AKF	福岡県	1,538,681	1995	97,493	14	2	2	4	②
76	40K_KSP	福岡県	304,552	2016	33,748	6	3	1	4	③
77	41S_ESP	佐賀県	236,372	1998	22,930	12	3	4	7	①
78	43K_MTP	熊本県	740,822	2012	52,473	6	3	3	6	①

## 2.2. 官民複合建築の用途構成による類型化

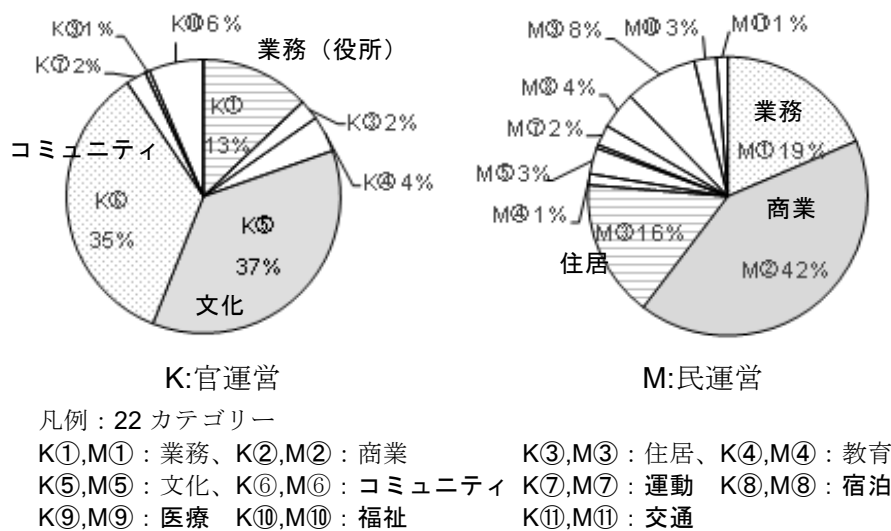
建築物の用途を、国土交通省告示 15 号を参考に、「業務」、「商業」、「住居」、「教育」、「文化」、「コミュニティ」、「運動」、「宿泊」、「医療」、「福祉」、「交通」の 11 種類に分類した。本研究では告示による「教育施設」と「専門的教育施設」は「教育」にまとめ、「文化・交流・公益施設」はそれぞれ、「文化」と「コミュニティ」にわけた。なお、消防署、警察署などの公益施設はその特殊性から本研究では対象外とした。また、物流施設、工場などの生産施設、戸建住宅（併用住宅を含む）、宗教施設も対象外とした。

「業務」は事務所、銀行、庁舎等、「商業」は物販・飲食店、サービス店等、「住居」は共同住宅、寮等、「教育」は高等学校、専門学校、大学等、「文化」は図書館、ホール、劇場、博物館、美術館、映画館等、「コミュニティ」は公民館、各種支援センター、生涯学習センター、児童館等、「運動」は体育館、健康増進施設等、「宿泊」はホテル、「医療」は診療所、健診センター等、「福祉」は福祉支援センター、デイサービス、保健センター、保育所等、「交通」はバスターミナル等とした（表 2.2.1）。

表 2.2.1 建築物の用途区分表

業務	商業	住居	教育	文化	コミュニティ	運動	宿泊	医療	福祉	交通
事務所	店舗・物販	賃貸共同住宅	高等学校	博物館	公民館	体育館	ホテル	診療所	老人福祉施設	バスターミナル
銀行	飲食・レストラン	分譲共同住宅	専修・専門学校	美術館	集会場	武道場			デイサービス	
郵便局	サービス店		大学	劇場	交流センター	プール			保健福祉センター	
庁舎	ショールーム			ホール	支援センター	健康増進施設			福祉支援センター	
出張所	スーパーマーケット			多目的ホール	生涯学習センター	フィットネスクラブ			保育所	
	コンビニエンスストア			図書館	児童館				ケアハウス	
	百貨店			映画館	研修室・会議室					
	ショッピングセンター			ギャラリー	音楽室・キッチン					

官民複合建築の用途について傾向を分析する。官運営は「文化」「コミュニティ」がほぼ同じ割合で72%（両方あるものが36%（75/208事例））を占め、民運営は「商業」「業務」「住居」の順で合計77%を占める。用途数は最小2～最大9用途であった。1官民複合建築あたり平均3～4用途（合計61%）を配置している（図2.1.1）。



官民運営別でみた用途の割合

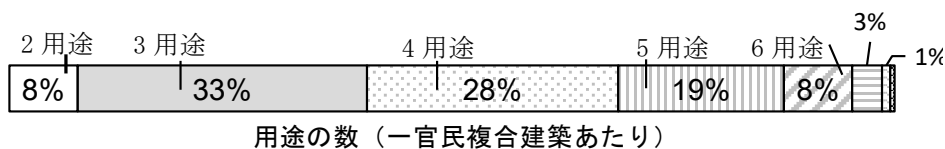


図 2.2.1 官民複合建築の用途の割合と用途の数

次に、分析対象78事例について、用途の22カテゴリーの有無を類似度するクラスター分析（最遠隣法）を行った。融合距離15.8付近で類型化した結果、C1～C4の4タイプに類型した（図2.2.2）。

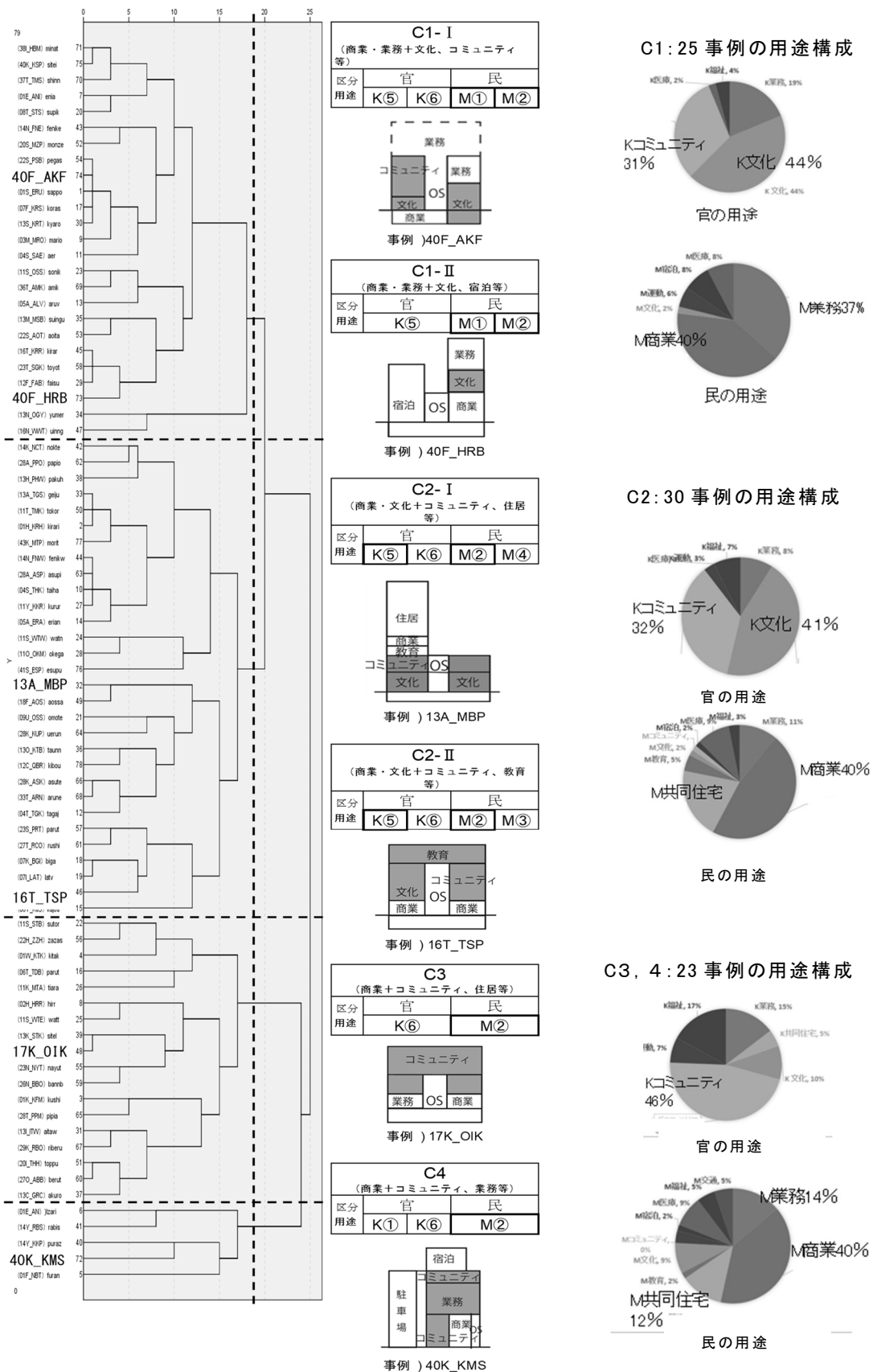


図 2.2.2 官民運営の用途から分析したクラスター図



C1(商業・業務+文化、コミュニティ等)タイプ：  
 「商業」「業務」に「文化」や「コミュニティ」等の構成で「住居」「教育」が無い構成である。さらに「宿泊」を有するより複雑な構成の事例もある。

C2(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等)タイプ：  
 「商業」「文化」に「コミュニティ」や「住居」または「教育」等の構成である。

C3(商業+コミュニティ、住居等)タイプ：  
 「商業」に、「コミュニティ」等の構成である。さらに「住居」が有る事例もある。

C4(商業+コミュニティ、業務等)タイプ：  
 「商業」に「業務(役所)」や「教育」「宿泊」等で構成される複雑な事例もある。

図右に、タイプ別に代表事例の断面構成と用途構成の割合を示す。なお、本研究では、C4タイプは事例数が少なく、用途が「商業」の構成であることから同じく「商業」の構成であるC3タイプのグループと合わせてC3・4(商業+コミュニティ、住居 or 業務等)として分析をおこなう。

タイプ別による所在地域別(表 2.2.2)では、分布に極端な偏りがないことを確認した。

表 2.2.2 タイプ別官民複合建築の所在地域別

タイプ	北海道	東北	北陸	南関東	北関東 甲信	東海	近畿	中国 四国	九州 沖縄	計
C1	2	4	3	5	2	3	0	3	3	25
C2	1	6	3	10	1	1	5	1	2	30
C3・4	4	2	1	8	1	2	4	0	1	23

## 2.3 建物の運営と利用実態

### 2.3.1 管理者アンケート調査の概要

管理者アンケートの実施時期は2018年10月1日から2020年10月30日である。

管理者アンケート回答者の属性について、①民間管理会社、②管理組合・共同企業体、③行政に分類した（図2.3.1）。

管理会社、管理組合、共同企業体の所属が94%を占めた。

アンケート回答状況（答えられないとした範囲）について、行政と民間管理会社との間に違いは見られなかった。

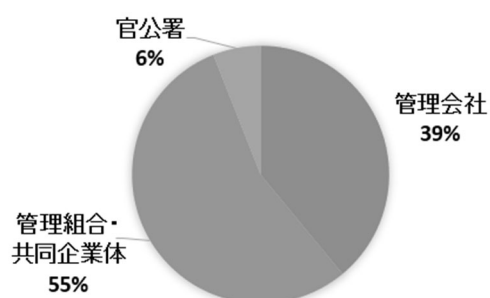


図 2.3.1 アンケート回答者の所属

回収した調査票から、「運用時期」、「管理運営体制」、「入場者の総人数」、「施設利用者の年代」、「施設運営で効率的な点」、「建物運営で不都合、非効率な点」、「改善の必要な場所」、「混雑する場所」、「あるとよい施設」、「建物の総合的な印象」を抽出した。

管理者アンケートの各設問に対する自由記述の回答文についてキーワード（例：利便性が高い、利便性がある等）をもとに分類し、タイプ別に整理して相対的な割合から分析した。

### 2.3.2 管理者アンケートによる官民複合建築の利用実態

「入場者の総人数」「施設利用者の年代」に関する設問の回答率は全体の58%（回答46事例）であった。

C1（商業・業務+文化、コミュニティ等）タイプ：14事例、

C2（商業・文化+コミュニティ、住居、教育等）タイプ：23事例、

C3・4（商業+コミュニティ、住居 or 業務等）：9事例、

無回答：32事例（無回答には「調査していない」の回答を含む）であった。  
このデータを基にタイプ別の施設利用実態を把握する。

#### 入場者の総人数：

曜日毎の入場者の総人数は全体的に土曜と日曜日が7割以上を占め、平日は少ない（図2.3.2）。C1タイプは業務系に劇場・ホールを有するものが多く、土日に公演があり施設への集客効果がみられる。C2タイプは、平日、土・日曜日にかかわらず、常時施設を利用されている。これは、図書館を含むものが多く（15/30事例）、平日の施設の利用状況に影響していると推測する。C3・4タイプは商業系の構成であり、日曜日の利用が多い。また映画を有するもの（5/23事例）もあり、一定の集客効果がある。

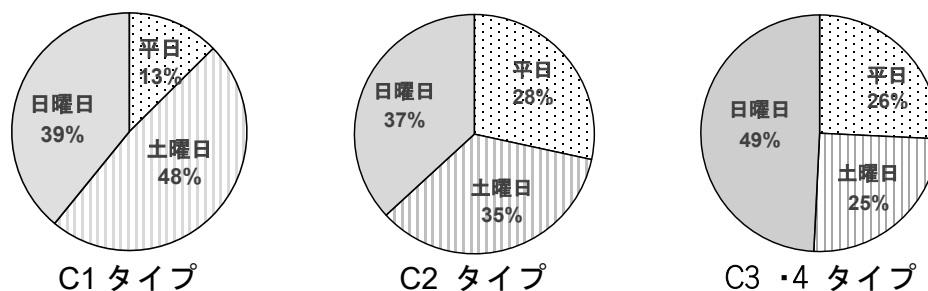


図 2.3.2 管理者アンケートによる曜日別入場者の総人数（類型別）

### 施設利用者の年代：

利用者は全体的に 30～60 代 40～47%で最も多い（図 2.3.3）。小学生、未就学児はC1タイプが4%と最も少ない。これは劇場、ホールなどは利用しづらく、小学生、未就学児が利用できる施設が少ない。その他は、タイプ別に大きな違いはなく、一定の割合でどの年代も施設を利用していることがわかる。

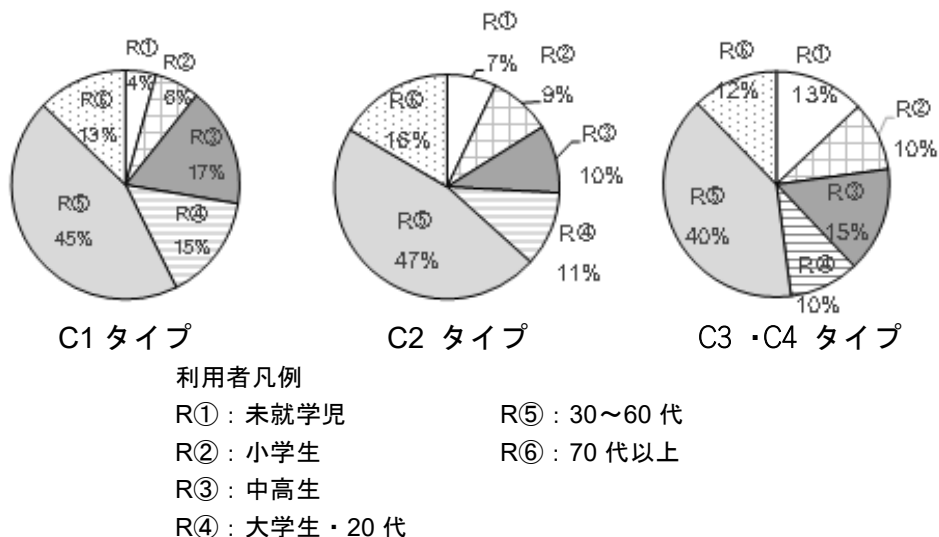


図 2.3.3 管理者アンケートによる建物利用者の年代（類型別）

### 複合建築の効率的な点：

設問に対する回答率 80%（回答 63 事例、無回答 15 事例：「特になし」を含む）であった。「利便性が高い」の回答が 25 事例で 3タイプ 28～37%で最も指摘された。複数の施設を利用できること、駅前にあることを理由にあげている。

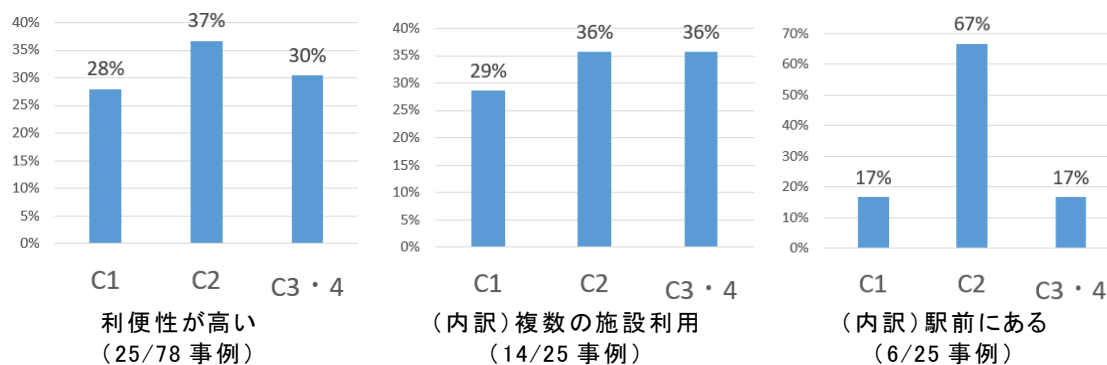
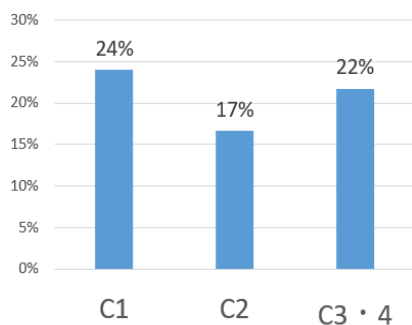
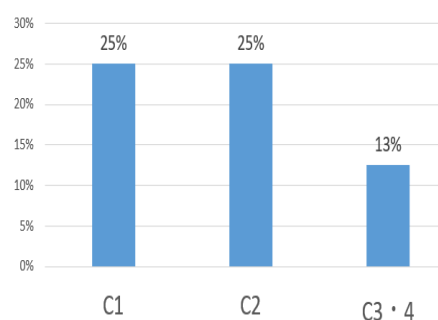


図 2.3.4 複合建築の効率的な点（第1位）

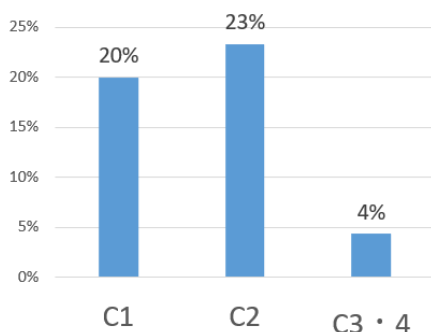


管理しやすい(16/78 事例)

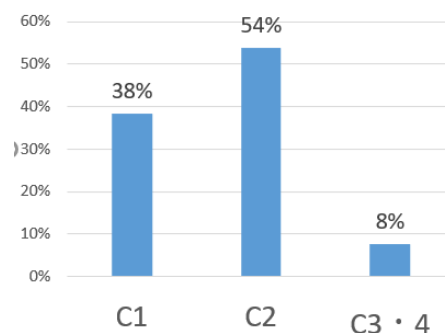


(内訳)一括管理ができる(10/16 回答)

図 2.3.5 複合建築の効率的な点 (第 2 位)



相互利用ができる(13 事例)



(内訳)諸室が相互利用ができる(10/13 回答)

図 2.3.6 複合建築の効率的な点 (第 3 位)

次に多い「管理しやすい」は、建物全体の清掃、設備維持、警備業務、総合窓口を一括管理または委託できることを回答の 62% (10/16 回答) があげている。

3 番目に多かった「相互利用ができる」は、会議室等の諸室が「相互利用」できることの割合が高かった。

特に C2 (商業・文化+コミュニティ、住居、教育等) タイプは「複数の施設が利用できる」「会議室等の相互利用ができる」の割合が高いことから、図書館やコミュニティ施設などの公共施設とその他の施設がひとつの建物に複合することで利用しやすい環境であることが伺える。

その他、維持管理コストが低減できる、集客効果が高い、幅広ニーズに応えられるといった回答があった。

### 複合建築の不都合、非効率な点：

設問に対する回答率 84%（回答 63 事例、無回答 12 事例：「特になし」を含む）であった。

総回答数 84 のうち、「行先が複雑、EV 等が混雑する」が 3 タイプ 34 事例で最も指摘された。

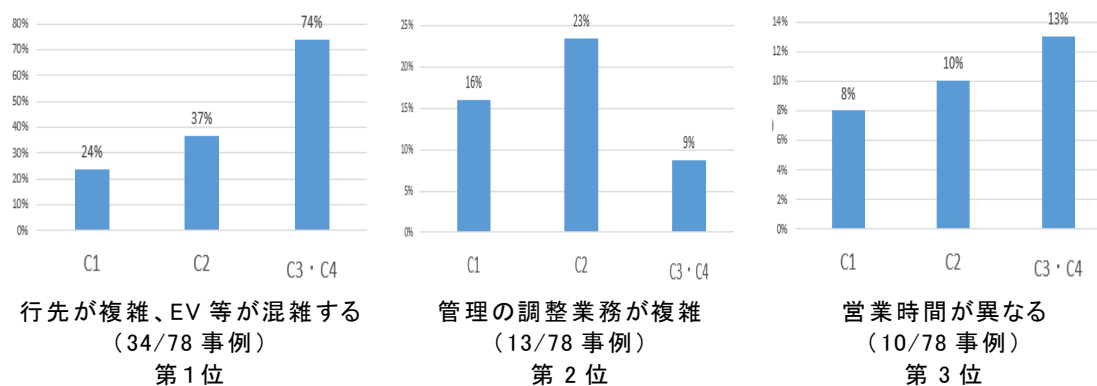


図 2.3.4 複合建築の不都合、非効率的な点

「商業」や「業務」「住居」「文化施設」など異なる用途は各専用エレベーターの配置、各用途の平面構成の複雑化で、案内表示がわかりにくいと考えられる。

また、第 2 位の「管理の調整業務が困難」は、区分所有が複数にまたがるため、資産の管理や各調整が複雑であることをあげている。

第 3 位は、各施設の「営業時間が異なる」ことでエネルギー効率の悪さや施設運営のしにくさが指摘されている。

その他、区分所有により設備の管理が複雑になることや、イベント時やエントランスホールからの発生音が、図書館のように静寂な環境を求める施設に漏れるという回答がみられた。

各施設の管理業務を一括で行える効果的な点がある反面、各施設の管理者等複数の関係者が多く、改修やイベント開催等に、それぞれの施設に対しての合意形成に時間がかかることもあげられている。

### 改善が必要と思われる場所：

設問に対する回答率 69%（回答 54 事例、無回答 24 事例：「特になし」を含む）であった。総回答数 100 のうち、非効率な点と同様に「行先・案内表示」について 3 タイプ 24 事例で最も指摘された。

特に C 3・4（商業+コミュニティ、住居 or 業務等）タイプは、エレベーター等の垂直方向の動線の不足から混雑が生じるとの指摘があげられている。

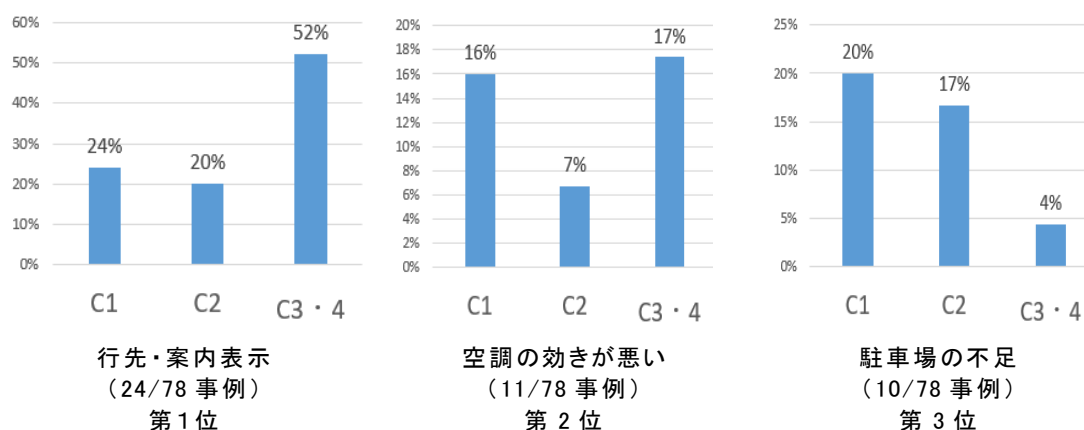


図 2.3.5 複合建築の改善が必要と思われる場所

また、第 2 位の「空調の効きが悪い」は、アトリウム等の吹抜け空間やガラス張りの空間など冷暖房の効果が悪いことが指摘されている。

第 3 位の「駐車場不足」は、特にイベント時に足りなくなることが指摘されている。

その他、休憩スペースの不足、トイレの不足があげられていた。

### あると良い施設：

設問に対する回答率 57%（回答 45 事例、無回答 33 事例：「特になし」を含む）であった。

総回答数 59 のうち、3 タイプ共通に「飲食施設」「休憩スペース」「授乳室・託児所・遊び場」の回答があった。

その他、イベントスペース、総合案内の回答があった。

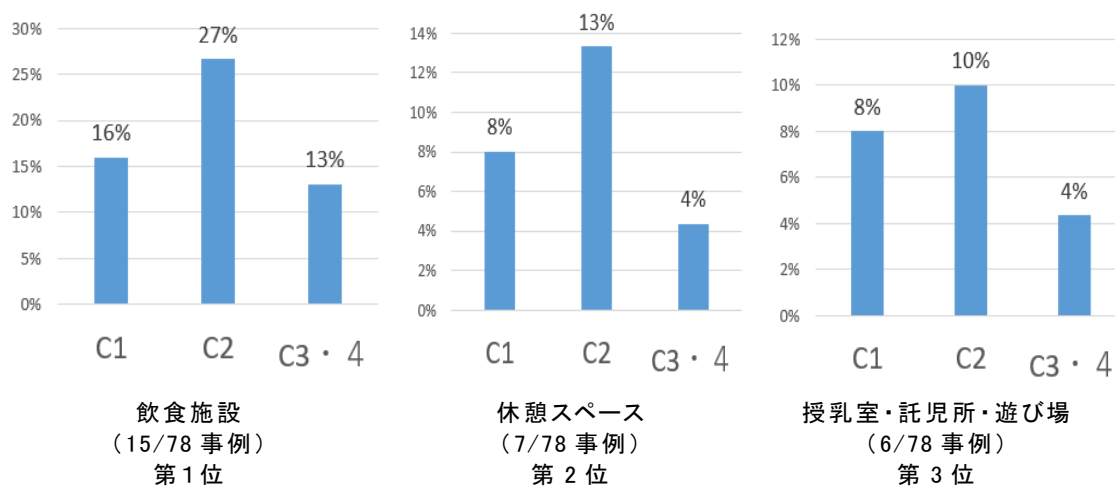


図 2.3.6 あるとよい施設

C2（商業・文化+コミュニティ、住居、教育等）タイプでは、座って滞在できる飲食スペースや休憩所等の空間がより必要と指摘されている。

#### 混雑する場所：

設問に対する回答率 93%（回答 73 事例、無回答 5 事例：「特になし」を含む）であった。総回答 113 のうち、特に「水回り」「玄関ロビー」「エレベーターホール」が 59%を占め、理由はイベント開催時に混雑するという回答が 20%（15/73 事例）であった。

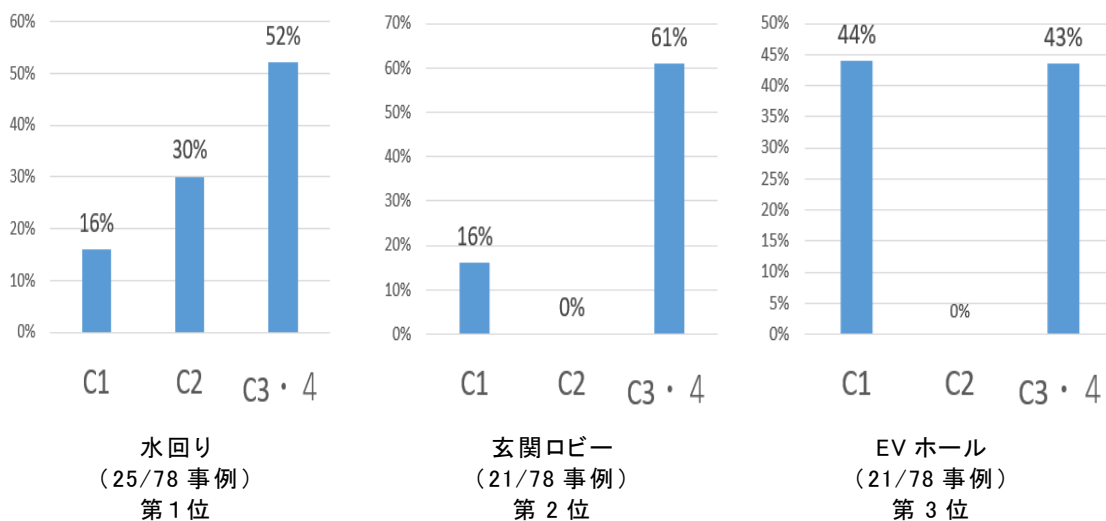


図 2.3.7 混雑する場所



そのほか、「喫煙所」、「ラウンジ」、C2（商業・文化+コミュニティ、住居、教育等）タイプは、「アトリウム」の回答が23%あった。

### 館内動線の問題点：

「建物形状が複雑」「縦動線（エレベーター等）が複雑」「出入口が複数ある」「案内表示が分かりにくい」「棟が分かれている」の5項目に分類した。ひとつの建物内に複数の施設が分散することによって、行き先がわかりにくい場合がみられた。特に、「施設の出入口やエレベーターの場所がわかりづらく施設利用者が館内を迷うことがある」との回答が5割で（9/18事例）最も多い。

表 2.2.4 館内動線の問題点

建物形状が複雑	5 (2)
縦動線（エレベーター等）が複雑	5 (2)
出入口が複数ある	3 (3)
案内表示が分かりづらい	3 (1)
棟が分かれている	2 (1)

回答数 18 (9)

( ) は「利用者が迷いやすい」の回答数

### 建物の総合的な印象：

内観印象は「やや不満」「不満」の割合が20%（12/60事例）を占め、老朽化や空間の不足、暗い印象であることが指摘された。外観印象は「満足」「やや満足」が70%（42/60事例）を占め、目立つという回答が多い。デザインや建物規模によって目立った外観であることで、町のシンボルとなり多くの人は親しみを感じており、集まり賑わう傾向にあると考えられる。

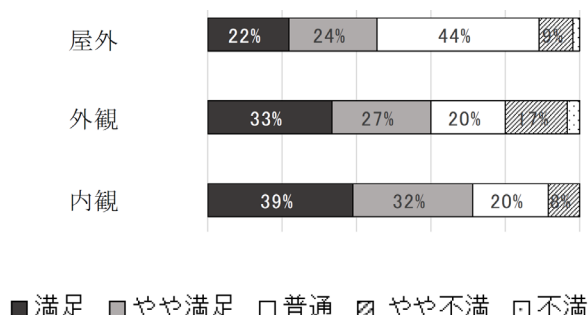


図 2.3.8 総合的な印象

## 2.4 まとめ

今回対象とした 78 事例は、人口約 2 万人から 370 万人の都市で運営されている。公共施設及び民間運営のサービスにおける用途構成は、各建物規模に大小の違いはあるが、地域や人口別に特段の違いはみられなかった。

なお、断面構成・平面構成の特性を具体的に捉えるには、詳細な図面が得られなかった為、詳細な分析は今後の課題とする。

官民複合建築は大規模建築の建設可能な立地と交通アクセスが便利な駅周辺に建設されている。駅周辺は、自家用車利用の多い地方都市では駐車場不足の指摘もあるが、予測されている将来の高齢者化社会を鑑み、公共交通ネットワークが変化する可能性がある。しかも公共交通の発着場の付近に配置することで利用しやすく集客を促すと考える。

駅前ロータリーやペDESTリアンデッキでは、街のお祭りなどのイベント空間として活用される事例もあり、官民複合建築はこれら広場等を意識した建物へのアプローチの計画も重要と考える。

用途は多岐にわたり、3 以上の施設の組み合わせが多かった。複数の施設が利用できるの「利便性が高い」との評価であった。それぞれ求められる設計条件が異なるが、例えば会議室を共有で使用するなど施設スペースの効率がはかれる利点もあげられている。

また、管理者アンケートから商業等のテナント誘致は経済に左右されるが集客効果がみられるとの回答が多かった。

### C1(商業・業務+文化、コミュニティ等) タイプ：

EV ホールが混雑するとの指摘が一番多かった。業務系を有するこのタイプは、朝夕の通勤時に人々が EV ホールに集中することが理由のひとつであると推測する。また、低層部が商業や文化、高層部がオフィスで構成され、高層階エレベーターと低層階エレベーターの配置により、管理の複雑さを指摘する事例がある反面、行く先が複雑であるとの回答はタイプ別では一番低かった。

### C2(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等) タイプ：

図書館やコミュニティ施設などの公共施設は会議室などの諸室が相互利用できるとの回答が多かった。区分所有により管理の調整業務が複雑であることをタイプ別では一番多く指摘していたが、施設の複数利用ができ、地域に密着しているとの回答もあった。あるとよい施設では飲食できる休憩スペースと授乳

室などの回答がタイプ別のなかでは一番多かった。

#### C3・4（商業+コミュニティ、住居 or 業務等）タイプ：

商業中心の施設構成により、幅広い年代が利用している。営業時間が異なることによる管理の非効率な点をあげている。イベント開催時におけるトイレ等やEVホール、玄関ホールの混雑をあげているのがタイプ別では一番多かった。計画にあたっては空間にゆとりが必要と考える。例えば、現地調査では子育て支援のイベント時には多くのベビーカーがなかなかエレベーターに乗れずエレベーターホールの混雑がみられた。

建物竣工から平均 17 年たち、今後設備の老朽化に伴う改修にあわせて施設構成についても再検討の視野にある。

官民複合建築における管理者アンケート調査から現状を把握することができた。官民複合建築では複数の施設が利用できる「利便性の高さ」が管理者の評価が高い結果となった。その反面、専用エレベーターや営業時間が異なるエレベーターによる動線の複雑さや出入口が複数あることで、「利用者は迷いやすい」、「管理者は管理が複雑」と各タイプ共通の課題としてあげられている。

さまざまな用途が複合化することにより、静寂な環境を求める施設と賑わう用途の施設やイベント時の環境が共存する場合の配置計画では各施設の出入口の位置や緩衝空間を設けるなど音に対する配慮も必要であることがわかった。

以上により、官民複合建築の施設間の相互利用や立地環境による利便性の良さ、管理者アンケートから利用実態を確認し、用途構成別に官民複合建築の空間構成の課題を明らかにした。

## 第3章

### 利用者の行動実態の分析

建物利用者に対する実態調査の概要  
利用者による利用実態  
共有空間の滞留調査からみた利用者の行動  
利用者による利用実態のまとめ  
複合建築の課題と要望

### 第3章 利用者の行動実態の分析

#### 3.1 建物利用者に対する実態調査の概要

第2章で官民複合建築 78 事例を用途構成により 4 タイプに類型化した。4 タイプのなかから、調査可能であった C1(商業・業務+文化、コミュニティ等) タイプ 2 事例、C2(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等) タイプ 2 事例、C3(商業+コミュニティ、住居等) タイプ 1 事例、C4 タイプ(商業+コミュニティ、業務等) 1 事例の合計 6 事例を利用者実態調査の対象とする。調査は次の通りである。

- ① 利用者アンケートによる利用状況の分析 (類型別 5 事例)。
- ② 滞留調査による屋内・半屋内の共有空間についての利用状況の分析。  
(類型別 6 事例)

なお、C4 タイプ 1 事例は、当初、利用者アンケート調査の承諾を得られていたが、調査直前に管理者から調査不可の連絡を受けた経緯がある。

##### 3.1.1 利用者実態調査対象の概要

調査 6 事例の用途構成と概要を示す (表 3.1.1, 3.1.2)。

表 3.1.1 調査対象の用途

タイプ	建物符号	官運営の用途						民運営の用途						用途計
		業務	住居	教育	文化	コミュニティ	福祉	業務	商業	教育	運動	宿泊	交通	
C1	AKF	●			●	●		●	●					5
	HRB				●			●	●		●			4
C2	AMP		●		●	●			●	●				5
	TSP			●	●	●	●		●		●			7
C3	OMI					●			●					2
C4	KST	●			●	●	●		●	●		●	●	8

表 3.1.2 調査対象の概要

タイプ	建物符号	地域	竣工年	延べ面積(m <sup>2</sup> )	階数(地上)	駅からの位置	立地・周辺環境			断面構成	コア形式	
C1	AKF	九州	1995	97,493	14	N3	L1	L2	E2	S1:積層集結	P2:センターコア	
	HRB	九州	1999	154,368	13	N1	L1	L2	E3	S4:平面積層	P4:分散コア	
C2	AMP	東京	2000	32,459	21	N4	L1	L2	E3	S1:積層集結	P1:片側コア	
	TSP	北陸	1989	22,702	7	N2	L1	L2	—	S1:積層集結	P4:分散コア	
C3	OMI	北陸	2009	17,349	5	N4	L1	L2	—	S1:積層集結	P1:片側コア	
C4	KST	九州	2001	91,206	12	N2	L1	L2	L4	E1	S1:積層集結	P4:分散コア

凡例: N1:駅直結 N2:徒歩5分未満 N3:徒歩5分以上 N4:バス・車等

L1:角地 L2:大通り L4:駅前ロータリー E1:ペDESTリアンデッキ E2:公園 E3:水辺

## C1-I (商業・業務+文化、コミュニティ等) タイプ 事例①

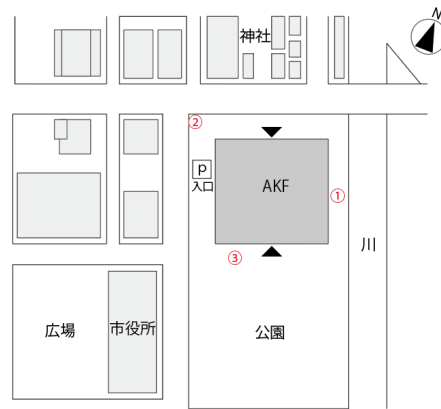
建物符号：AKF

「国際・文化・情報の交流拠点」として、旧県庁跡地に建設された。南側壁面緑化ステップガーデンは、建物は公園と隣接し、イベントなどの一体利用がはかられている。また、東側は川の遊歩道に隣接している。建物周辺はオフィスや商業施設が多く、北側大通りは1日を通して車・人の往来が多い(図3.1.1)。

各階現地確認をした上で、利用者実態調査(利用者アンケートに基づくインタビューと滞留調査)場所は1階共有空間:アトリウム中央でおこなった。アトリウムは地下鉄駅の地下2階から地上階まで吹き抜けてトップライトがあることで明るい空間となっている。また、アトリウムは各用途に挟まれた位置にある。



公園側 全景



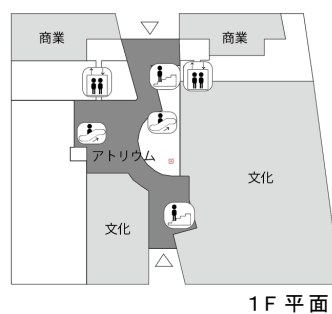
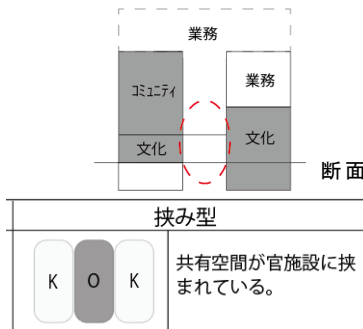
①川沿い



②正面玄関横 鉄道駅入り口



③公園側 ステップガーデン入口付近



屋内:吹抜け(アトリウム)

図 3.1.1 AKF 周辺環境、共有空間の概要



## C1-Ⅱ（商業・業務+文化、コミュニティ等）タイプ 事例②

建物符号：HRB

地域は古くから商業の中心的役割を果たしてきた場所に再開発事業として建設された。商業・業務+文化（美術館）とホテル（ブリッジでつながっている）、道路を挟んで劇場がある。南側大通りは車・人の交通量が多いが、川に隣接している通りは人通りも少なく穏やかな環境である（図 3.1.2）。

各階現地確認をした上で、利用者実態調査（利用者アンケートに基づくインタビューと滞留調査）場所は1階、業務・商業とホテルとの間の共有空間：半屋外の通路中央でおこなった。通路はホテルの出入りに面しているほか、各店舗の出入りに面している。通路はガラスの屋根がかかっている。



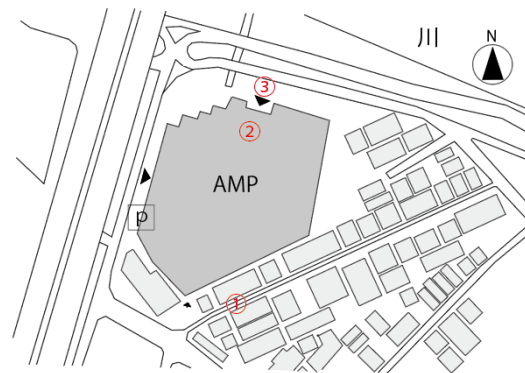
図 3.1.2 HRB 周辺環境、共有空間の概要

## C2-I (商業・文化+コミュニティ、住居、教育等) タイプ 事例③

### 建物符号：AMP

図書館、生涯学習センターと共同住宅、通信大学、飲食店を併せ持つこの建物は、街のランドマークとなっている。1階のエントランスのほか、建物北側の川の堤防から4階に設けたサブエントランスまでのアプローチ空間を、緑と柔らかいテフロン膜の屋根で演出している。周辺は低層住宅街に位置しており、川沿いの自然と相まって静かで心地よい環境である。(図 3.1.3)。

各階現地確認をした上で、利用者実態調査(利用者アンケートに基づくインタビューと滞留調査)場所は共有空間：1階ロビーと4階サブエントランスの半屋外通路でおこなった。



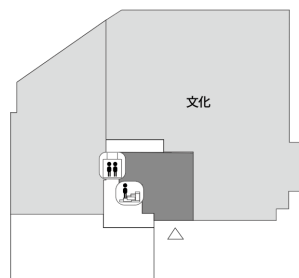
①周辺道路 住宅街



②4階 半屋外：通路



③土手側



1F 平面



屋内：広場(ホール)

図 3.1.3 AMP 周辺環境、共有空間の概要



## C2-Ⅱ(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等)タイプ 事例④

建物符号：T S P

市政記念事業の一環として建設された。芸術・文化イベントをはじめ、外国語専門学校や市民学習センターなど生涯学習の場として広く市民に利用されている。建物の東側は商店街、路面電車やバス停があり、南側は住宅が多く静かな環境である。また、西側には総合ケアセンターがある。(図 3.1.4)。

各階現地確認をした上で、利用者実態調査(利用者アンケートに基づくインタビューと滞留調査)場所は1階、共有空間：吹抜けでおこなった。アトリウムはトップライトから日が差し明るい空間であり、机や椅子の設えがある。

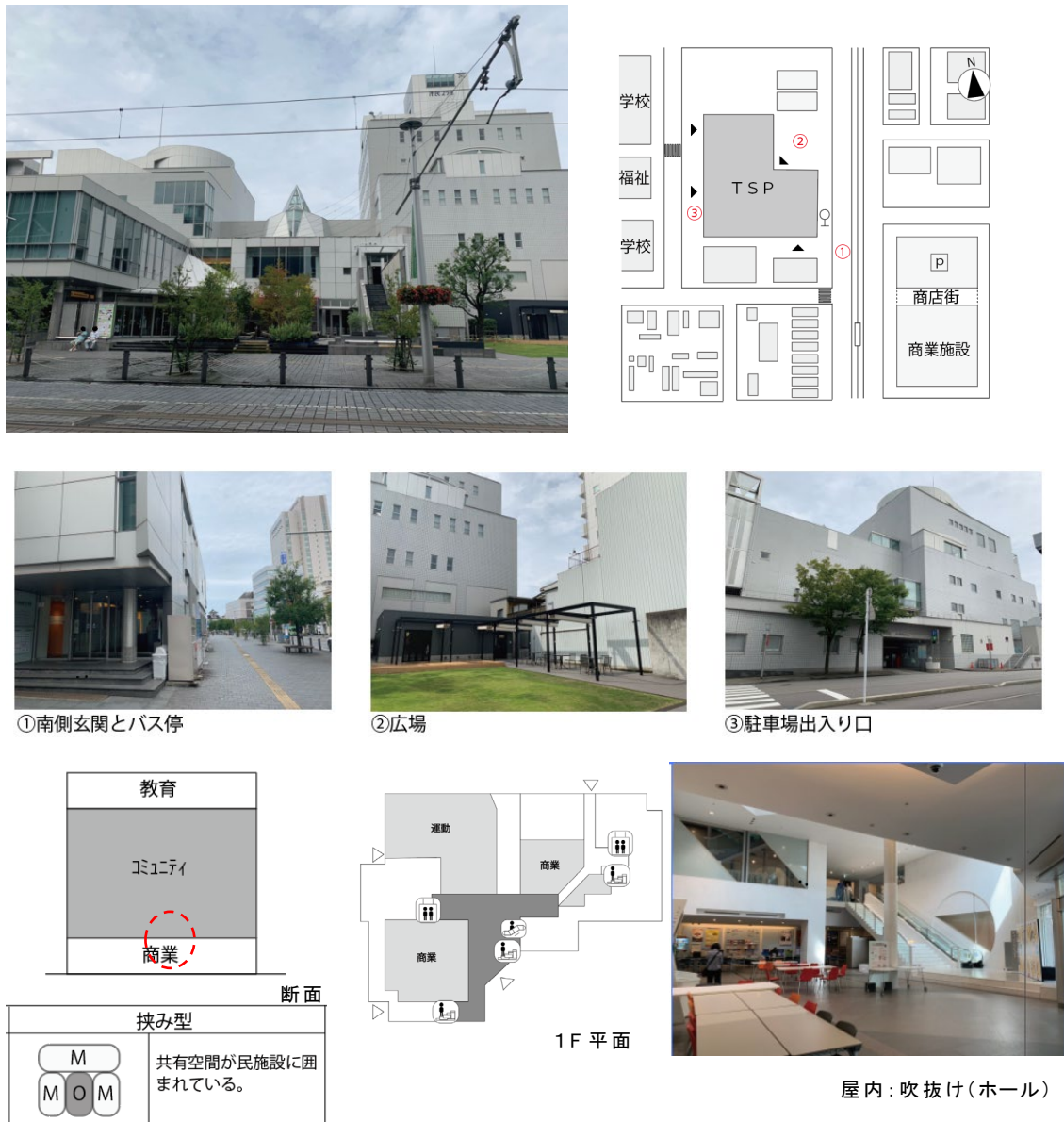


図 3.1.4 TSP 周辺環境、共有空間の概要

### C3(商業+コミュニティ、住居等) タイプ 事例⑤

#### 建物符号：OMI

“市民の台所”として親しまれている市場の原風景を維持しつつ、新たに地域交流センターを付加した再開発事業である。地元の人の利用だけでなく海外観光客の利用推進も行っている。バス利用者が非常に多く、バス停付近は1日を通して混雑している。なお、昭和7年(1932)に完成した村野藤吾設計の旧銀行本店を曳き家によって保存・再生し、再開発事業のシンボルとしている。

各階現地確認をした上で、利用者実態調査(利用者アンケートに基づくインタビューと滞留調査)場所は1階、共有空間：半屋外の広場でおこなった。半屋外の広場は椅子の設えがあり休憩スペースともなっているが、時にはイベント会場になっている。



①市場入口



②バス停付近



③銀行



半屋外: 広場

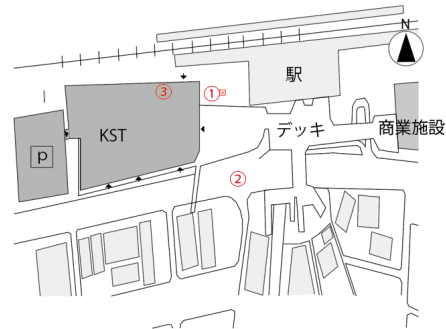
図 3.1.5 OMI 周辺環境、共有空間の概要

## C 4 (商業+コミュニティ、業務等) タイプ 事例⑤

### 建物符号：K S T

都市計画に基づき、市街地再開発事業として建設された。鉄道駅やバスターミナルを含み、多方面からのアクセスが可能である。竣工当初は、交通施設のほか、商業施設+ホテルとして開業したが、テナント誘致が難航し経営悪化により商業施設を閉鎖した。その後、フロアを行政が買い取り、2012年の改修工事によって、区役所や交流ラウンジなどの公共施設が入居した。幅広い年齢層が利用している。周辺は商業施設と商店街があり、駅とはペDESTリアンデッキと3階でつながっている。

各階現地確認をした上で、利用者実態調査（利用者アンケートに基づくインタビューと滞留調査）場所は1階、共有空間：半屋外の広場でおこなった。



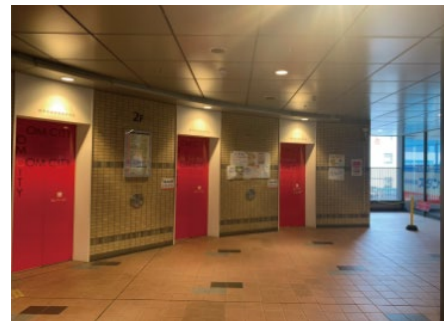
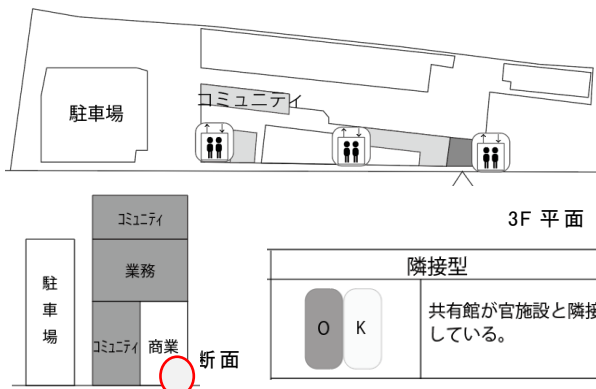
①3階デッキ 飲食店



②周辺道路



③バスターミナル



半屋外：広場

図 3.1.6 KST 周辺環境、共有空間の概要

### 3.1.2 利用者アンケート調査票

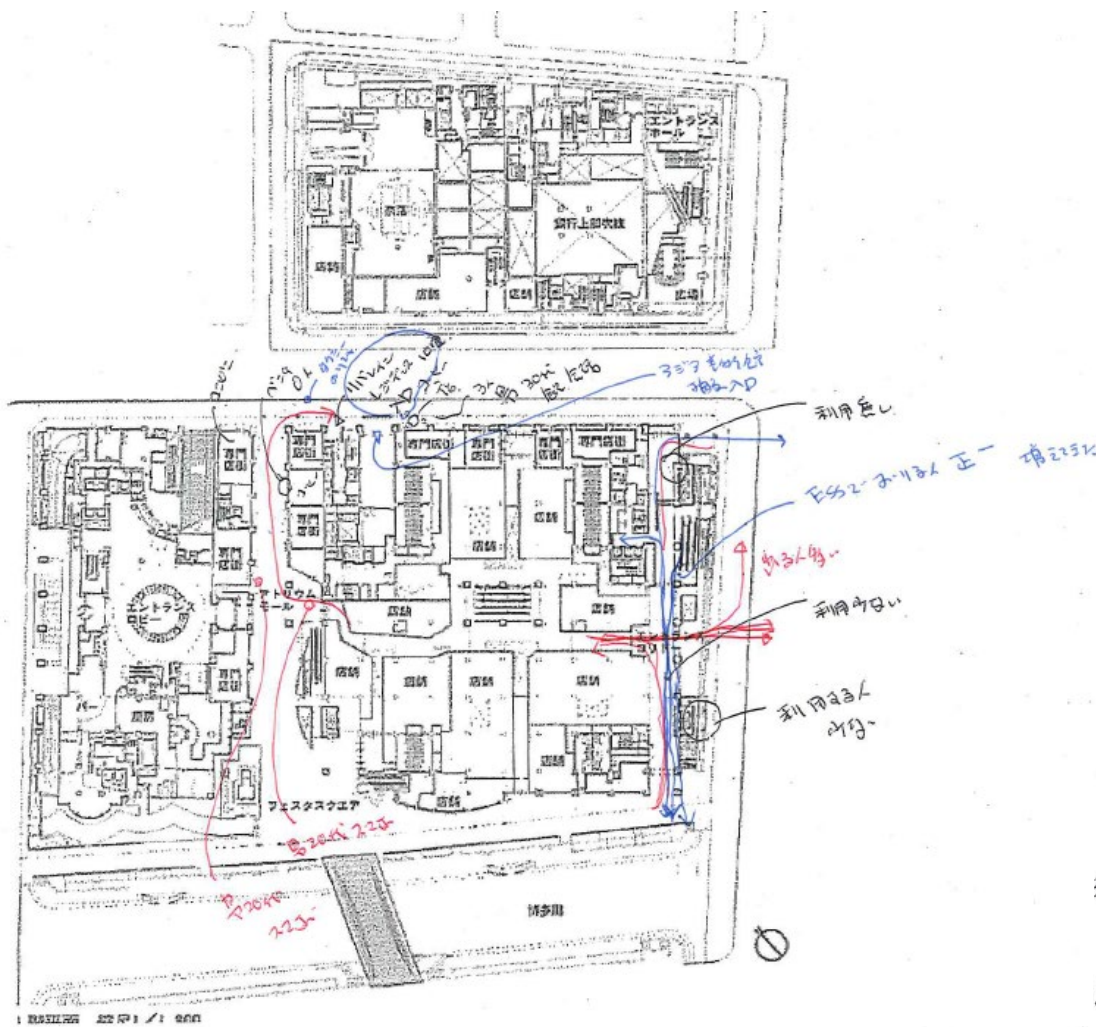
事業者アンケートの回答では平日の利用が少ないことから、主に大規模なイベントが開催されない平日・土曜日に建物利用者へアンケート調査を実施した。調査項目は、施設の利用頻度や滞在時間などの利用状況、改善点や気に入る点といった空間的特徴、外観内観の印象評価についてである。調査方法は調査を承諾したひとりひとりにアンケート調査票の内容をインタビュー方式で質問し、その回答を調査票に書き入れる方式とした。以下にアンケート調査票の内容（表 3.1.2.1）を示す。なお、アンケートは調査対象ごとに用意した。

表 3.1.2.1 利用者あて調査票の設問内容

回答は主に自由記述形式、複数回答可
Q 1. この施設への主な <b>訪問目的</b> を教えてください。
Q 2. どなたと一緒ですか。
Q 3. どのような <b>交通手段</b> でこの施設に来ましたか。
Q 4. <b>利用した入り口</b> を教えてください。
Q 5. この <b>施設を訪れるのは、何回目</b> ですか。
Q 6. 2回目以上訪問の方にお尋ねします。
6-1. この施設を訪れるのはいつもどの <b>時間帯</b> ですか。
6-2. この施設の <b>利用頻度</b> はどのくらいですか。
Q 7. <b>滞在時間(予定)</b> を教えてください。
Q 8. 施設内を移動する際、 <b>目的地に迷わず行くことができましたか</b> 。また、その理由を教えてください。
Q 9. 施設の利用順序を教えてください。
Q 10. この施設でもう少し <b>改善が必要</b> と思われる場所はどこですか。その理由も教えてください。
Q 11. この施設の中で、 <b>お気に入りの場所</b> は、どこですか。
Q 12. この施設について <b>外観の印象</b> はいかがですか。
Q 13. この施設について <b>内観の印象</b> はいかがですか。
Q 14. あなたの性別・年齢について教えてください。
Q 15. その他ご意見・ご感想等ご自由にお書きください。

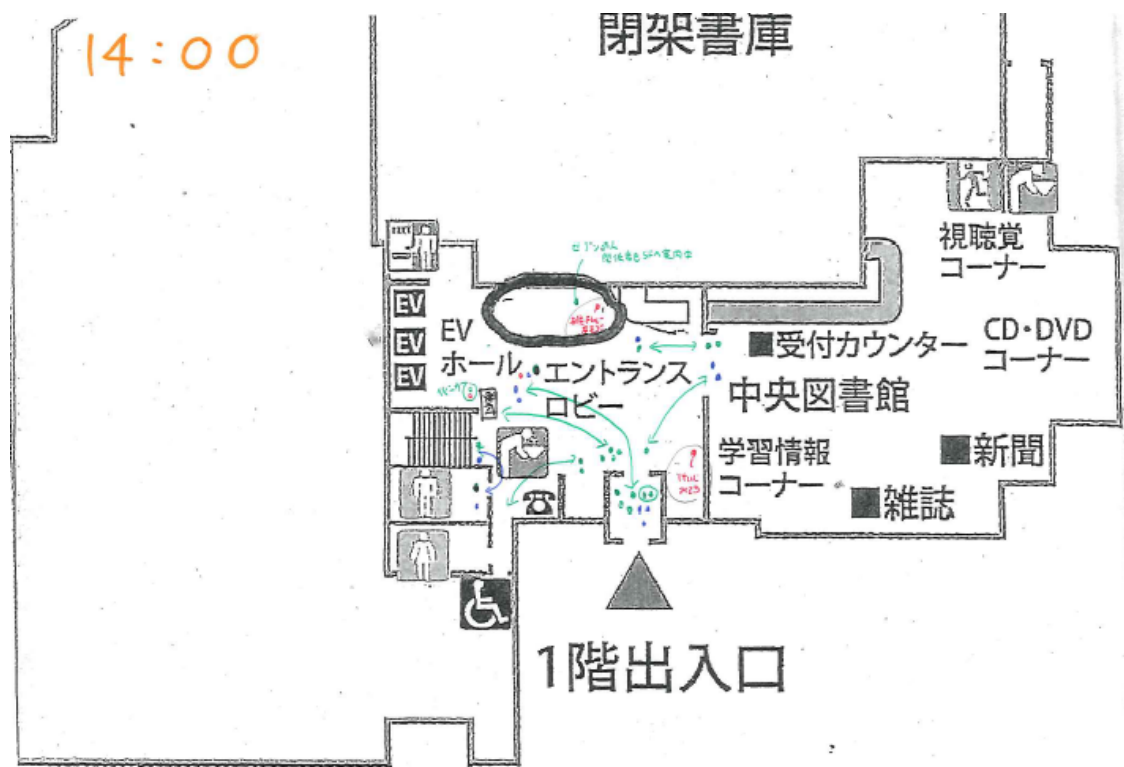






2019・09.21 15:50-16:00

図 3.1.3 C1:HRB 滞留調査シート 1階通路 (半屋外)

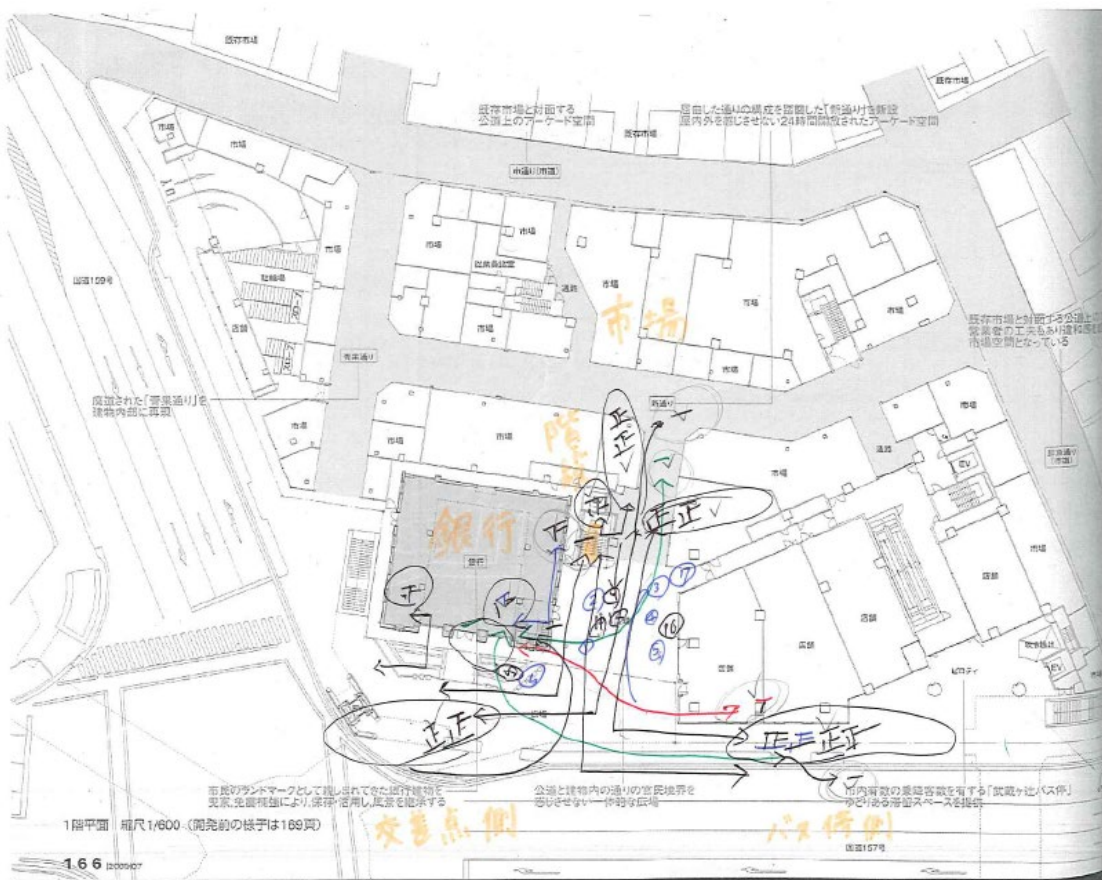


2017.10.28 14:00-14:10

図 3.1.3 C2:AMP 滞留調査シート 1階ロビー (屋内)







2019.09.05 12:25-12:35

図 3.1.3 C3:OM I 滞留調査シート 1階広場 (半屋外)



### 3.2. 利用者による利用実態

調査日、調査場所を示す（表 3.2.1）。収集した計 170 回答のアンケート結果から分析を行う。

表 3.2.1 調査日、調査場所、回答数

タイプ	建物符号	調査日	調査場所		回答人数
C1	AKF	2019年9月19日 12-17時	1階(屋内)	アトリウム	14
	HRB	2019年9月21日 10-16時	1階(半屋外)	通路	5
C2	AMP	2017年10月28日 11-17時 2017年11月18日 11-18時	①1階(屋内) ②4階(半屋外)	①ホール ②通路	109
	TSP	2019年9月4日 10-16時	1階(屋内)	吹抜け (ホール)	24
C3	OMI	2019年9月5日 11-17時	1階(半屋外)	広場	18

回答者の年齢、性別を示す（図 3.2.1）。回答者は 70 代以上が 29% で最も多かった。30 代から 60 代を集計すると 42% となり、これは事業者アンケートの設問「施設利用者の年代」の結果も 30 代から 60 代 40~47% とあり、利用者年代に同じ傾向がうかがえる結果となった。男女比は男性 52%、女性 46% とほぼ同数に近い結果となった。

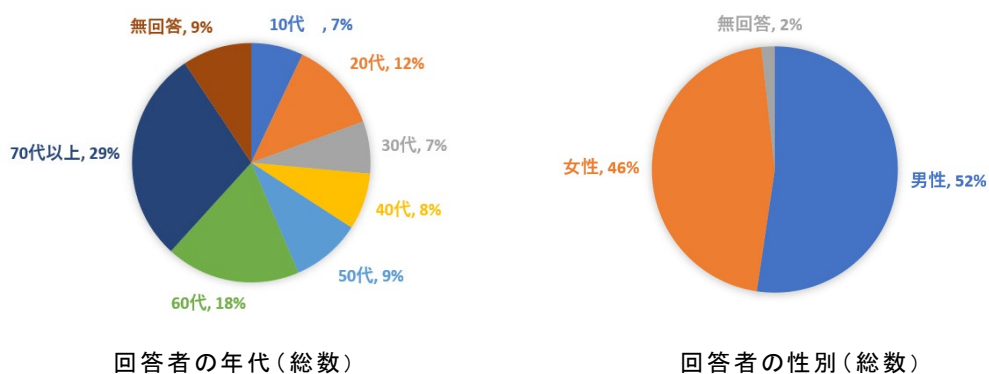


図 3.2.1 利用者アンケート回答者の年代、性別

**訪問目的：**

複合する用途により訪問目的は様々だが、休憩や待合わせ、または観光との回答があり、特に施設に用がない時にも利用されていることが伺える（図 3.2.2）。

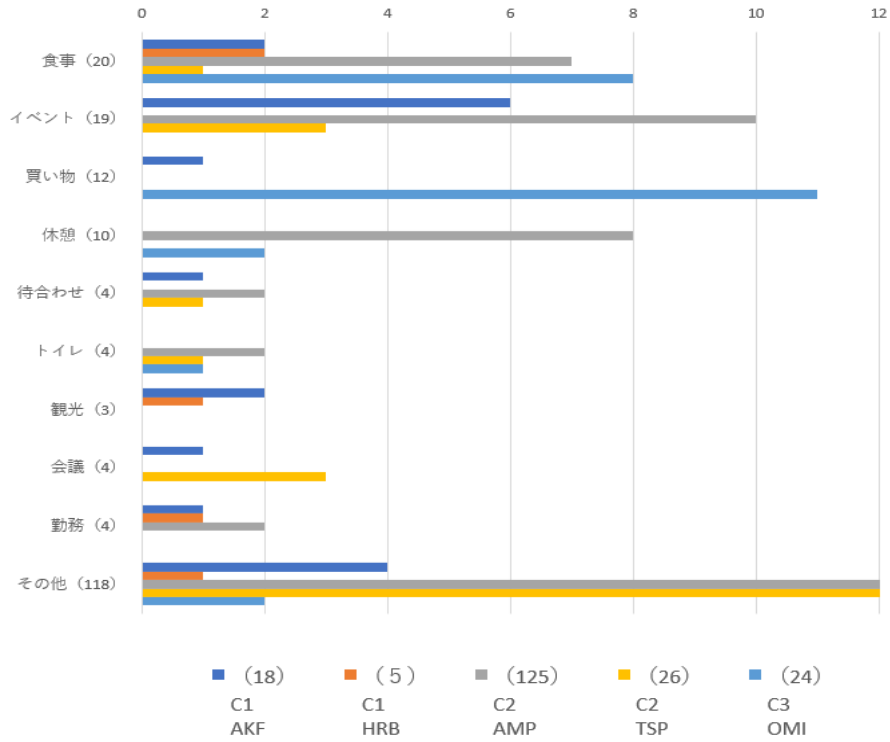


図 3.2.2 訪問目的

**訪問人数：**

各タイプともひとりが 50%以上を占める（図 3.2.3）。

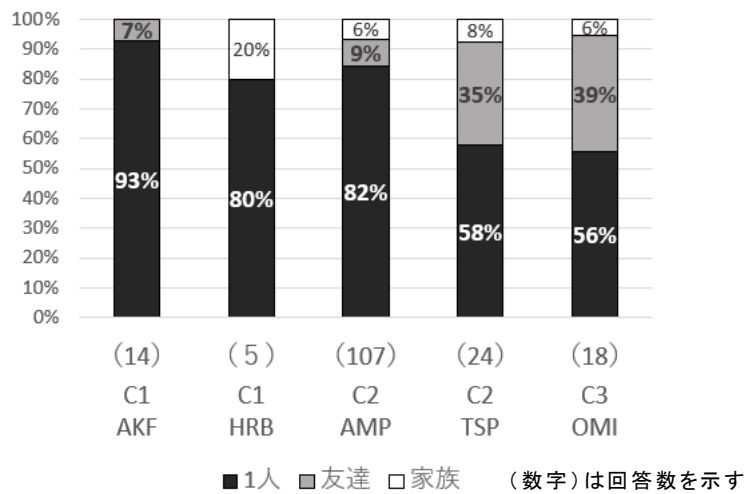


図 3.2.3 訪問人数

訪れた回数：

3回以上が70%を占めリピーターが多い（図3.2.4）。

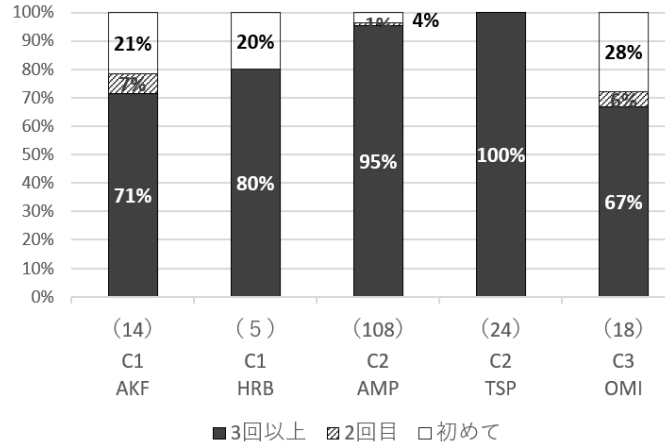


図 3.2.4 訪れた階数

利用時間帯：

午後の利用が多い。「学校」が複合する TSP は朝からの利用が非常に多い。その他は大きな差異は見られなかった（図3.2.5）。

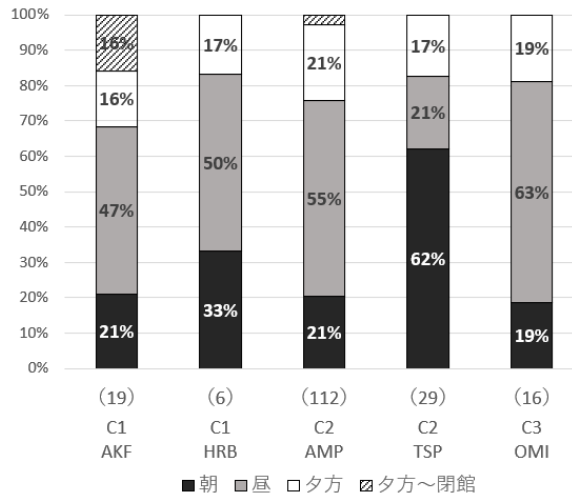


図 3.2.5 利用時間帯

利用頻度、滞在時間：

各タイプの用途構成による違いがみられた（図 3.2.6、図 3.2.7）。

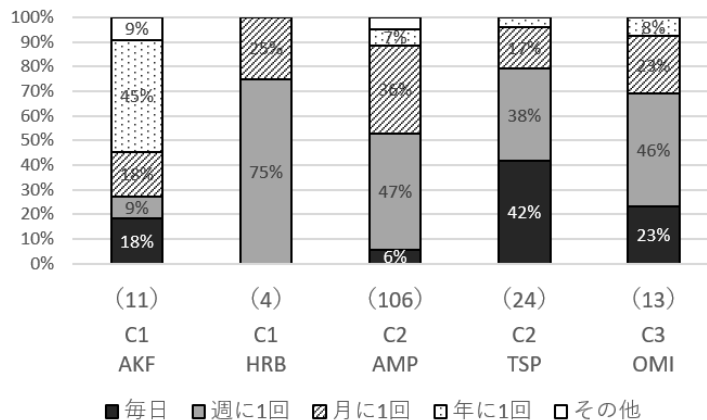


図 3.2.6 利用頻度

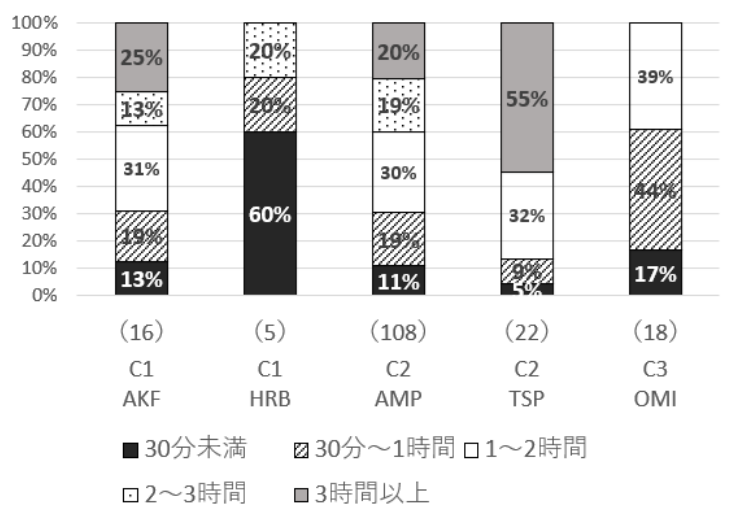


図 3.2.7 滞在時間

概ね、週 1 回、1～2 時間利用が伺える。

目的地への動線：

目的地まで迷ったが約 16% (9/55) ある。各タイプの断面構成はともに積層集結型あるいは平面積層型であるが複数用途のために専用縦動線が複雑になり、目的地に行くためのエレベーターがどれかわからないことが原因と考えられる。(図 3.2.8)

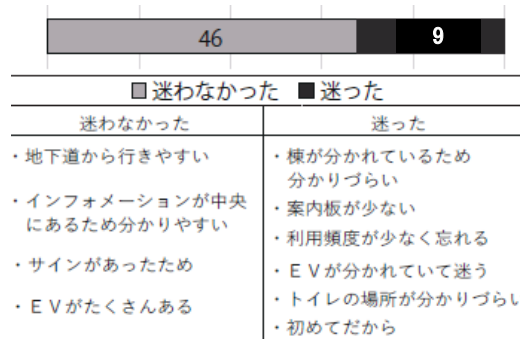


図 3.2.8 目的地への動線

改善希望の場所：

休憩スペースが各タイプとも約 20~30%を占める(図 3.2.9) 回答したうち 71%は、「広さ」の不足を指摘している。「全体」と回答したうち 48%の理由が「施設内移動」であった(図 3.2.10)。また、「トイレ」の「広さ」、「エントランス」での「音漏れ」「施設内移動」「広さ」の順で指摘されている(図 3.2.11)。

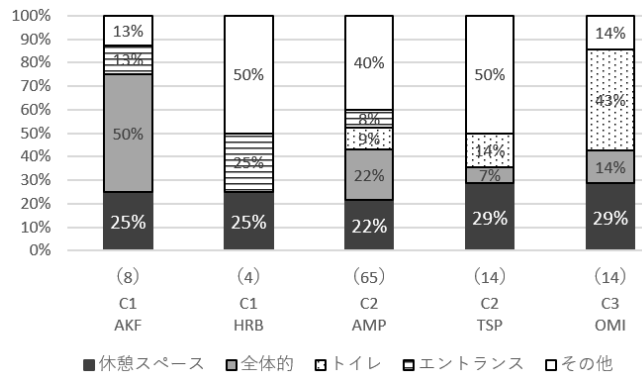


図 3.2.9 改善希望の場所

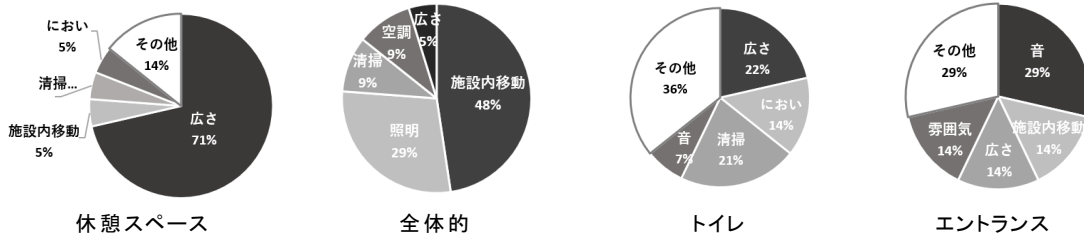


図 3.2.10 改善希望の理由

### お気に入りの場所：

「全体」との回答が各タイプに見られた（図 3.2.12）。「全体」と回答したうち理由は、「入りやすい、利用しやすい」「清潔感がある」「広い・開放的」を挙げている。

「エントランスホール」では、「清潔感がある」「広い・開放的」の順で理由に挙げていた。

また、休憩スペースでは、「快適・居心地がよい」「入りやすい・利用しやすい」であった（図 3.2.13）。

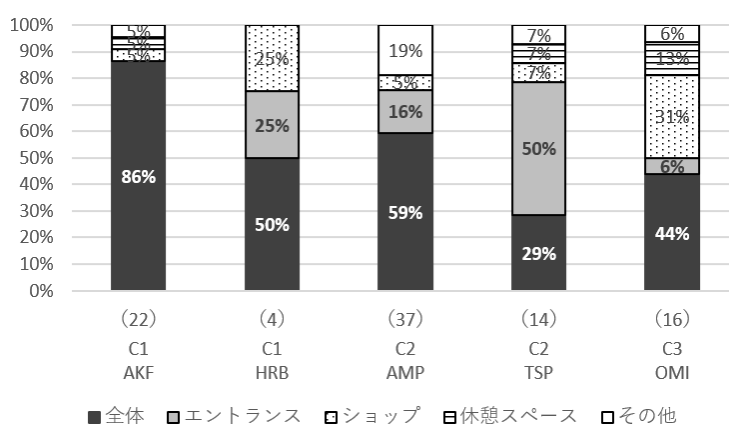


図 3.2.12 お気に入りの場所

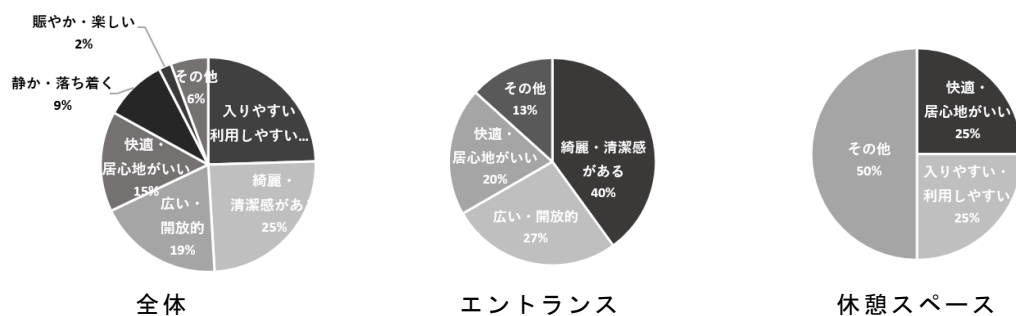


図 3.2.13 お気に入りの場所の理由



外観の印象：

「街並みと調和」「カッコいい・斬新」が全てのタイプで感じられていた（図 3.2.14）。

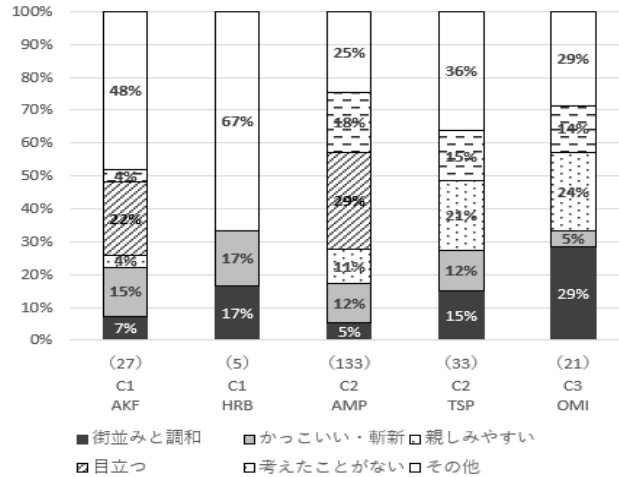


図 3.2.14 外観の印象

内観の印象：

「落ち着く」「明るい」が各タイプの共通であった。アトリウム（AKF）や吹抜け（TSP）は「開放的」ととらえられている。（図 3.2.15）。

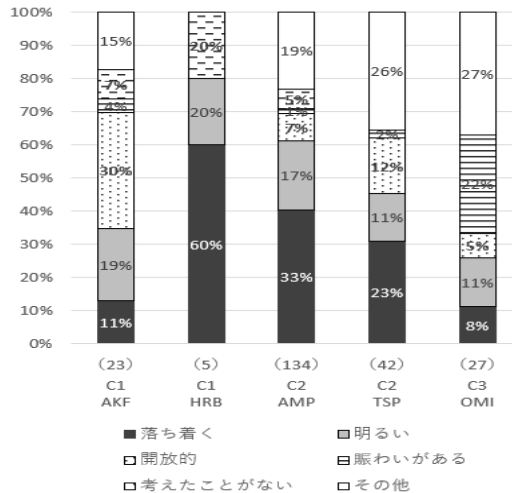


図 3.2.15 内観の印象

アンケート結果により、全てのタイプで施設の複合化による利便性の良さと建物全体に親しみを感じている評価が把握できた。一方で、館内動線と休憩スペースの不足について改善が必要と感じていることがあきらかになった。

### 3.3. 共有空間調査からみた利用者の行動

滞留調査の概要、留人数、年代、性別について示す（図 3.3.1）。

なお、AMP は平日と土曜日に滞留調査をおこなったが大きな差はみられなかった。

#### 滞留人数：

4 施設では接地階（1 階）が最も多いが、KST は駅直結の 3 階、AMP は土手に接続した半屋外エントランスの 4 階が最も滞留者が多い。椅子が設えられている空間に滞留者が集中していた。

C1(業務+文化・コミュニティ・商業) タイプは 12-13 時の昼休憩時に滞留人数が急増している。

C2、C3 タイプも昼頃に滞留者が最も多いが、1 日を通して滞留者が多い。

#### 年代：

C1(業務+文化・コミュニティ・商業) タイプは「子供」が 0~2 人と非常に少なくほとんどが 20 代以上の大人である。オフィス中心であるが、HRB は子供向け施設が複合するため、子供の利用者は AKF と比較して非常に多い。

C2(文化+コミュニティ・商業) タイプは図書館などの公共施設が中心となり子供から高齢者まで幅広い年代に利用されている。

C3(商業+コミュニティ) タイプは「子供」が 0~10 人と C1 タイプと比べて多く、学校や子育て支援施設の複合化、イベント開催によって幅広い世代に利用されている。

#### 滞在時の体勢：

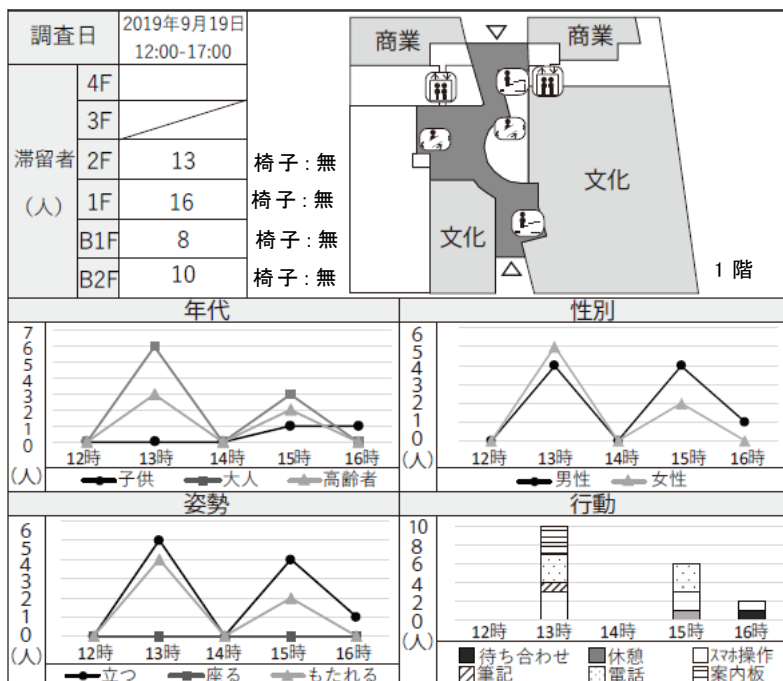
C1(業務+文化・コミュニティ・商業) タイプは座るが 3%であり、立つ・もたれるが 97%（85/88 人）占める。滞留数が他のタイプと比べて少なく、C1 タイプの共有空間は滞留空間ではなく通り抜け空間として機能している。

C3(商業+コミュニティ) タイプは座る 80%（72/111）前後であり、滞留空間として機能していることが分かる。

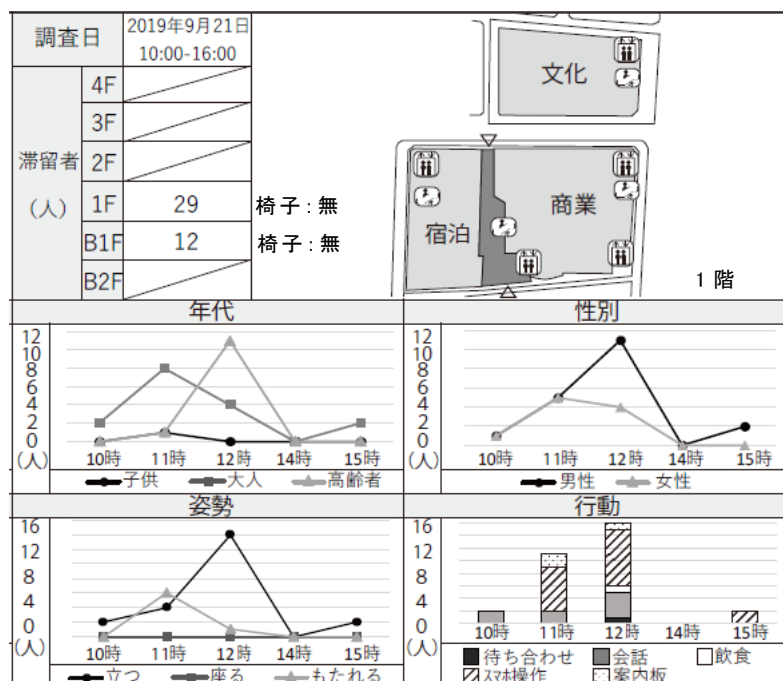
#### 行動：

C2 TSP や C3 OIK の共有空間では、飲食や荷物整理のような机や椅子を利用した行動が多くみられた。

C1(業務+文化・コミュニティ・商業)タイプは、椅子等がないので立ってスマホ操作や電話、または案内板をみる行動が多かった。

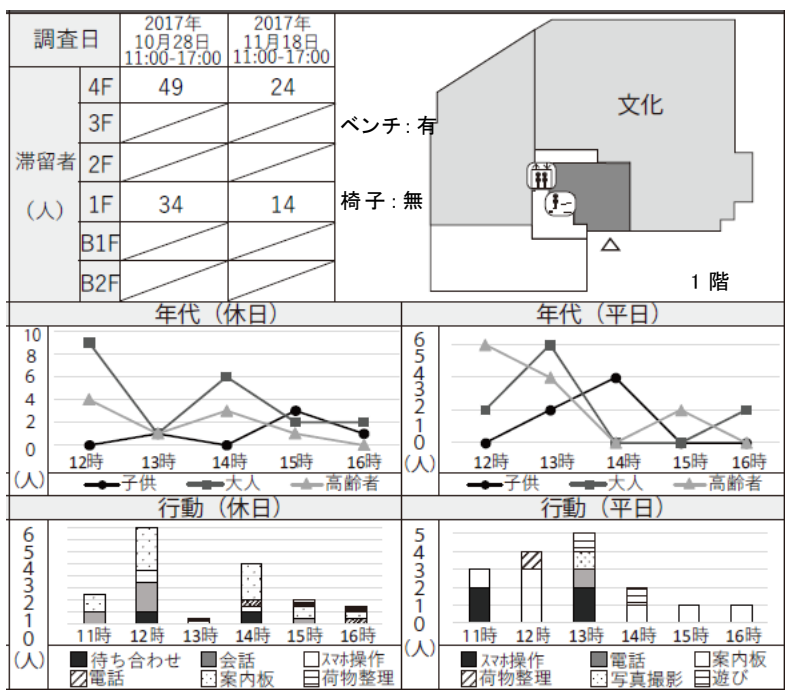


調査事例: AKF

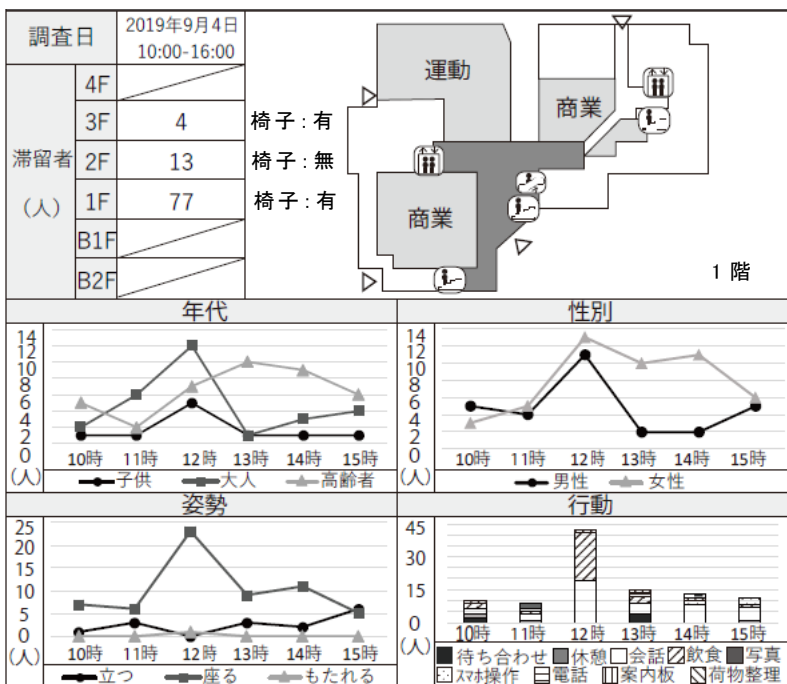


調査事例: HRB

図 3.3.1 C1タイプ 滞留調査による利用者の行動

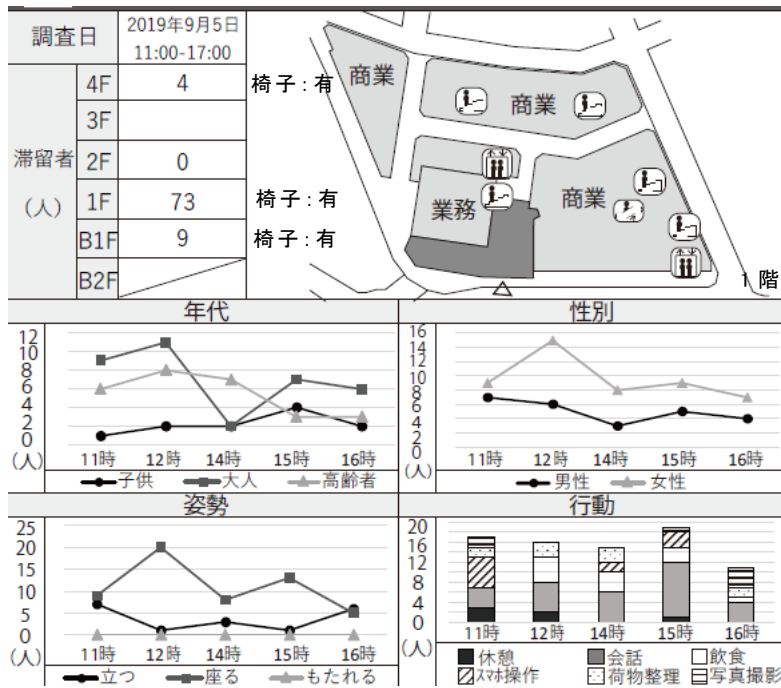


調査事例：AMP

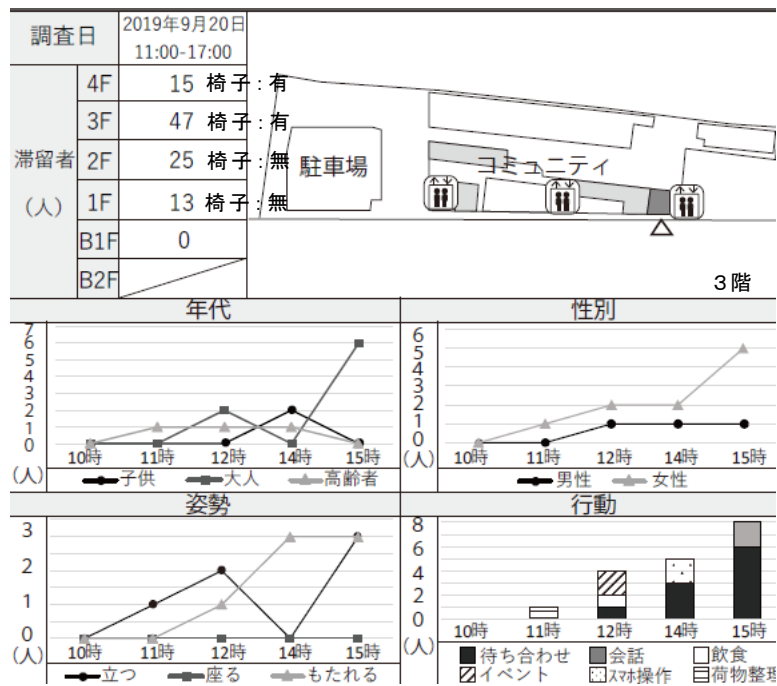


調査事例：TSP

図 3.3.1 C2 タイプ 滞留調査による利用者の行動



調査事例: OMI



調査事例: KST

図 3.3.1 C3・4タイプ 滞留調査による利用者の行動

### 3.4. 利用者による利用実態のまとめ

本研究では、用途構成の観点から以下の4タイプに分類した。タイプごとの課題を述べる。

#### **C1(商業・業務+文化、コミュニティ等)タイプ：**

低層部が商業や文化、高層部がオフィスで構成され、コアの分散により動線が複雑化しており、利用者は「迷う」との回答があった。また、アトリウムや通路などの共有空間は通り抜け空間として機能し、調査から滞在者少ないことを確認したため、通抜けのみでなく滞留を促す設えが必要と考える。

#### **C2(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等)タイプ：**

滞在者の利用頻度が多く、地域に密着していると推測する。吹抜けや庇のある共有空間は机や椅子の設えにより滞在が盛んである。楽しい、賑わいがある等の利用者評価からも、賑わいの創出が確認できた。また、イベント開催時に建物内に混雑が生じるため、回遊性のある空間構成によって人の流れをよくする必要があると考える。

住居用途を含む構成では、低層部が商業や文化、高層部が住居となることでプライバシーを重視した動線計画により、コアの分散や専用出入口の配置など利用者が「迷い」やすい傾向がみられた。出入口の案内や内装デザインの違いを明確にする等により、施設の違いを示す必要がある。

#### **C3(商業+コミュニティ、住居等)、C4(商業+コミュニティ、業務等)タイプ：**

C2タイプと同様に集客効果や滞在者の利用頻度が多く地域に密着している。幅広い年代が利用していることから、計画にあたっては空間にゆとりが必要である。例えば、子育て支援のイベント時には多くのベビーカーがなかなかEVに乗れずEVホールが混雑する現象がみられた。

### 3.4. 官民複合建築の課題と要望

管理者と利用者双方のアンケート調査の結果から、施設間の相互利用や立地環境による「利便性の良さ」が共通の評価となっていた。

幅広い年代が利用する複合建築の共通の課題と要望は以下のとおりである。

課題：

- (1) コアの分散や出入口が多くあることで、利用者が迷いやすい。
- (2) イベント開催時は、「トイレ」「駐車場」「EV ホール等」が混雑する。

子育て支援のイベント時には多くのベビーカーがなかなかEVに乗れない現象がみられた。

要望：

- (1) 座って飲食や休憩のできるスペースがほしい。

滞留調査では、椅子・ベンチ等のあるところに滞留者が多く、休憩や会話、待ち合わせ等、さまざまな行動が見られた。

以上により、用途構成により4タイプ類型し、共有空間の滞在状況と管理者と利用者の評価から、複合建築の課題と要望をあきらかにした。

## 第2部

### 空間構成の心理的評価

#### 第4章

#### 共有空間の構成による心理的評価との関係

研究の目的
実験対象の選定
研究の方法
心理的評価構造の分析
意識型分析
空間構成要素の分析
単相関分析
重回帰分析
特異例の考察
既往研究と本研究の心理的評価との関係
まとめ



## 第2部 複合建築における共有空間の構成の心理的評価との関係

### 第4章 心理的評価構造の分析

#### 4.1 研究の目的

さまざまな用途や機能を集積する複合建築の多くは再開発や総合設計制度による高層化と容積率緩和から、各建物に、「吹抜け」「ホール」「テラス」「敷地内の広場・通路」などの共有空間が配置されている。

第1部の調査事例における共有空間では、休憩、待合わせ、会話、飲食等の人々の多様な行動が見られた。このことにより複合建築の共有空間の特徴は、異なる用途の施設間を繋げる役割のほか、心地の良いサード・プレイスのな役目や人々のコミュニケーションの場、または一部の空間ではイベント会場になるなど、多様な使い方により、建物の利用者以外も呼び込む重要な要素になっている。また、これらの空間は建物全体の印象を高め建築空間を豊かに演出する効果も果たしている。

本研究は、複合建築の共有空間について、人々がその空間をどのように評価しているか、主に屋外空間の既往研究で用いた一連の分析方法、心理的評価構造の分析と空間構成要素の分析、単相関分析および重回帰分析を屋内空間、半屋外空間にも用いて、共有空間の特徴を数量的にあきらかにする。

また、「船越徹・積田洋編著：建築・都市計画のための空間の文法3」 4章内部空間内部空間と雰囲気の関係」では「雰囲気は空間の大きさ、形・材料（色・質感）・光・開口などによって規定され」「設計に際しては各空間構成要素が空間の雰囲気に及ぼす影響を客観的に捉えておく必要がある」とある。

既往研究では主に面積、高低差などの空間の大きさや形および空間に付属する装置などの空間構成要素と心理的評価との関係を分析しているが、仕上げの素材（材料）との分析はおこなわれていない。したがって本研究で仕上げの素材に着目し、どのような仕上げ素材が空間の雰囲気に影響があるかをあきらかにする。

これらの分析から、複合建築の設計における基礎的知見を得ることを目的とする。

## 4.2 実験対象の選定

分析には、平面図と断面図が必要なため、研究対象は建築雑誌（新建築、近代建築）の過去 18 年間（2000 年～2018 年<sup>注16)</sup> から複合建築を選定した。

商業用途(店舗等)を含む複合建築 96 事例のうち共有空間のある 50 事例から、現地調査（写真撮影）が可能であった 19 事例(表 4.2.1)を選別した。

表 4.2.1 19 事例の建築概要

分析対象 /NO.	建物符号	所在地	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	建物高 (m)	用途の数		
							官 用途	民 用途	計
1	TGK	東京都	2016	227,200	36	177	-	5	5
2	PO	東京都	2018	353,800	35	178	-	3	3
3	MK**	神奈川県	2003	114,300	27	128	1	3	4
4	OI	石川県	2009	17,300	5	21	1	1	2
5	ICS	福岡県	2005	5,000	1	9	2	-	2
6	SMB	東京都	2007	195,400	38	197	-	2	2
7	TMH	東京都	2018	189,200	35	191	2	3	5
8	KMU	東京都	2012	212,000	38	200	-	4	4
9	CCH	福岡県	1996	234,000	13	50	-	5	5
10	MHM	福岡県	2018	123,000	8	32	-	3	3
11	KE**	東京都	2016	113,400	32	170	1	3	4
12	TT	東京都	2010	87,800	4	30	-	3	3
13	FTR**	東京都	2015	157,000	30	137	-	3	3
14	TMT	東京都	2007	246,600	54	248	-	6	6
15	JHC	福岡県	2011	199,000	11	59	-	2	2
16	SS**	東京都	2018	118,300	36	179	-	4	4
17	CHI	福岡県	2011	18,500	4	21	-	3	3
18	OS	東京都	2013	102,200	23	109	-	5	5
19	TBK	富山県	2017	14,900	3	19	1	1	2
**印は利用実態調査の対象事例									

19 事例の共有空間を「屋内」「半屋外」「屋外」の 3 タイプに分類し、多様な使い方が可能で各施設や敷地内外等へアクセスできる機能を備えた空間を 10 箇所ずつ選定した。計 19 事例 30 空間（表 4.2.2-4）を対象として分析した。

表 4.2.2 30 空間のリスト (屋内 10 対象)

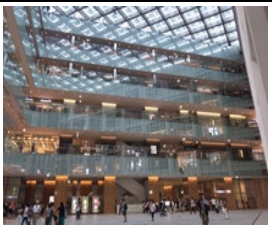
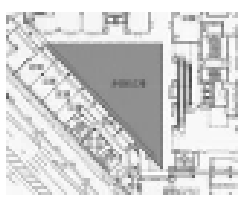


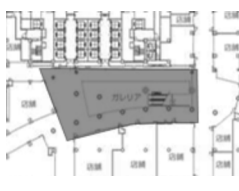

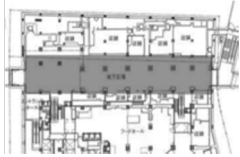
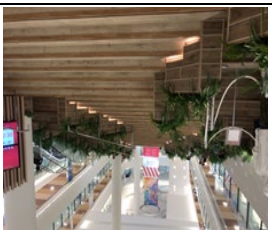




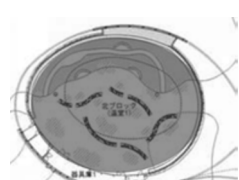




<p><b>SMB-ia</b>                      アトリウム*</p>  <p>3F</p>  <p>A:194 m<sup>2</sup>    P:59.4m</p>	<p><b>KMU-ia</b>                      アトリウム</p>  <p>1F</p>  <p>A:763 m<sup>2</sup>    P:133.0m</p>
<p><b>CCH-ia</b>                      アトリウム*</p>  <p>B1F</p>  <p>A:101 m<sup>2</sup>    P:45.0m</p>	<p><b>MK-ig</b>                        ガレリア</p>  <p>1F</p>  <p>A:611 m<sup>2</sup>    P:111.0m</p>
<p><b>TMH-ipa</b>                      通路*</p>  <p>B1F</p>  <p>A:1311 m<sup>2</sup>    P:202.2m</p>	<p><b>MHM-is</b>                      大階段</p>  <p>1F</p>  <p>A:220 m<sup>2</sup>    P:60.0m</p>
<p><b>TGK-ipl</b>                      広場*</p>  <p>B1F</p>  <p>A:155 m<sup>2</sup>    P:52.3m</p>	<p><b>ICS-ipl</b>                      広場</p>  <p>1F</p>  <p>A:763 m<sup>2</sup>    P:133.0m</p>
<p><b>PO-ir</b>                        休憩スペース*</p>  <p>2F</p>  <p>A:200 m<sup>2</sup>    P:67.4m</p>	<p><b>OI-ir</b>                        休憩スペース*</p>  <p>B1F</p>  <p>A:97 m<sup>2</sup>      P:41.0m</p>
<p>凡例    空間符号 (例)SMB-ia:SMB=(建物符号)-i=(屋内)a=(アトリウム) * :物理量対象 A: 面積 P: 周長</p>	

表 4.2.3 30 空間のリスト (半屋内 10 対象)


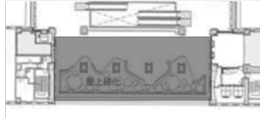

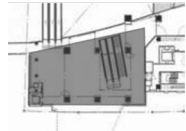

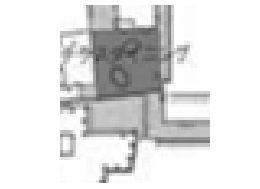

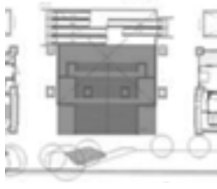

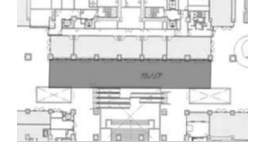

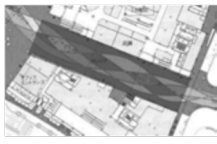

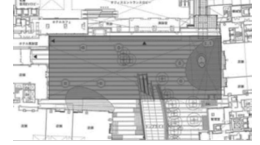





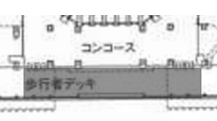

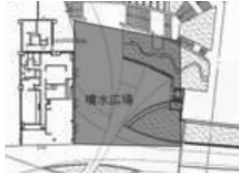
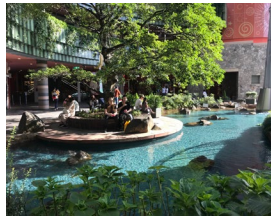


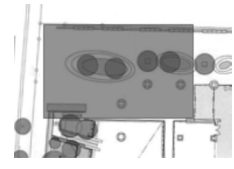

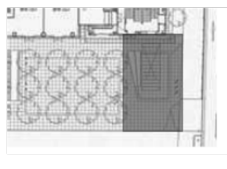



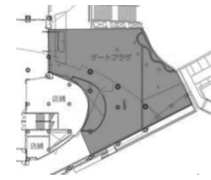


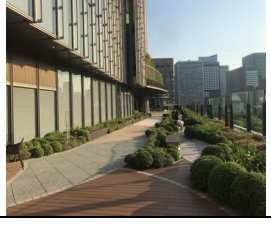
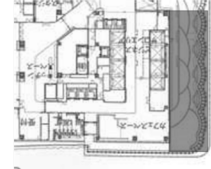



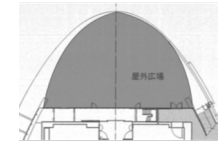
<b>KE-st</b>	テラス*	<b>SS-st</b>	テラス*
			
3F	A:467 m <sup>2</sup> P:96.0m	3F	A:254 m <sup>2</sup> P:65.8m
<b>TT-st</b>	テラス*	<b>KE-ss</b>	大階段*
			
3F	A:246 m <sup>2</sup> P:63.7m	B1F	A:288 m <sup>2</sup> P:72.9m
<b>KE-sg</b>	ガレリア*	<b>FTR-eg</b>	ガレリア
			
1F	A:443 m <sup>2</sup> P:118.4m	1F	A:1941 m <sup>2</sup> P:228.0m
<b>TMT-spl</b>	広場*	<b>CHI-spl</b>	広場
			
1F	A:1337 m <sup>2</sup> P:163.0m	1F	A:196 m <sup>2</sup> P:56.0m
<b>OI-spl</b>	広場*	<b>JHC-spa</b>	通路
			
1F	A:616 m <sup>2</sup> P:100.0m	2F	A:423 m <sup>2</sup> P:118.0m
<p>凡例 空間符号 (例)KE-kt:KE=(建物符号)-s=(半屋内)t=(テラス) *:物理量対象 A: 面積 P: 周長</p>			



表 4.2.4 30 空間のリスト (屋外 10 対象)

<b>FTR-epl</b>	広場*	<b>CCH-epl</b>	広場
			
2F	A:499 m <sup>2</sup> P:91.7m	B1F	A:374 m <sup>2</sup> P:83.0m
<b>PO-epl</b>	広場	<b>KMU-epl</b>	広場
			
1F	A:694 m <sup>2</sup> P:109.0m	1F	A:379 m <sup>2</sup> P:79.0m
<b>OS-epl</b>	広場*	<b>MK-epl</b>	広場*
			
B1F	A:379 m <sup>2</sup> P:78.1m	2F	A:737 m <sup>2</sup> P:129.2m
<b>SS-epl</b>	広場*	<b>TMH-et</b>	テラス*
			
1F	A:504 m <sup>2</sup> P:96.0m	6F	A:458 m <sup>2</sup> P:103.9m
<b>FTR-erpl</b>	屋上広場*	<b>TBK-erp r</b>	屋上スペース
			
RF	A:2293 m <sup>2</sup> P:193.2m	2F	A:935 m <sup>2</sup> P:134.0m
<p>凡例 空間符号 (例)FTR-epl:FTR=(建物符号)-e=(屋外)p=(広場)            * :物理量対象 A: 面積 P: 周長</p>			

### 4.3 研究の方法

- ①19 事例 30 空間に対して心理的評価実験による心理評価構造の分析と意識型分析を実施する。
- ②計測調査が可能な 11 事例 15 空間について空間構成要素の定量化（物理量）と空間構成要素の分析をする。
- ③心理量と素材要素（物理量）との相関分析をする。

空間に対しての心理的評価実験と物理量計測調査との関連性を（表 4.3. 1）に示す。

表 4.3.1 物理量計測調査、心理的評価実験の対象リスト

対象空間				心理的 評価実験	物理量 計測調査
建物符号	タイプ	分類	小分類		
SMB-ia	屋内	吹抜け	アトリウム	○	○
KMU-ia	屋内	吹抜け	アトリウム	○	
CCH-ia	屋内	吹抜け	アトリウム	○	
MK-ig	屋内	吹抜け	ガレリア	○	
KE-sg	半屋外	吹抜け	ガレリア	○	○
FTR-eg	半屋外	吹抜け	ガレリア	○	
MHM-is	屋内	通路	大階段	○	
KE-ss	半屋外	通路	大階段	○	○
TMH-ipa	屋内	通路		○	○
JHC-spa	半屋外	通路		○	
SS-epl	屋外	通路		○	
TGK-ipl	屋内	広場		○	○
ICS-ipl	屋内	広場		○	
TMT-spl	半屋外	広場		○	
CHI-spl	半屋外	広場		○	
OI-spl	半屋外	広場		○	
FTR-epl	屋外	広場		○	○
CCH-epl	屋外	広場		○	
PO-epl	屋外	広場		○	
KMU-epl	屋外	広場		○	
OS-epl	屋外	広場		○	○
MK-epl	屋外	広場		○	○
FTR-erpl	屋外	広場	屋上広場	○	○
TBK-erp	屋外	広場	屋上広場	○	
PO-ir	屋内	休憩スペース		○	○
OI-ir	屋内	休憩スペース		○	○
KE-st	半屋外	休憩スペース	テラス	○	○
SS-st	半屋外	休憩スペース	テラス	○	○
TT-st	半屋外	休憩スペース	テラス	○	○
TMH-et	屋外	休憩スペース	テラス	○	○

## 4.4 心理的評価構造の分析

### 4.4.1 実験方法

本実験では手軽に空間を体感し、全体を見渡して均質的な印象評価が行えるよう、現地で撮影した 360 度写真を使用した。被験者は各自のパソコンで実験資料を入れた Google フォトの指定アドレスから写真（屋内、半屋外、屋外順、各写真はランダム順）を閲覧しマウス等で自由に動かして空間を体感した後、左側の形容詞をポジティブなものにし統一した 43 形容詞対 7 段階をランダムに配置した調査用紙（図 4.4.2）に回答してもらった。被験者は操作に慣れた建築学科学生 30 名とし心理的評価実験を行った。

360°写真の開き方

1. 次にココをクリック



1. 右上をクリック

画像のタイトル

2. 次にココをクリック



2. 真ん中をクリックして 360° 空間を見る

図 4.4.1 360 度写真实験方法

	非常に	かなり	やや	もどち らない で	やや	かなり	非常に	
	1	2	3	4	5	6	7	
質の良い感じ								質の悪い感じ
清潔感のある感じ								清潔感のない感じ
美しい感じ								醜い感じ
新しい感じ								古い感じ
居心地の良い感じ								居心地の悪い感じ
雰囲気のある感じ								雰囲気のない感じ
魅力がある感じ								魅力がない感じ
楽しい感じ								つまらない感じ
調和した感じ								不調和した感じ
統一感のある感じ								ばらばらな感じ
落ち着きのある感じ								落ち着きのない感じ
引き込まれる感じ								遠ざける感じ
明解な感じ								曖昧な感じ
柔らかい感じ								硬い感じ
優しさのある感じ								よそよそしい感じ
暖かい感じ								冷たい感じ
緩んだ感じ								緊張感のある感じ
多彩な感じ								無彩色な感じ
緑の多い感じ								緑の少ない感じ
軽快な感じ								重厚な感じ
曲線的な感じ								直線的な感じ
多様な感じ								一様な感じ
騒々しい感じ								静かな感じ
個性のある感じ								個性のない感じ
目立つ感じ								目立たない感じ
地味な感じ								派手な感じ
印象がある感じ								印象がない感じ
装飾的な感じ								非装飾的な感じ
日常的な感じ								非日常的な感じ
視界の開けた感じ								視界の閉じた感じ
開放的な感じ								閉鎖的な感じ
明るい感じ								暗い感じ
狭い感じ								広い感じ
高い感じ								低い感じ
平面的な感じ								立体的な感じ
変化のある感じ								変化のない感じ
回遊性がある感じ								回遊性がない感じ
境界のある感じ								境界のない感じ
領域感がある感じ								領域感がない感じ
溜まる感じ								流れる感じ
対称的な感じ								非対称な感じ
中心性のある感じ								中心性のない感じ
繊細な感じ								大胆な感じ

図 4.4.2 心理的実験の調査用紙



#### 4.4.2 代表心理因子軸

心理的評価実験の結果より得られた各評価尺度を基に因子分析(直交バリマックス法)を行い、固有値 1 以上の因子負荷量(表 4.4.2)を抽出した。

表 4.4.2 因子負荷量表

形容詞	因子							
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
質の良い — 質の悪い	0.748	-0.004	0.221	0.175	0.117	0.025	0.026	0.061
清潔感のある — 清潔感のない	0.664	-0.062	0.158	0.177	0.069	0.020	0.119	0.059
美しい — 醜い	0.658	0.073	0.300	0.249	0.092	0.062	-0.018	0.031
居心地の良い — 居心地の悪い	0.614	0.476	0.065	0.050	0.021	0.069	0.040	-0.072
雰囲気のある — 雰囲気のない	0.613	0.202	0.412	0.095	0.065	0.120	0.037	-0.012
新しい感じ — 古い感じ	0.608	-0.065	0.307	0.241	0.038	0.073	-0.035	0.042
魅力がある — 魅力がない	0.605	0.222	0.494	0.082	0.072	0.110	0.010	0.046
楽しい — つまらない	0.578	0.235	0.376	0.126	0.163	0.043	-0.080	0.032
調和した — 不調和した	0.556	0.048	-0.013	0.121	0.160	-0.022	0.245	-0.040
統一感のある — ばらばらな	0.531	-0.133	-0.064	0.065	-0.107	-0.072	0.385	0.073
落ち着きのある — 落ち着きのない	0.446	0.286	0.002	-0.066	-0.297	0.040	0.032	-0.097
引き込まれる — 遠ざける	0.340	0.292	0.248	0.039	0.071	-0.006	0.125	0.081
明快な — 曖昧な	0.333	-0.035	0.138	0.162	0.178	0.263	0.194	-0.076
柔らかい — 硬い	0.039	0.728	0.074	-0.004	-0.011	0.031	0.018	0.179
暖かい — 冷たい	0.210	0.670	0.125	0.120	0.128	0.061	-0.019	-0.035
親しみのある — よそよそしい	0.208	0.662	-0.040	0.011	0.050	0.079	-0.084	-0.119
緩んだ — 緊張感のある	-0.074	0.602	-0.108	0.181	-0.100	-0.015	-0.030	-0.100
多彩な — 無彩色な	0.162	0.532	0.296	0.054	0.351	0.092	-0.068	0.072
緑の多い — 緑の少ない	0.109	0.517	0.091	0.181	0.027	0.076	0.078	0.146
軽快な — 重厚な	-0.112	0.486	0.013	0.282	0.024	-0.038	-0.003	0.139
曲線的な — 直線的な	-0.096	0.476	0.180	-0.009	-0.050	-0.043	0.051	0.184
多様な — 一律な	-0.006	0.422	0.342	0.039	0.357	0.096	-0.141	0.030
騒々しい — 静かな	-0.098	-0.372	-0.186	0.052	0.016	0.233	0.650	0.095
個性のある — 個性のない	0.253	0.219	0.728	0.084	0.044	0.076	0.124	0.070
目立つ — 目立たない	0.295	0.080	0.618	0.170	0.254	0.120	0.088	-0.063
地味な — 派手な	-0.269	-0.069	-0.611	-0.202	-0.252	-0.018	0.067	0.141
印象がある — 印象がない感じ	0.486	0.169	0.595	0.115	0.036	0.129	0.095	0.011
日常的な — 非日常的な	-0.068	0.355	-0.532	-0.072	-0.028	0.142	0.016	0.101
装飾的な — 非装飾的な	0.185	0.276	0.517	0.059	0.169	0.033	0.045	-0.031
視界が開けた — 視界の閉める	0.233	0.157	0.080	0.718	-0.102	-0.035	0.025	0.035
開放的な — 閉鎖的な	0.174	0.172	0.031	0.690	0.066	-0.079	0.098	0.041
明るい — 暗い	0.171	0.237	0.201	0.630	0.094	0.025	-0.029	-0.035
狭い — 広い	-0.186	0.010	-0.094	-0.618	-0.044	0.159	-0.049	0.200
高い — 低い	0.249	-0.026	0.231	0.397	0.288	-0.046	0.056	-0.187
平面的な — 立体的な	-0.123	0.001	-0.301	-0.024	-0.528	0.011	0.020	0.152
変化のある — 変化のない	0.216	0.258	0.383	0.028	0.431	0.021	-0.217	0.245
回遊性のある — 回遊性のない	0.213	0.354	0.159	0.022	0.381	-0.096	0.120	0.042
境界のある — 境界のない	0.024	0.003	0.050	-0.099	0.029	0.679	0.050	0.048
領域性がある — 領域性がない	0.166	0.005	0.098	-0.060	-0.028	0.624	0.200	-0.036
溜まる — 流れる	-0.001	0.127	-0.017	-0.107	-0.188	0.221	0.035	-0.009
対称的な — 非対称的な	0.188	-0.106	-0.058	0.063	-0.070	0.141	0.537	0.046
中心性がある — 中心性がない	0.063	0.097	0.139	0.028	0.022	0.152	0.472	-0.048
繊細な — 大胆な	0.122	0.226	-0.104	-0.146	-0.046	0.013	-0.002	0.445
因子寄与率	12.428	10.352	9.644	6.090	3.320	3.025	2.390	1.523
因子抽出法: 主因子法								

因子負荷 0.4 以上の「質のいい感じ - 質の悪い感じ」に代表される質的因子、「柔らかい感じ - 硬い感じ」に代表される色彩性因子、「個性のある感じ - 個性のない感じ」に代表される印象性因子、「視界の開けた感じ - 視界の閉じた感じ」に代表される視界性因子、「平面的な感じ - 立体的な感じ」に代表される回遊性因子、「境界のある感じ - 境界のない感じ」に代表される領域性因子、「対称的な感じ - 非対称的な感じ」に代表される中心性因子、「繊細な感じ - 大胆な感じ」に代表される繊細性因子、以上の 8 つの共通性因子を共有空間の評価する際に重要な心理因子軸として抽出した（表 4.4.2）。

なお、II 軸はテクスチャーの形容詞もあるが「暖かい—冷たい」「多彩な—無彩色な」「緑の多い—緑の少ない」の形容詞から、本論文では「テクスチャー因子」の中の「色彩性因子」と名付ける。

表 4.4.2 心理因子軸

No.	因子名	代表評価尺度
I	質的因子	質の良い感じ—質の悪い感じ
II	色彩性因子	柔らかい感じ—硬い感じ
III	印象性因子	個性のある感じ—個性のない感じ
IV	視界性因子	視界の開けた感じ—視界の閉じた感じ
V	回遊性因子	平面的な感じ—立体的な感じ
VI	領域性因子	境界線のある感じ—境界線のない感じ
VII	中心性因子	対称的な感じ—非対称的な感じ
VIII	繊細性因子	繊細な感じ—大胆な感じ

#### 4.5 意識型分析

代表評価尺度の平均値からクラスター分析（最遠隣法）を行ない、融合距離 10.5 付近で S1～S6 の 6 つの<意識型>に分類した（図 4.5.1）。

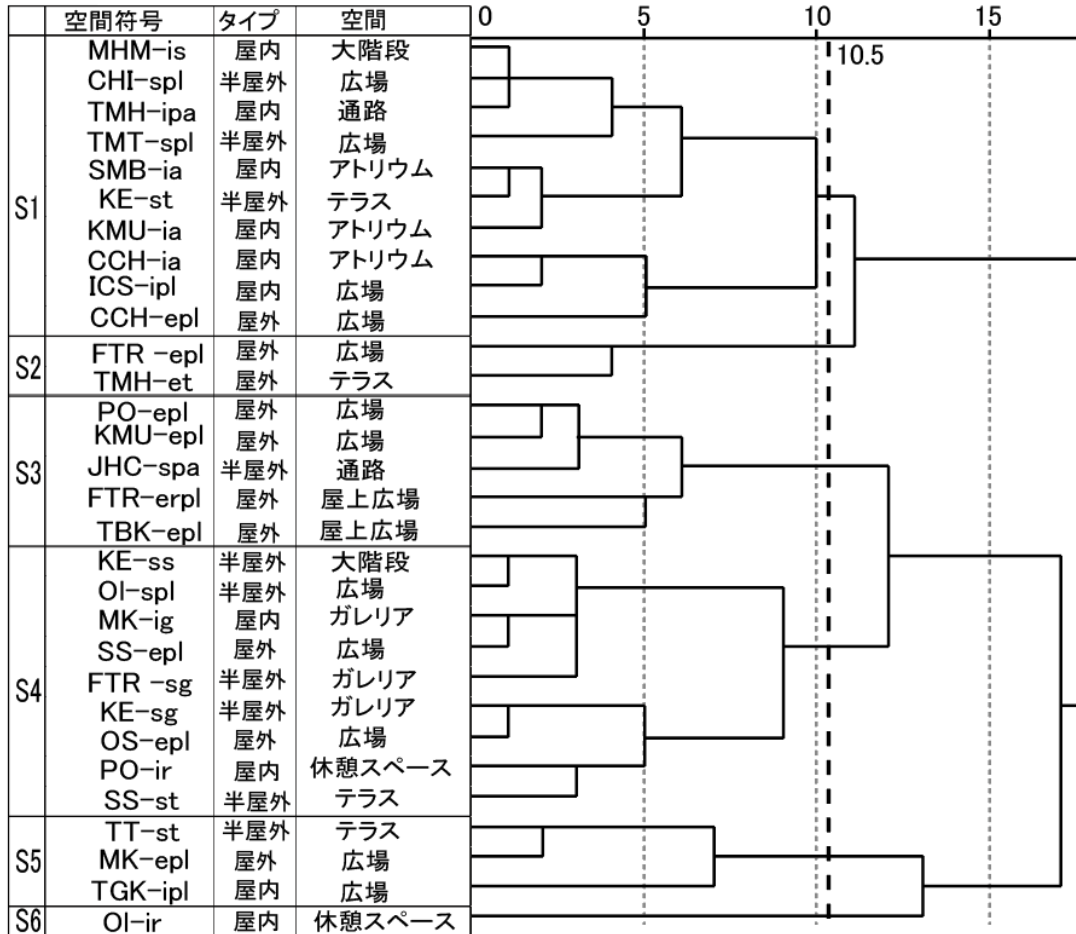


図 4.5.1 クラスター図

S1 は主に「屋内」の吹抜け、通路で構成されている。

S2 は「屋外」空間のみで構成されており、空間の種類はテラス、広場となっている。

S3 は主に「屋外」の広場の構成である。

S4 は主に「半屋外」のテラス、ガレリア、広場で構成され、

S5 は「屋内」、「半屋外」、「屋外」のテラス、広場を等しく含んでいる。

S6 は「屋内」の休憩スペースのみであった。

心理特性の類型化分析結果から得られた S1～S6 の<意識型>に空間の代表因子 8 軸の代表評価尺度の平均値を付したレーダーチャートを示す。

主に屋内の吹抜け、通路の構成 S1 (図 4.5.2) は、質的因子 2.3、印象性因子 2.6、視界性因子 2.8 と評価され、質がよく、個性のある、視界が開けた空間で回遊性のない空間と捉えている。

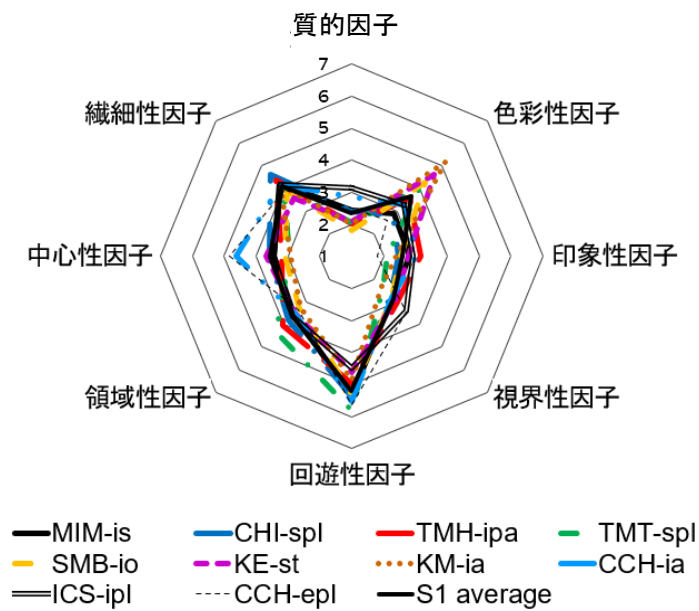
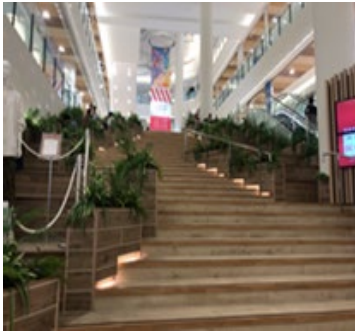


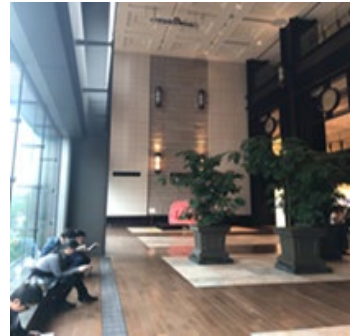
図 4.5.2 S1 タイプ レーダーチャート図



MHM-is



TMH-ipa



SMB-ia



CCH-ia



ICS-ipl



KMU-ia



KE-st



CHI-spl



TMT-spl



CCH-epi

屋外の広場の構成 S2（図 4.5.3）は、視界性因子 1.7、質的因子 2.3、色彩性因子 2.8 と評価され、視界の開けた、質のよい、柔らかい印象と捉えている。S2 は周囲を壁などがなく、植栽があることから、柔らかい印象を与えていると推測した。

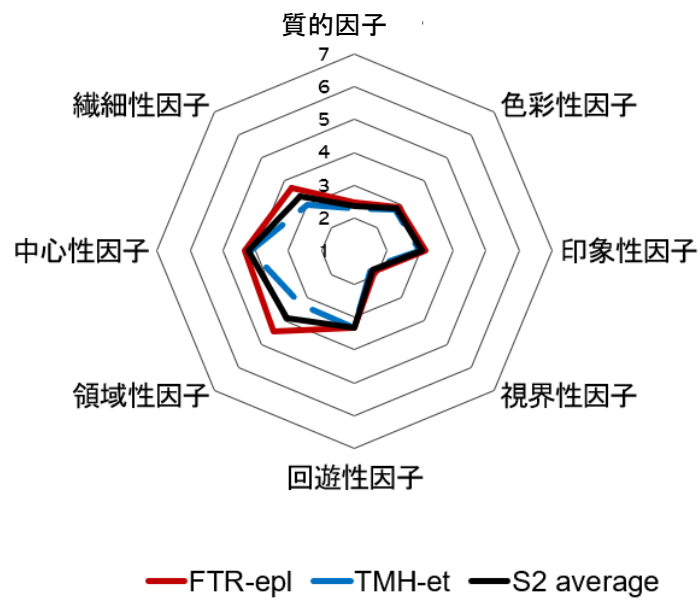
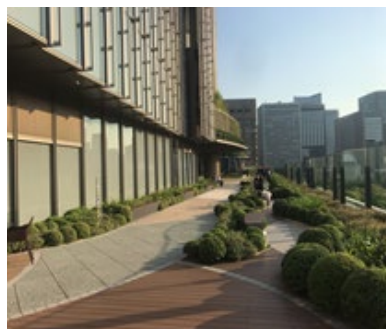


図 4.5.3 S2 タイプ レーダーチャート図



FTR-epl



TMH-et

S3（図 4.5.4）は、視界性因子 2.4、回遊性因子 2.98、中心性因子 3.2 と評価され、S3 も主に屋外の広場の構成ではあるが S2 と異なり、回遊性のある、対称的な空間と捉えている。

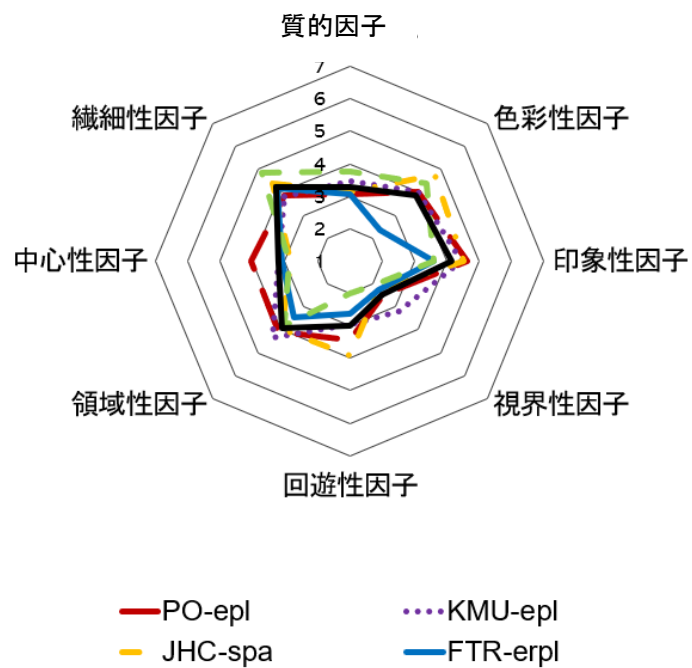


図 4.5.4 S3 タイプ レーダーチャート図



PO-epl



KMU-epl



JHC-spa



主に半屋外の構成 S4（図 4.5.5）は、質的因子 2.7、その他の因子は 3.3～4.4 と中央値に近い値で評価され、質のよい、屋内と屋外をつなぐ中間領域として捉えていると推測した。

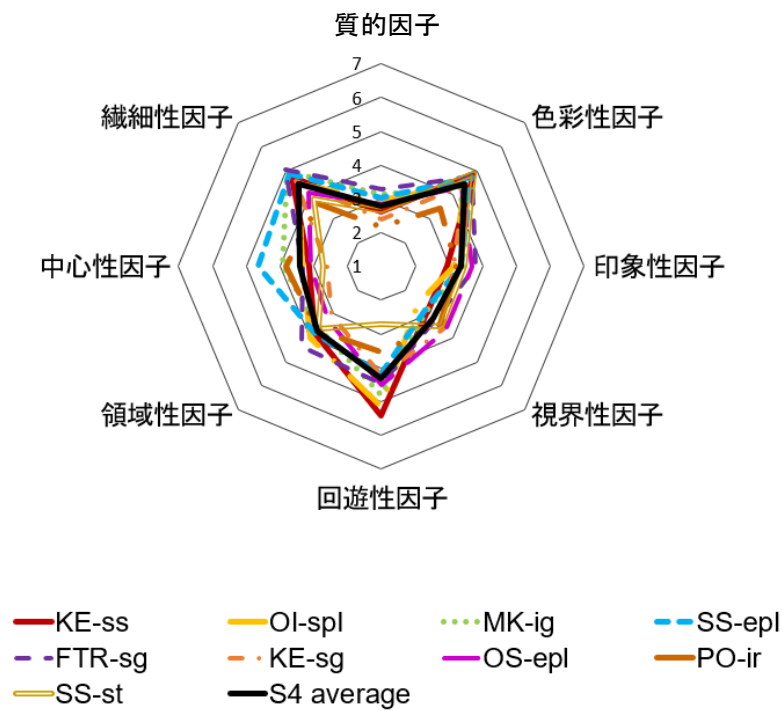


図 4.5.5 S4 タイプ レーダーチャート図





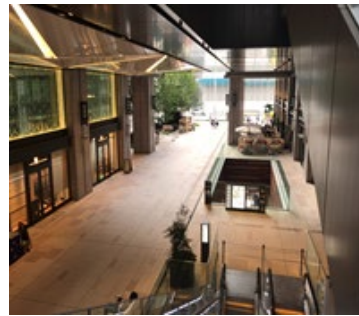
MK-ig



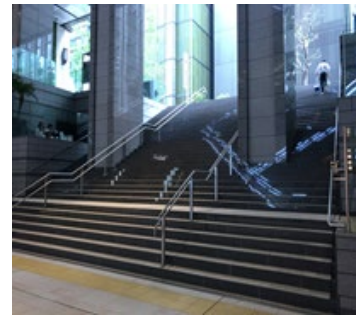
PO-ir



FTR-sg



KE-sg



KE-ss



SS-st



OI-spl



OS-epl



SS-epl

S5（図 4.5.6）は、視界性因子 2.9、中心性因子 4.7、その他の因子は 3.3～4.4 と評価され、視界が開けた、やや非対称な空間と捉えている。

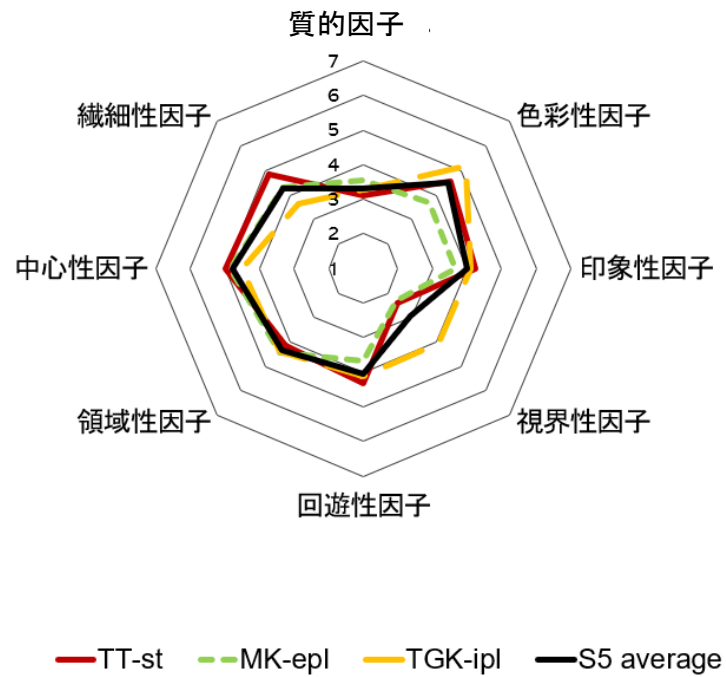


図 4.5.6 S5 タイプ レーダーチャート図



TT-st



MK-epl



TGK-ipl

S6（図 4.5.7）は、領域性因子 2.8 と評価され、境界線のある空間として捉えている。これはテナント跡地をそのまま休憩スペースへと変更した空間であるため、他の共有空間とは対照的な空間である。

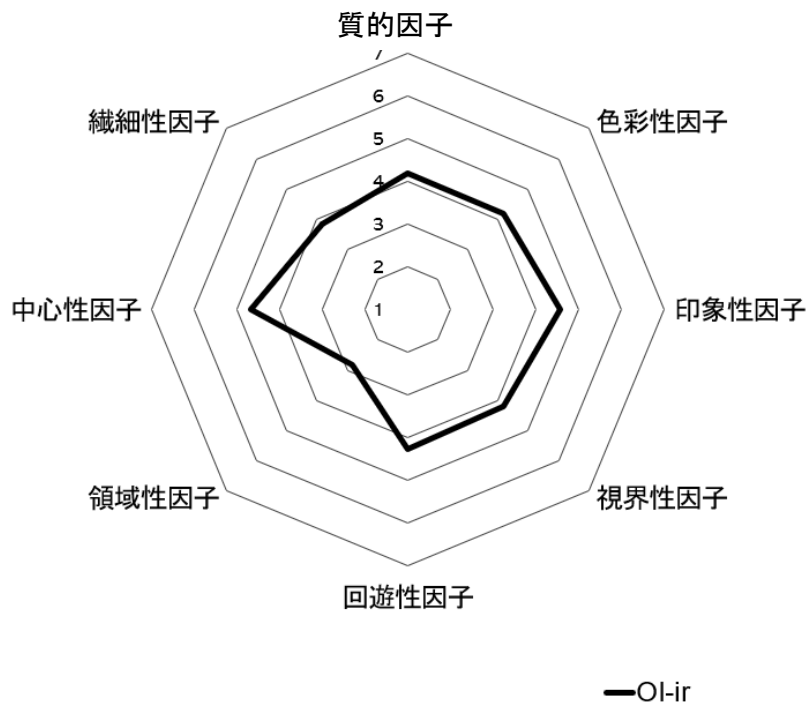


図 4.5.7 S6 タイプ レーダーチャート図

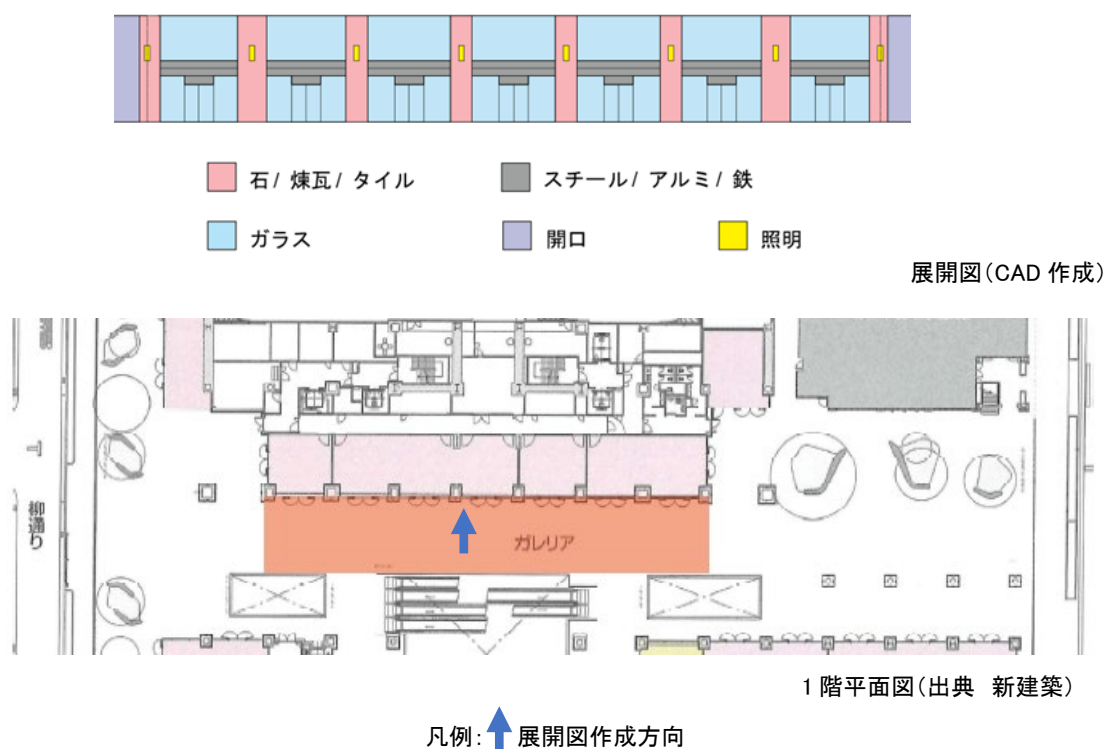


OI-ir

各<意識型>を比較すると、S6 以外の領域性因子が中央値 4 前後であったため、共有空間の境界線が曖昧で判断しにくい空間として評価されていることが読み取れる。質的因子と視界性因子は S6 以外の共有空間の評価の特徴として質が良く、視界の開けた空間が多いことを示している。

#### 4.6 空間構成要素の分析

複合建築の共有空間における心理的評価実験の結果と空間構成要素とを相関分析するために共有空間の物理量を抽出した。クラスター分析のカテゴリーの中から、調査可能な都内近郊の共有空間 15 空間（表 4.2.2 \*印）を対象とし、図面より平面構成（8 要素）、断面構成（5 要素）を算出した。また、現地にて撮影した 360° 写真や計測により平面図、展開図を CAD で作成（図 4.6.1）して平面の仕上げの素材（5 要素）、立面の素材（8 要素）の計 26 要素の物理量を算出した（表 4.6.1-3）。



凡例: ↑ 展開図作成方向

平面構成		断面構成		立面素材構成	
長辺 (最長)	50.4m	平面積	443.5㎡	開口面積	447.5㎡
長辺 (最短)	50.4m	表面積	864.3㎡	ガラス(立)	243.6㎡
長辺 (平均)	50.4m	容積	3,238㎡	鏡(立)	0.0㎡
短辺 (最長)	8.8m	平面素材構成		石/煉瓦/タイル(立)	123.0㎡
短辺 (最短)	8.8m	石/煉瓦/タイル(平)	443.5㎡	RC(立)	0.0㎡
短辺 (平均)	8.8m	RC(平)	0.0㎡	スチール/アルミ/鉄(立)	47.2㎡
高さ	7.3m	木材(平)	0.0㎡	植栽(立)	0.0㎡
周長	118.4m	植栽(平)	6.0㎡	塗装面/シート張り(立)	0.0㎡
平面形状数	4	布/カーペット(平)	0.0㎡	照明/発光物(立)	3.1㎡

図 4.6.1 物理量算出の一例（事例：KE-sg 屋内 ガレリア）

各空間の床面積は200～400 m<sup>2</sup>代が60% (9/15 空間) を占め、最大床面積は屋内通路でTMH-ipa の1,311 m<sup>2</sup>、屋上広場でFTR-erpl が2,293 m<sup>2</sup>であった。吹抜け空間、通路空間を中心としたS1、S4タイプは容積が3,238 m<sup>3</sup>～6,818 m<sup>3</sup>が57% (4/7 空間) を占める。

表 4.6.1 空間構成要素 (物理量 : 屋内) 表

タイプ		屋内				
		S1	S1	S4	S5	S6
空間符号		SMB-ia	TMH-ipa	PO-ir	TGK-ipl	OI-ir
空間名		アトリウム	通路	休憩スペース	広場	休憩スペース
場所		3F	B1F	2F	B1F	B1F
平面構成	長辺(最長) (m)				14.4	13.1
	長辺(最短) (m)	19.9	85.7	26.0	13.9	10.0
	長辺(平均) (m)	19.9	85.7	26.0	14.2	11.6
	短辺(最長) (m)				7.0	7.6
	短辺(最短) (m)	9.8	15.3	7.7	3.9	6.8
	短辺(平均) (m)	9.8	15.3	7.7	5.5	7.2
	周長 (m)	59.4	202.0	67.4	52.3	41.0
平面積 (m <sup>2</sup> )	194.8	1,311.2	200.2	155.7	97.5	
断面構成	平面形状数	4	4	4	7	7
	高さ (m)	12.5	5.2	3.5	3.0	5.0
	表面積 (m <sup>2</sup> )	742.6	1,050.4	235.9	156.4	97.5
	開口面積 (m <sup>2</sup> )	199.5	266.7	88.9	42.8	40.1
	容積 (m <sup>3</sup> )	2,435	6,818	701	467	487
立面素材	ガラス(立) (m <sup>2</sup> )	175.1	283.7	19.0	49.2	15.6
	鏡(立) (m <sup>2</sup> )	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	石/煉瓦/タイル(立) (m <sup>2</sup> )	179.8	216.0	19.3	39.3	0.0
	コンクリート(立) (m <sup>2</sup> )	0.0	0.0	0.0	0.0	141.3
	スチール/アルミ/鉄(立) (m <sup>2</sup> )	184.9	95.9	92.8	8.9	0.0
	植栽(立) (m <sup>2</sup> )	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	塗装面/シート張り(立) (m <sup>2</sup> )	0.0	153.8	16.0	4.8	0.0
	照明/発光物(立) (m <sup>2</sup> )	3.4	26.7	0.0	12.0	0.0
平面素材	石/煉瓦/タイル(平) (m <sup>2</sup> )	36.5	1,135.0	0.0	142.0	0.0
	コンクリート(平) (m <sup>2</sup> )	0.0	0.0	0.0	0.0	102.0
	木材(平) (m <sup>2</sup> )	158.3	0.0	75.0	0.0	0.0
	植栽(平) (m <sup>2</sup> )	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	布/カーペット(平) (m <sup>2</sup> )	0.0	0.0	130.0	0.0	0.0

表 4.6.2 空間構成要素（物理量：半屋内）表

タイプ		半屋外				
		S1	S4	S4	S4	S5
空間符号		KE-st	KE-sg	KE-ss	SS-st	TT-st
空間名		テラス	ガレリア	大階段	テラス	テラス
場所		3F	1F	B1F	3F	3F
平面構成	長辺(最長) (m)	34.4	50.4	18.8	17.5	18.2
	長辺(最短) (m)			11.8	9.3	15.3
	長辺(平均) (m)	34.4	50.4	15.3	13.4	16.7
	短辺(最長) (m)	13.6	8.8	11.5	15.6	15.1
	短辺(最短) (m)			6.1	15.8	11.5
	短辺(平均) (m)	13.6	8.8	8.8	15.7	13.3
	周長 (m)	96.0	118.4	72.9	65.8	63.7
平面積 (㎡)	467.8	443.5	288.6	254.8	246.5	
断面構成	平面形状数	4	4	8	6	6
	高さ (m)	7.4	7.3	13.9	3.5	11.4
	表面積 (㎡)	710.4	864.3	1,012.1	230.5	777.6
	開口面積 (㎡)	423.6	447.5	591.7	147.8	581.4
	容積 (㎡)	3,462	3,238	4,012	892	2,810
立面素材	ガラス(立) (㎡)	90.3	243.6	63.8	11.4	108.4
	鏡(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	石/煉瓦/タイル(立) (㎡)	120.7	123.0	127.5	0.0	0.0
	コンクリート(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	スチール/アルミ/鉄(立) (㎡)	75.8	47.2	13.5	71.3	0.0
	植栽(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	塗装面/シート張り(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	81.8
	照明/発光物(立) (㎡)	0.0	3.1	0.0	0.0	6.1
平面素材	石/煉瓦/タイル(平) (㎡)	260.0	443.5	288.6	413.0	57.0
	コンクリート(平) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	145.0
	木材(平) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	植栽(平) (㎡)	191.0	6.0	0.0	7.0	15.0
	布/カーペット(平) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表 4.6.3 空間構成要素（物理量：屋外）表

タイプ		屋外				
		S2	S2	S3	S4	S5
空間符号		FTR-epl	TMH-et	FTR-erpl	OS-epl	MK-epl
空間名		広場	テラス	屋上広場	広場	広場
場所		2F	6F	RF	B1F	2F
平面構成	長辺(最長) (m)	24.7	40.6	54.6	19.9	32.7
	長辺(最短) (m)	15.8			12.1	30.2
	長辺(平均) (m)	20.3	40.6	54.6	16.0	31.4
	短辺(最長) (m)	22.4	11.3	42.0	6.6	24.7
	短辺(最短) (m)	12.0			4.2	18.4
	短辺(平均) (m)	17.2	11.3	42.0	5.4	21.6
	周長 (m)	91.7	103.9	193.2	78.1	129.2
平面積 (㎡)	499.8	458.6	2,293.2	379.3	737.2	
断面構成	平面形状数	6	4	4	7	7
	高さ (m)	/	/	/	/	/
	表面積 (㎡)	/	/	/	/	/
	開口面積 (㎡)	/	/	/	/	/
	容積 (㎡)	/	/	/	/	/
立面素材	ガラス(立) (㎡)	83.0	345.7	0.0	90.1	103.4
	鏡(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	石/煉瓦/タイル(立) (㎡)	31.0	0.0	12.6	165.2	95.5
	コンクリート(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	スチール/アルミ/鉄(立) (㎡)	0.0	0.0	318.8	0.0	17.8
	植栽(立) (㎡)	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	塗装面/シート張り(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	15.7
	照明/発光物(立) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平面素材	石/煉瓦/タイル(平) (㎡)	465.0	110.0	0.0	373.0	737.2
	コンクリート(平) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	木材(平) (㎡)	0.0	101.0	598.0	0.0	0.0
	植栽(平) (㎡)	65.0	205.0	607.0	6.3	0
	布/カーペット(平) (㎡)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



平面・断面構成の相関分析：

空間構成要素のうち、長辺と短辺はそれぞれ平均とし全 22 要素（物理量）についての相関分析注 14) 結果、相関係数 1%水準で有意となる相関関係を 25 種類、空間構成別として「周長」「平面積」「表面積」「開口面積」「容積」の 5 要素が確認された。容積は周長、平面積、表面積の 3 要素と  $R=0.930$  以上の正の相関関係が得られ、平面積との傾きは  $a=5296$ 、表面積とは  $a=5491.6$  と近い値が得られた（図 4.6.2）。一方、高さとは相関関係が得られなかった。このことより物理量においては、大きな空間は高さより幅に大きく影響されると推測した。

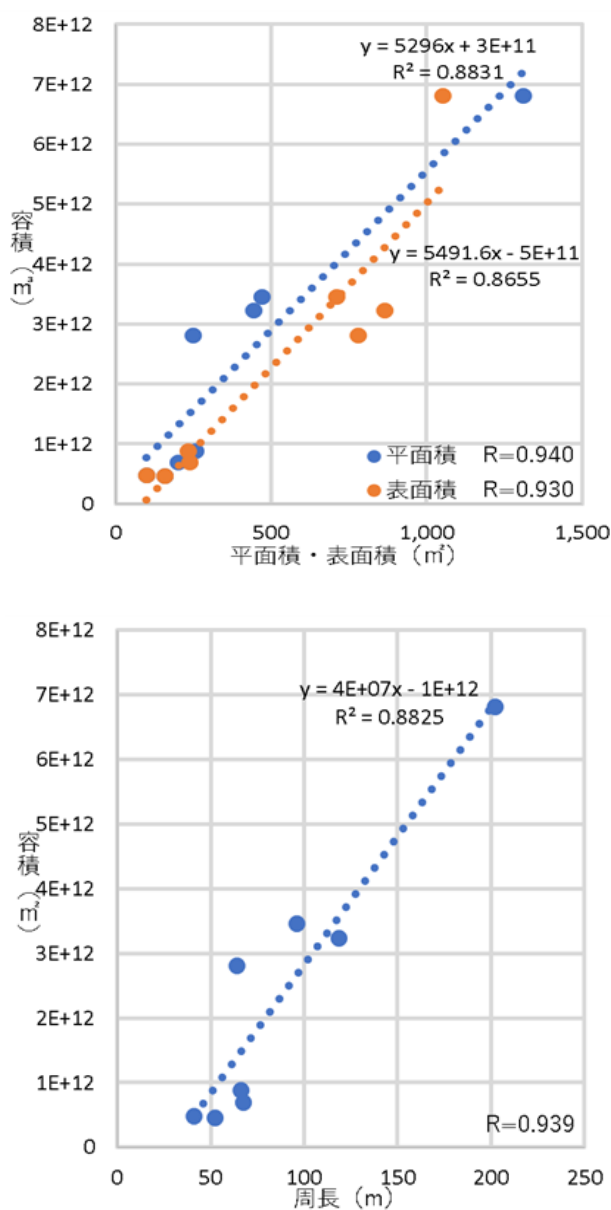


図 4.6.2 物理量相関図

#### 4.7 単相関分析

心理的評価実験で得られた 8 心理因子（心理量）と 22 空間構成要素（物理量）との相関分析の結果、相関係数 5%水準で有意となる相関関係 20 種類として確認された（表 4.7.1）。それらを（図 4.7.1）に示す。

表 4.7.1 代表因子と物理量による相関係数一覧

		質的性 因子	色彩性 因子	印象性 因子	視界性 因子	回遊性 因子	領域性 因子	中心性 因子	繊維性 因子
長辺（平均）	Pearsonの相関係数	- 377	- 483	- 314	- 265	- 006	- 024	- 328	121
	有意確率（両側）	166	065	254	359	283	933	233	666
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
短辺（平均）	Pearsonの相関係数	104	- 614*	000	- 520*	- 558*	154	- 092	127
	有意確率（両側）	712	015	999	047	031	594	745	652
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
高さ	Pearsonの相関係数	- 245	174	- 391	- 709*	705*	- 062	- 128	673
	有意確率（両側）	496	632	0 252	022	023	866	725	083
	度数	10	10	10	10	10	10	10	10
周長	Pearsonの相関係数	- 145	- 483	- 155	- 484	- 271	434	139	- 123
	有意確率（両側）	606	062	655	068	328	106	620	002
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
平面積	Pearsonの相関係数	- 018	- 644**	- 059	- 391	- 338	060	249	170
	有意確率（両側）	848	010	835	150	218	866	371	645
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
表面積	Pearsonの相関係数	- 608	- 131	- 629	- 714*	732*	061	- 388	713*
	有意確率（両側）	134	719	115	020	016	866	268	021
	度数	10	10	10	10	10	10	10	10
平面形状数	Pearsonの相関係数	664**	464	537*	274	150	309	354	295
	有意確率（両側）	007	082	039	322	696	262	195	285
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
容積	Pearsonの相関係数	- 616	- 277	- 409	- 694	021	182	- 372	649
	有意確率（両側）	128	439	172	070	066	616	289	100
	度数	10	10	10	10	10	10	10	10
開口面積	Pearsonの相関係数	- 241	218	- 281	- 700*	469	116	- 152	779**
	有意確率（両側）	476	520	403	017	156	734	655	005
	度数	11	11	11	11	11	11	11	11
ガラス（立）	Pearsonの相関係数	- 488	- 209	- 439	- 363	276	- 113	- 128	- 082
	有意確率（両側）	066	455	101	197	321	689	650	771
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
鏡（立）	Pearsonの相関係数	644**	083	563*	442	066	- 454	323	- 099
	有意確率（両側）	10	822	029	099	815	088	241	725
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
石/煉瓦/タイル（立）	Pearsonの相関係数	- 469	219	- 500	117	736**	- 0 58	- 478	317
	有意確率（両側）	078	432	058	677	002	838	71	260
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
コンクリート（立）	Pearsonの相関係数	844**	083	563*	442	066	- 454	323	- 099
	有意確率（両側）	010	822	029	099	815	089	241	725
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
スチール/アルミ/鉄（立）	Pearsonの相関係数	- 263	- 409	- 282	- 163	- 213	- 225	- 472	022
	有意確率（両側）	343	130	308	661	447	418	075	939
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
植栽（立）	Pearsonの相関係数	- 102	- 358	- 119	- 402	- 236	418	208	- 173
	有意確率（両側）	717	190	672	137	388	121	458	637
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
照明/発光物（立）	Pearsonの相関係数	- 165	- 058	098	- 090	285	346	093	405
	有意確率（両側）	667	839	728	750	304	207	741	134
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
塗装面/シート張り（立）	Pearsonの相関係数	- 194	096	051	149	354	335	035	232
	有意確率（両側）	488	735	857	697	185	223	900	405
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
石/煉瓦/タイル（平）	Pearsonの相関係数	128	023	- 108	- 214	048	324	155	198
	有意確率（両側）	649	935	701	444	866	238	582	480
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
コンクリート（平）	Pearsonの相関係数	- 209	- 0 11	- 007	087	145	164	- 217	208
	有意確率（両側）	455	969	980	757	606	550	437	248
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
木材（平）	Pearsonの相関係数	- 006	- 605*	- 70	- 328	- 413	- 222	- 245	- 058
	有意確率（両側）	884	017	804	232	126	426	379	844
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
植栽（平）	Pearsonの相関係数	009	- 616*	- 077	- 441	- 494	- 180	- 148	- 180
	有意確率（両側）	876	014	784	100	061	521	600	620
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15
布/カーペット（平）	Pearsonの相関係数	- 231	- 185	- 103	165	- 171	- 009	035	- 210
	有意確率（両側）	407	509	715	667	642	973	901	462
	度数	15	15	15	15	15	15	15	15

「質的因子」と「平面形状数」：相関係数 0.664 の正の相関が得られた。この結果から平面の形状がシンプルな四角形と認識できる空間が質の良い空間と評価されており、形状が複雑になるにつれ質の良さが評価しにくいことがわかる。その他「質的因子」と立面の「コンクリート」との相関係数 0.884、「質的因子」と立面の「鏡」との相関係数 0.644 がみられた。

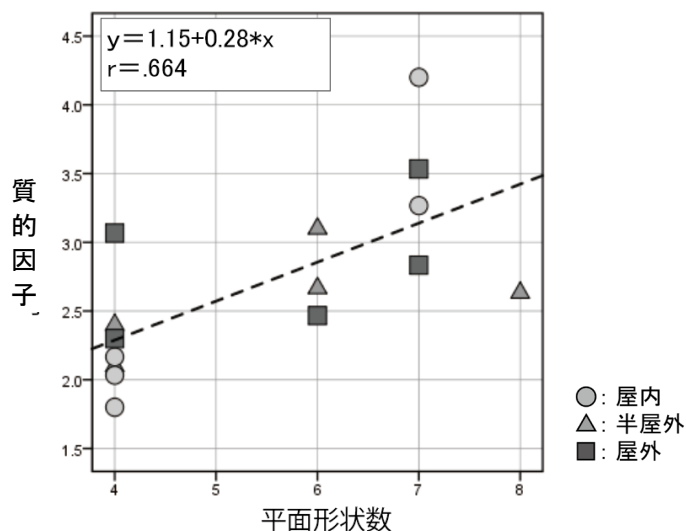


図 4.7.1 代表尺度と物理量による単相関分析図  
(質的性因子と平面形状数)

「色彩性因子」と「平面積」：相関係数-0.644 の負の相関が得られた。相関図を見ると平面積が少ない共有空間ほど硬い印象を与える傾向があることが読み取れる。また平面積が少なく硬い印象の空間は屋内または半屋外の空間に集中している。

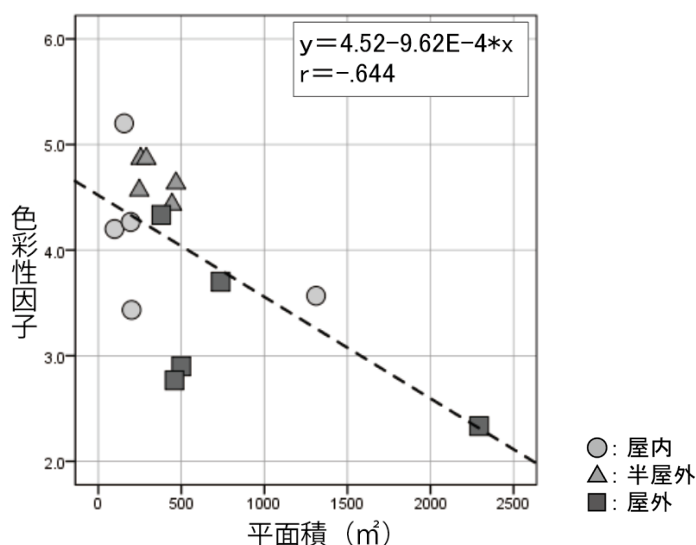


図 4.7.2 代表尺度と物理量による単相関分析図  
(色彩性因子と平面積)

「回遊性因子」と立面の「石/ 煉瓦/ タイル」: 相関係数 0.736 で正の相関が得られた。相関図より、立面の石・煉瓦・タイル類の素材面積が増加するほど空間を立体的に捉えている。また、屋内、半屋外、屋外空間がまばらに分布されていることから、共有空間全体に共通していることがわかる。

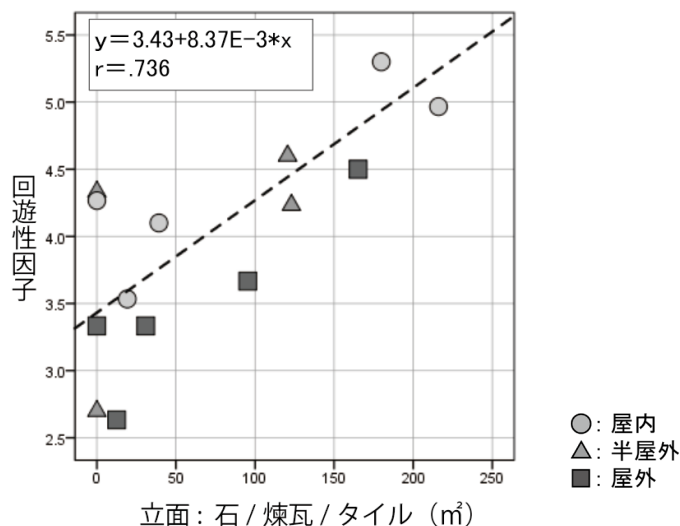


図 4.7.3 代表尺度と物理量による単相関分析図 (回遊性因子と立面: 石/煉瓦/タイル)

「繊細性因子」と「開口面積」: 相関係数 0.779 の正の相関を得られた。相関図からは開口面積が低下するほど繊細な空間として評価され、増加することで大胆な空間として評価される。また、半屋外の空間は開口面積が多く、屋内の空間は開口面積が少ないことが読み取れる。

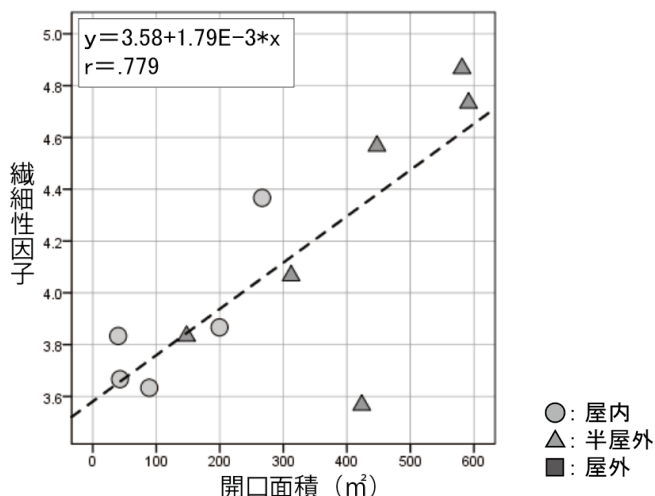


図 4.7.4 代表尺度と物理量による単相関分析図 (繊細性因子と開口面積)

「回遊性因子」と「表面積」：相関係数 0.732 の正の相関があり、表面積の割合が増加するほど立体的な印象を与える傾向がある。空間のタイプを見ると、屋内空間より半屋外空間のほうが、表面積が大きく立体感があることが分かる。また、「表面積」は、「繊細性因子」にも正の相関がみられ、表面積が空間の印象評価に関係していることが伺える。

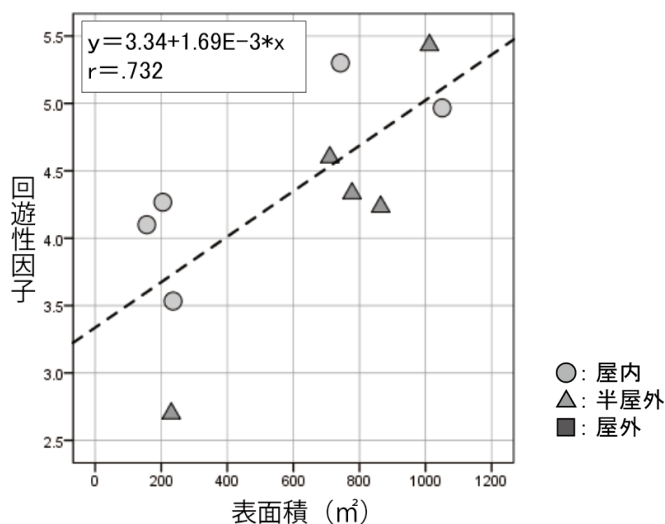


図 4.7.5 代表尺度と物理量による単相関分析図 (回遊性因子と表面積)

「視界性因子」と「開口面積」：相関係数-0.700 の負の相関があり、開口面積が増加するほど視界が開けた印象を与えている。

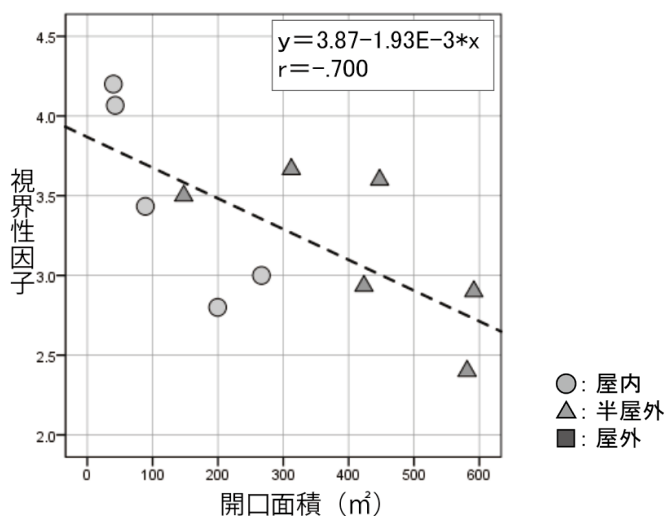


図 4.7.6 代表尺度と物理量による単相関分析図 (視界性因子と開口面積)

その他「色彩性因子」については、「短辺（平均）」との相関係数-0.640、平面の素材「木材」との相関係数-0.605、平面の素材「植栽」との相関係数-0.616、「印象性因子」については、「平面形状数」との相関係数 0.537、立面の素材「鏡」との相関係数 0.563、立面の素材「コンクリート」との相関係数 0.563、「視界性因子」については、「短辺（平均）」との相関係数-0.520、「高さ」との相関係数-0.709、「表面積」との相関係数-0.714、「回遊性因子」については、「短辺（平均）」との相関係数 0.558、「高さ」との相関係数 0.705、「繊細性因子」については、「表面積」との相関係数 0.713 が算定された。

単相関分析の結果を見ると、代表尺度と相関関係が見られたものは「平面の素材」よりも「立面の素材」であることから、共有空間の印象評価において最も関わりのある素材要素は立面の素材である可能性がある。

## 4.8 重回帰分析

代表 8 因子軸尺度の平均値を目的変数、物理量 22 要素を説明変数として、変数増減法による重回帰分析をし、代表尺度と平面の素材、立面の素材との関係を分析した。有意水準 10% で有意性のある予測式を 4 つ得られた (表 4.8.1)。

### 「質的因子」:

分析結果より、重相関係数 0.969、 $y = 3.162 + \text{「スチール/ アルミ/鉄 (立)」} \times -0.007 + \text{「コンクリート (立)」} \times 0.008 + \text{「容積」} \times -8.245E-8$  の予測式が得られ、立面の「スチール/ アルミ/鉄 (立)」、「容積」の割合が増すと質が良くなり、立面の「コンクリート」が増えるほど質が悪くなる結果になった。この式より、空間の質感は立面の素材面積によって決まり、最も影響度の大きい要素は立面の「スチール/ アルミ/鉄」である。焼付け塗装などの金属類の壁にすることで空間の質の印象を高めていると推察する。また、心理量の実験結果から、打放しのコンクリート空間は共有空間の構成として不向きである傾向が見られた。

### 「色彩性因子」:

重相関係数 0.986、 $y = 4.855 + \text{「石/ 煉瓦/ タイル (立)」} \times -0.008 + \text{「布/ カーペット (平)」} \times -0.009 + \text{「高さ」} \times -49.393 + \text{「石/ 煉瓦/ タイル (平)」} \times -0.001$  の予測式が得られ、立面の「石/ 煉瓦/ タイル」、平面の「布/ カーペット」、「高さ」、平面の「石/ 煉瓦/ タイル」が増えるほど、暖かく、多彩な、柔らかい印象を与える予測式が得られた。影響度は立面の「石/ 煉瓦/ タイル」が高く、平面の「布/ カーペット」は 5 割程度である。「高さ」、平面の「石/ 煉瓦/ タイル」は影響度が低い、どちらも増加することで暖かく、多彩な、柔らかい印象を与えている。

以上の結果と心理量の実験結果を踏まえると、暖色系の「石/煉瓦/タイル」を用いる空間が「暖かく、多彩な、柔らかい印象」を与えていることから、立面の「石/煉瓦/タイル」が増えるほど空間に暖かく、多彩な、柔らかい印象をもたらす予測式ができたと考えられる。

よって、「色彩性因子」による空間の印象評価と、空間の素材面積、断面構成による関係性を得ることができたが、色が影響する可能性もある。

「視界性因子」:

重相関係数 0.978、 $y = 4.163 + \text{「開口面積」} \times -0.003 + \text{「石/煉瓦/タイル(平)」} \times 0.002 + \text{「スチール/アルミ/鉄(立)」} \times -0.004$  の予測式が得られ、「開口面積」、立面の「スチール/アルミ/鉄」が増加すると視界が開け、平面の「石/煉瓦/タイル」が増加するほど視界が閉じるという予測式が得られた。この結果より、開口面積が同じ空間の場合でも立面の素材を工夫することで開放感が増す可能性がある。

「繊細性因子」:

重相関係数 0.991、 $y = 3.503 + \text{「開口面積」} \times 0.002 + \text{「植栽(平)」} \times -0.004 + \text{「塗装面/シート張り」} \times 0.002 + \text{「コンクリート(立)」} -0.004 + \text{「塗装面/シート張り」} \times 0.002 + \text{「コンクリート(立)」} \times 0.002$  の予測式が得られ、「開口面積」、立面の「塗装壁/シート張り壁」、立面の「コンクリート」が増加することで大胆な印象を得られている可能性がある。

分析結果を全体的に見ると、全ての予測式において最も影響を与えていた要素は立面の素材であり、単相関分析の結果とも一致している。また、立面、平面の素材「石/煉瓦/タイル」がそれぞれ 2 つの予測式に含まれており、素材の中で最も印象評価に影響を与える要因であることがわかる。「ガラス」はどの予測式にも含まれておらず、空間の印象評価に関係しない要素と推測した。

表 4.8.1 重回帰分析

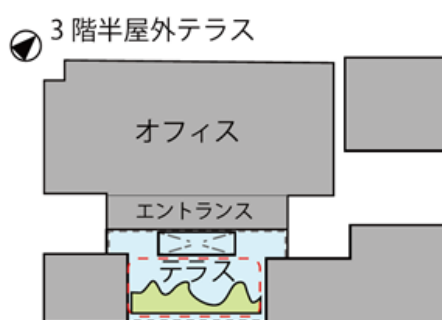
質的因子	定数、偏回帰係数				重相関係数	
	予測式	3.162+	X1:スチール/アルミ/鉄(立)×-0.007+	X2:コンクリート(立)×0.008+		X3:容積×-8.245E-8
標準化偏回帰係数	定数	-0.580		0.472	-0.230	R2乗:0.909
色彩性因子	定数、偏回帰係数				重相関係数	
	予測式	4.855+	X1:石/煉瓦/タイル(立)×-0.008+	X2:布/カーペット(平)×-0.009+		X3:高さ×-49.393+
標準化偏回帰係数	定数	-0.832	-0.500	-0.264	-0.189	R2乗:0.951
視界性因子	定数、偏回帰係数				重相関係数	
	予測式	4.163+	X1:開口面積×-0.003+	X2:石/煉瓦/タイル(平)×0.002+		X3:スチール/アルミ/鉄(立)×-0.004
標準化偏回帰係数	定数	-1.143	0.548		-0.436	R2乗:0.935
繊細性因子	定数、偏回帰係数				重相関係数	
	予測式	3.503+	X1:開口面積×0.002+	X2:植栽(平面)×0.004+		X3:塗装面/シート張り(立面)×0.002+
標準化偏回帰係数	定数	0.954	-0.544	0.190	0.156	R2乗:0.968



#### 4.9 特異例の考察

現地確認では、主に接地階（1階）に多くの人が集まっていた。また椅子等がある場所に多く人々は滞在していた。

S1タイプの「KE」半屋外の3階テラスは、長辺の一方が吹抜け空間である「ガレリア」に面し、片方が壁のない吹きさらしである。また、他の施設にアクセスする出入口が1か所のみであった。また、椅子、テーブルおよびベンチが設置され、植栽も設けられている。しかしながら、滞在の利用が少ない傾向が見られた（図・写真4.9.1）



図・写真4.9.1 KE 3階テラスの平面図、現地写真

心理的評価実験では「回遊性がない」と評価され、また「質が良い」空間と捉えられている。しかしながら、この空間の利用者が少ない実態から、アプローチのし難さに加え、「KE」3階テラスの立面の素材は空間の「質」を高める「石/煉瓦/タイル系」であったが、壁のない吹きさらしの面積のほうが大きく、このことが居心地の悪さにつながり、利用者が少ない要因となっている可能性がある。

#### 4.10 既往研究と本研究の心理的評価との関係

積田らの一連の既往研究のうち、内部空間の心理的評価に関する結果と本研究の結果を一覧(表 4.10.1)に示す。

8 論文のタイトルを以下に示す。

共有空間：本研究を示す

中間領域：複合建築の中間領域における心理的評価と空間構成との相関分析<sup>24)</sup>

階段：階段空間における基本的構成要素が及ぼすデザインの評価の研究<sup>20)</sup>

吹抜認知：吹き抜け空間における幅・奥行・高さの認知特性の研究<sup>18)</sup>

内部色彩：建築内部空間における色彩思考と心理的評価の分析<sup>25)</sup>

配色パターン：建築内部の配色パターンによる相応性と心理的評価の分析<sup>26)</sup>

教室開口：普通教室の開口形態とテクスチャーの心理的評価の分析<sup>27)</sup>

教会：教会礼拝堂における空間構成要素の変化による神聖さの心理量分析<sup>28)</sup>

一覧のうち、「共有空間」と「中間領域」はともに複合建築の共有空間を対象としている。「中間領域」の被験者はすべて中国人であったが、「共有空間」と似たような傾向を示している。

「質のよい—質の悪い」「個性のある—個性のない」「境界のある—境界のない」が、複合建築の共有空間に共通する代表因子軸である。

「柔らかい—硬い」は、「共有空間」「中間領域」「階段」「内部色彩」「配色パターン」「教室開口」で、1軸、2軸であった。

「対称的な—非対称的な」は、「共有空間」「中間領域」「吹抜け認知」「開口形態」「教会」に共通しており、形態に関する代表因子軸と言える。

「共有空間」と「内部色彩」「配色パターン」をみると

「居心地の良い—居心地の悪い」「騒々しい—静かな」は共通の因子軸となっており、空間の雰囲気は色が関係していると推測する。

表 4.10.1 内部空間の心理的評価実験における代表因子軸一覧

NO.	形容詞	共有空間	中間領域	階段デザイン	吹抜け認知	内部色彩	配色パターン	開口形態	教室開口	教会
1	質の良い — 質の悪い	1	(2)	—	—	—	—	—	—	—
2	居心地の良い — 居心地の悪い	(1)	(1)	—	—	1	(1)	(4)	—	—
3	新しい感じ — 古い感じ	(1)	2	—	—	4	—	(2)	—	(2)
4	調和した — 不調和した	(1)	(3)	4	—	(2)	—	—	(1)	—
5	統一感のある — ばらばらな	(1)	(2)	—	—	(2)	—	3	—	(8)
6	落ち着きのある — 落ち着きのない	(1)	(2)	—	3	(2)	(2)	(4)	1	(1)
7	柔らかい — 硬い	2	1	1	—	(1)	(1)	—	2	—
8	騒々しい — 静かな	(2)	(4)	—	—	2	2	—	—	(1)
9	個性のある — 個性のない	3	(1)	—	—	—	—	—	—	—
10	地味な — 派手な	(3)	4	2	(1)	—	—	—	—	(3)
11	印象がある — 印象がない感じ	(3)	(1)	—	—	—	—	(2)	(3)	5
12	装飾的な — 非装飾的な	(3)	(1)	(2)	1	—	—	—	—	—
13	視界が開けた — 視界の閉める	4	5	—	(2)	—	—	1	—	—
14	開放的な — 閉鎖的な	(4)	(5)	—	2	—	1	—	(2)	2
15	明るい — 暗い	(4)	(2)	—	(2)	3	—	(1)	(2)	—
16	狭い — 広い	(4)	(4)	(3)	(2)	(3)	(1)	(1)	—	(7)
17	平面的な — 立体的な	5	(4)	—	—	(2)	4	—	—	—
18	境界のある — 境界のない	6	(3)	—	—	—	—	—	—	—
19	領域性がある — 領域性がない	(6)	3	—	—	—	—	—	—	—
20	対称的な — 非対称的な	7	(6)	—	(4)	—	—	(3)	—	(8)
21	中心性がある — 中心性がない	(7)	6	—	4	—	—	(1)	—	(6)
22	繊細な — 大胆な	8	(4)	(1)	—	(2)	(2)	(1)	—	9
23	平凡な — 斬新な	—	—	2	—	(4)	—	2	3	—
24	不快な — 快適な	—	—	—	—	—	7	4	—	—
25	シンボリック性のある — 無個性な	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26	躍動的な — 滞った	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	安心感 — 不安感のある	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28	勾配がゆるやか — 急な	—	—	3	—	—	—	—	—	—
29	調和が強い — 調和が弱い	—	(3)	—	—	—	—	—	—	—
30	誘導性のある — 誘導性のない	—	—	—	5	—	—	—	—	—
31	窮屈な — のびのびした	—	—	—	—	5	—	(1)	—	—
32	過ごしたい — 過ごしたくない	—	—	—	—	—	5	—	—	—
33	魅力的な — 魅力的でない	—	—	—	—	—	6	—	—	—
34	簡素な — 華やかな	—	—	—	—	—	4	—	—	—
35	聖なる — 俗な	—	—	—	—	—	—	—	—	1
36	正面性のある — 正面性のない	—	—	—	—	—	—	—	—	3
37	複雑な — 単調	—	—	—	—	—	—	—	—	4
38	垂直な — 水平な	—	—	—	—	—	—	—	—	6
39	奥行のある — 奥行のない	—	—	—	—	—	—	—	—	7

例：数字「1」心理因子軸の1軸で代表評価尺度の形容詞を示す。「(1)」は1軸の代表評価尺度以外の形容詞を示す。

#### 4.11 まとめ

本研究では、複合建築の共有空間 19 事例 30 空間における心理的評価実験から得られた代表尺度 8 つを目的変数とし、平面、立面の空間構成と素材の物理量（計 22 要素）を説明変数として重回帰分析を行うことにより、4 つの予測式を得ることができた。

そのうち、平面・立面の素材で有用な予測式を得られたのは「質的因子」「視界性因子」の 2 つであったことから、複合建築の共有空間における空間的特徴を以下のように明らかにすることができた。

- (1) 共有空間の質感、開放度、立体感は立面の素材が大きく影響を及ぼしており、「石 / 煉瓦 / タイル」等の素材を使用することで暖かな、居心地のよい、柔らかな雰囲気を与える。
- (2) 共有空間を演出するには素材に加え、色彩、配置計画などの要素が含まれると考えられる。

以上により本研究の対象事例における複合建築の共有空間について心理的実験評価と物理量との相関分析双方の結果により、複合建築の共有空間の構成による心理的評価との関係について、あきらかにした。

## 第5章

まとめ

結語

謝辞

参考文献

注釈

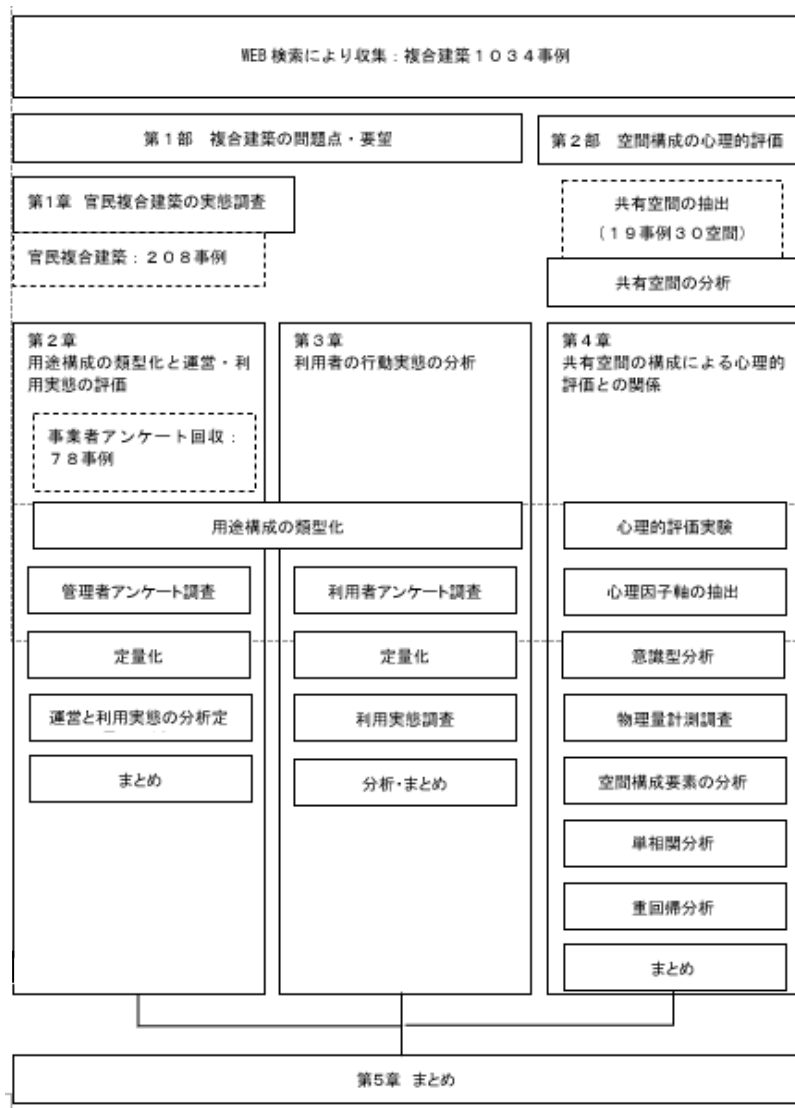
発表論文

## 第5章 まとめ

本研究では、複合建築に人々を呼び込む要素である「用途構成」、「空間構成」に着目してふたつの観点から分析した。

第1部では、全国にある官民複合建築を対象に、利用実態調査の分析により、官民複合建築の課題と要望をあきらかにした。

第2部では、複合建築にある不特定多数の人々も自由に行き来できる「共有空間」の構成による心理的評価構造と空間構成要素の数量的関係をあきらかにした。



第1部によりおこなった全国にある官民複合建築の実態調査と利用実態調査の分析をもとに、官民複合建築の課題と要望をまとめた。

全国にある官民複合建築 208 事例の実態について

- (1) 所在地別では、南関東地域多かったが、その他の地域でもほぼ均等に分布している。
- (2) 竣工年では、73%が1990年代後半から2005年にかけて人口100万人以下の都市に建設されていたが、2015年以降2020年は32事例建設され、そのうちの84%は50万人未満の都市に建設されている。近年、大都市以外の都市にも建設が進められている傾向がある。
- (3) 建物規模では、50万人未満の都市では中低層建物が多いが、30階以上の高層建物もあり、全体的には、都市人口にかかわらず建物階数は低層～30階に分布しており官民複合建築の規模は広範囲にある。
- (4) 立地では、75%が駅に直結、または駅から徒歩5分未満の場所にあり、また、72%が「角地」「大通り」に面した敷地に建設されている。公共交通を利用する利用者の利便性と多数の人が行来する環境を重視している。
- (5) 断面構成では、78%が諸用途の配置が類似用途の施設を階にまとめて配置する「積層集結型」であった。コア形式では、「分散コア」と「片側コア」であった。

官民複合建築 78 事例について、用途構成により次の4タイプに類型化した。

C1(商業・業務+文化、コミュニティ等)タイプ

C2(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等)タイプ

C3(商業+コミュニティ、住居等)タイプ:

C4(商業+コミュニティ、業務等):

管理者と利用者への利用実態調査を通じての課題と要望について

(6) タイプ共通の管理者と利用者の評価は複数の施設の利用、諸室の相互利用ができる「利便性が高い」であった。

(7) タイプ共通の課題は、専用エレベーターや営業時間が異なるエレベーターによる動線の複雑さや出入口が複数あることで、「利用者は迷いやすい」、「管理者は管理が複雑」であった。

(8) タイプ共通の要望は、管理者と利用者とも、座って滞在できる飲食スペースや休憩所等の空間がより必要とされた。

(9) タイプ別での課題と要望は、

C1(商業・業務+文化、コミュニティ等) タイプ：

EV ホールが混雑するとの指摘が多い。低層部が商業や文化、高層部がオフィスで構成され、高層階エレベーターと低層階エレベーターの配置により、管理の複雑さと行き先がわかりにくいことが課題である。要望は飲食施設の要望が高かった。

C2(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等) タイプ：

C1と同様、行き先がわかりにくい、EVが混雑することを課題にあげている。要望は、飲食施設や飲食のできる休憩スペースと授乳室などの回答がタイプ別のなかでは一番多かった。

C3・4(商業+コミュニティ、住居 or 業務等) タイプ：

商業中心の施設構成により、イベント開催時におけるトイレ等やEVホール、玄関ホールの混雑の指摘がタイプ別では一番多かった。



第2部では、複合建築にある不特定多数の人々も自由に行き来できる「共有空間」の雰囲気の評価する心理的評価構造として、第1 質的因子、第2 色彩性因子、第3 印象性因子、第4 視界性因子、第5 回遊性因子、第6 領域性因子、第7 中心性因子、第8 繊維性因子の計8軸を抽出した。

第1因子：質的因子：質のいい感じ—質の悪い感じ、清潔感のある感じ—清潔感のない感じ、美しい感じ—醜い感じ等で構成されている。

第2因子：色彩性因子：柔らかい感じ—硬い感じ、暖かい感じ—冷たい感じ—親しみのある感じ—よそよそしい感じ等で構成されている。

第3因子：印象性因子：個性のある感じ—個性のない感じ、目立つ感じ—目立たない感じ、地味な感じ—派手な感じ等で構成されている。

第4因子：視界性因子：視界の開けた感じ—視界の閉じた感じ、開放的な感じ—閉鎖的な感じ等で構成されている。

第5因子：回遊性因子：平面的な感じ—立体的な感じ、変化のある感じ—変化のない感じ等で構成されている。

第6因子：領域性因子：境界線のある感じ—境界性のない感じ、領域性がある感じ—領域性がない感じ等で構成されている。

第7因子：中心性因子：対称的な感じ—非対称的な感じ等で構成されている。

第8因子：繊細な感じ—大胆な感じで構成されている。

(10) 重回帰分析の結果、共有空間の質感、開放度、立体感は立面の素材が大きく影響を及ぼしており、「石/ 煉瓦/ タイル」等の素材を使用することで暖かな、居心地のよい、柔らかな雰囲気を与える。

「質的因子」は立面の「スチール/ アルミ/ 鉄」が最も影響度が大きい。焼付け塗装などの金属類の壁にすることで空間の質的印象を高めていると推測する。

「色彩性因子」は立面の「石/ 煉瓦/ タイル」の影響度が高い。

「視界性因子」は、「開口面積」と立面の「スチール/ アルミ/ 鉄」の影響度が高い。

「繊維性因子」は「開口面積」の影響度が高い。

(11) 共有空間を演出するには素材に加え、色彩、配置計画などの要素が含まれると考えられる。

## 今後の課題

日本では2020年1月頃から流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにより「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が発令された。本研究方法である対面（インタビュー方式）でおこなっていた利用者アンケートの実施および現地調査について、計画していた対象地での実施が困難（または調査について建物管理者の理解が得られない）な状況に陥った。この状況が収束する時期は現時点（2022年3月）でも予測できていない。

しかしながら、本研究では、第1章で、全国主要都市にある官民複合建築の実態と傾向を把握し、官民複合建築の立地環境や構成について、地域別の差異は特段なかったことをあきらかにした。第2章、第3章では、複合建築について建物の管理者への利用実態の調査と類型別代表複合建築の利用者の利用実態調査から得られた双方の課題と要望についてあきらかにした。また、第4章では複合建築の共有空間について現地計測調査と心理的評価実験によって得られたデータを基に分析し、特に仕上げ素材に関する関係性についてあきらかにして、設計における基礎的な知見をまとめ、一定の成果が得られた。

次については今後の課題とし、取り組んでいきたいと考えている。

- ・当該複合建築に来られない人々の意見、要望などの収集は別途の課題とする。
- ・管理者と利用者の共通評価である「迷いやすい」に関して、既往研究では、渡邊照彦ら<sup>53)</sup>の「迷い行動の因子と情報空間との関連分析 建築空間における探索行動の認知心理学的考察 その4」があるが対象は複合建築ではないので、複合建築における空間構成と視界との関連性などについて、今後の課題とする。
- ・共有空間の演出には、仕上げ素材に加え、色彩などの要素が含まれると推測する。また、所在地の地域性などに関しての心理的評価への影響について、共有空間のサンプルを増やす、被験者の対象を広げるなど、今後の課題とする。

## 結語

行政が官民連携の取組みを推進した公共と民間運営の施設を有する官民複合建築の建設が進められ、住民の利便性や地域の賑わいをつくりだす効果を期待されている。また、複合建築の多くは再開発や総合設計制度による高層化と容積率緩和により、「ギャラリー」「アトリウム」「テラス」「敷地内の広場・通路」等の共有空間が配置されることで各施設をつなぎ、イベント会場や居心地の良いサード・プレイス等の多様な利用によって、共有空間は施設の利用目的以外にも利用されている。共有空間は複合建築全体の印象を高め、豊かな空間を演出する効果も果たしている。土地の有効活用と老朽化した公共施設の再配置の検討や建替え需要の背景により、今後も全国で、複合建築の建設がすすめられる傾向にあると予想されることから、複合建築の計画における知見を得ることは重要であるといえる。

本研究では、文化施設や商業施設など複数の用途が集まった複合建築を対象として、人々を呼び込む要素である「用途構成」、「空間構成」に着目した。全国にある官民複合建築を対象にその実態を把握し、建物の管理者及び利用者との評価の分析から、官民複合建築の課題と要望をあきらかにした。

次に共有空間について、人々がその空間をどのように評価しているか、主に屋外空間の既往研究で用いた一連の分析方法、心理的評価構造と空間構成要素との分析、単相関および重回帰分析から、複合建築における共有空間の雰囲気、主に空間に構成されている仕上げ素材との数量的関係をあきらかにした。

本研究の成果の要点を以下にまとめる。

第1部でおこなった調査と分析では、

- ①全国 977 都市（区・市）にある複合建築を WEB 検索より収集した 1034 事例から、官民複合建築 208 事例を抽出し、所在地別では南関東に 42%建設され、その他の地域にはほぼ均等に分布している、都市人口と竣工年では 2015 年から 2020 年に 32 事例建設された 84%は 50 万人未満の都市に建設され、近年大都市以外にも建設が進められている。50 万人未満の都市での建設規模は中低層から高層まで広範囲にあり、立地と周辺環境では駅から 5 分以内や角地・大通りが多数を占めるなど、また断面構成

は積層集結型が多く、平面構成（コア形式）では分散コア 45%と片側コア 33%である傾向であった。また、地域別による特段の差異はみられなかった。

②官民複合建築 208 事例のうち、回答を得た 78 事例を用途構成により C1(商業・業務+文化、コミュニティ等)タイプ、C2(商業・文化+コミュニティ、住居、教育等)タイプ、C3・4(商業+コミュニティ、住居 or 業務等)タイプに類型化することができた。建物の管理者を対象とした運営・利用実態調査から、複数の施設が利用できる「利便性の高さ」が管理者の評価が高い結果となった。反面、専用エレベーターや営業時間が異なるエレベーターの運用、動線の複雑さや出入口が複数あることで、「利用者は迷いやすい」、「管理が複雑」など各タイプ共通の課題であった。

③タイプ別 5 事例について、建物の利用者を対象とした調査票 170 回答の分析により、タイプ別の課題をあきらかになった。また、6 事例の共有空間における滞留調査の結果から、滞留を促すには、適切な椅子・ベンチ等の配置が必要であるなど、行動の実態を把握した。また、管理者と利用者双方の分析結果から、施設間の相互利用や立地環境による「利便性の良さ」が共通評価であり、幅広い年代が利用する複合建築の共通の課題は、コアの分散や出入口数による「迷いやすさ」、イベント開催時の混雑するエリア、飲食スペースや休憩スペースの必要性などであった。

これらの課題を解決するには、わかりやすい案内表示と多くの人が集まる空間や動線にゆとりを持つことも必要と考える。なお、「迷いやすさ」について複合建築における空間構成と視界との関連性などは、今後の研究課題としたい。

第 2 部でおこなった実験と分析では、

④複合建築の核となる共有空間に着目して、吹抜け、通路、広場、休憩空間を屋外、半屋外、屋外の 3 分類し、計 19 事例 30 空間を対象とした心理的評価実験を行った。因子分析の結果、得られた心理因子軸は、質的因子、色彩性因子、印象性因子、視界性因子、回遊性因子、領域性因子、中心性因子、繊細性因子の 8 軸である。これらを目的変数、平面、立面の空間構成と素材の物理量（計 22 要素）を説明変数とし重回帰分析を行った結果、「質的因子」「色彩性因子」「視界性因子」「繊細性因子」の 4 つの予測式を得た。平面・立面の素材で有用な予測式は「質的因子」と「視界性因子」で、複合建築の共有空間の質感、開放度、立体感は立面の素材が大きく影響を及ぼしてお

り、「石/ 煉瓦/ タイル」等の素材を使用することで暖かな、居心地のよい、柔らかな雰囲気を与えること、また共有空間を演出するには素材に加え、色彩や家具などの配置、また共有空間の位置、アプローチの仕方についても重要である。

以上、本研究では、第1部でおこなった調査の分析をもとに、官民複合建築の課題と要望についてあきらかにし、第2部でおこなった分析をもとに、空間構成要素と心理的評価との関係について、有益な結果が得られた。

総じて、複合建築は、単に複数の用途が一建物にあるだけではなく、そこに配置される共有空間は、幼児から大人まで、さまざまな人々が多様な目的で利用することができ、さらに、交流を誘発されるような空間にすることが可能である。暖かな、居心地のよい空間は、多くの人を魅了し、建物全体の印象を高め、建築空間を豊かに演出している。また、この共有空間を地域に開放することによって、その地域を含めた賑わいを創出することも期待される。

複合建築の設計を進める際に、複合建築の利点をいかし、本研究であきらかになった課題と要望をふまえ、空間のつくり方について、実務的にも有益な基礎的知見が得られた。



## 謝辞

本研究を進めるにあたり、指導教員として様々なご指導を頂きました

積田 洋 教授

に深く感謝致します。

本論文の審査を頂き、副査として様々なご指導を頂きました

山田あすか 教授

伊藤 俊介 教授

大崎 淳史 准教授

各先生方には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

本論文の審査を頂き、外部審査員として様々なご指導を頂きました

横山ゆりか 教授

に深く感謝致します。

本論文の作成にあたり、様々な助言・教示を頂きました

小林 美紀 先生

に深く感謝致します。

本研究を共に進め、様々な支援を頂いた

高木 紫帆 殿、周 森林 殿

鈴木 卓磨 殿

羽賀 雄生 殿 松藤 一貴 殿

小曾根 崇太 殿 原 菜摘 殿

伊藤 光暉 殿、岸 隼人 殿

に深く感謝致します。

アンケート調査や現地調査にご協力賜った複合建築の管理者および利用者の方々

に深く感謝します。

実験にご協力して頂いた学生諸氏の方々にも、深く感謝致します。

## 参考文献（論文）

- 1)宮本 文人，下倉 玲子，能勢 健弘：駅前再開発による複合建築物における地域集会施設の複合形態と相互利用，日本建築学会計画系論文集，第 615 号，pp. 29-35，2007. 05
- 2)酒井 要，大島 秀明：設置された図書館・施設の状態と図書館来館者数に対する影響複合施設に設ける図書館整備に関する研究 その1，日本建築学会計画系論文集，第 752 号，pp. 1909-1918，2018. 10
- 3)奥田 欣也，山口 健太郎：複合型福祉施設の利用実態と交流様態に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第 705 号，pp. 2375-2385，2014. 11
- 4)谷口 汎邦，熊谷 昌彦：教育関連施設の空間複合形態の類型化とその利用実態の特性について：都市における教育関連施設の複合化計画に関する研究(3)，日本建築学会計画系論文集，第 357 号，pp. 41-51，1985. 11
- 5)谷口 汎邦，熊谷 昌彦：教育関連施設の機能複合による施設類型化と面積配分特性について 都市における教育関連施設の複合化計画に関する研究(2)，日本建築学会計画系論文集，第 354 号，pp. 50-60，1985. 08
- 6)李 東ウック，大友 景祐，丁 志映，小林 秀樹：都市型用途複合施設の利用実態に関する研究 -日本と韓国の4事例を対象として-，日本建築学会計画系論文集，第78巻 第690号，pp. 1761-1769，2013. 08
- 7)北崎 朋希：大規模複合再開発施設の利用実態と評価構造に関する研究 東京都23区内10施設を対象として，日本建築学会計画系論文集，第79巻 第695号，pp. 155-161，2014. 01
- 8)田村 正：複合化大型商業劇場の事業背景と空間構成，日本建築学会計画系論文集，第531号，pp. 103-109，2000. 05
- 9)船曳 悦子，松本 直司，仁木 智也，櫻木 耕史：市庁舎における市民空間の位置関係とその滞留特性について，日本建築学会計画系論文集，第 647 号，pp. 51-56，2010. 01

- 10) 船曳 悦子, 松本 直司, 田川 哲郎, 櫻木 耕史, 仁木 智也: アンケートに基づく市民空間の現状とその位置関係との比較 市庁舎建築における市民空間のあり方に関する研究 その2, 日本建築学会計画系論文集, 第 639 号, pp. 1037-1042, 2009. 05
- 11) 長谷部 久人, 森 傑: 日本建築学会賞 (作品) 岩見沢複合駅舎の利用実態と空間特性, 日本建築学会計画系論文集, 第 691 号, pp. 1909-1908, 2013. 09
- 12) 三ヶ尻 幸生, 横山 俊祐: 生涯学習施設におけるコモンスペースの評価に関する研究: 複合化による新たな機能創出に向けてのコモンスペースの役割, 日本建築学会計画系論文集, 第 565 号, pp. 143-150, 2003. 03
- 13) 広田 直行, 山口 高嗣: コミュニティ施設の複合化事例にみる共用スペースの構成 -横浜市地区センターを対象として-, 日本建築学会技術報告集, 第 15 巻, 第 29 号, pp. 195-200, 2009. 0
- 14) 積田 洋, 廣野 勝利: アーバンコンプレックスにおける空間意識と空間構成要素の相関分析-アーバンコンプレックスの研究 (その 1) -, 日本建築学会計画系論文集, 第 557 号, pp. 203-211, 2002. 7
- 15) 李 知映, 仙田 満, 矢田 努: 現代建築におけるアトリウムの類型と評価に関する研究: 管理者・利用者アンケート調査および歩行・滞留者数観察調査にもとづく分析, 日本建築学会計画系論文集, 第 572 号, pp. 17-24, 2003. 10
- 16) 李 知映, 仙田 満, 矢田 努: 室内広場型アトリウムの公共性評価に関する研究: 滞留者数・滞留者密度・一般利用者率による滞留空間としての利用の評価, 日本建築学会計画系論文集, 第 574 号, pp. 17-24, 2003. 12
- 17) 李 知映, 仙田 満, 矢田 努: 利用者の意識評価によりみた室内広場型アトリウムの計画に関する研究: 滞留者アンケート調査にもとづく満足度と入りやすさの要因分析により, 日本建築学会計画系論文集, 第 581 号, pp. 17-24, 2004. 7
- 18) 積田 洋, 玉尾祐輝, 徐 華: 吹き抜け空間における幅・奥行・高さの認知特性の研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 75 巻, 第 648 号, pp. 315 -320, 2010. 2



- 19) 積田 洋, 高野 翔太: 内部空間における開口形態と心理的評価の相関分析, 日本建築学会計画系論文集, 第 77 巻, 第 675 号, pp. 1009 -1015 , 2012. 5
- 20) 中山 誠健, 積田 洋, 浦部 知義, 元田 草太, 須賀 睦: 階段空間における基本的構成要素が及ぼすデザインの評価の研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 75 巻, 第 654 号, pp. 1883 -1888 , 2010. 8
- 21) 槇 究, 澤 知江: 室内雰囲気評価に及ぼす色彩・照明・素材の複合効果, 日本建築学会計画系論文集, 第 516 号, pp. 15-22, 1999. 2
- 22) 船越 徹・積田 洋 編著: 建築・都市計画のための空間の文法, pp. 8-9, 「空間計画学の研究方法」, 株式会社彰国社, 2011. 8. 10
- 23) 積田 洋: 都市的オープンスペースの空間意識と物理的構成との相関に関する研究, 日本建築学会計画系論文報告集, 第 451 号, pp. 145-154, 1993. 9
- 24) 周 森林: 複合建築の中間領域における心理的評価と空間構成との相関分析, 東京電機大学大学院修士論文, pp. 96-97, 2019
- 25) 菊池 俊昭、積田 洋, 小林 美紀: 建築内部空間における色彩嗜好と心理的評価の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道), E-1, pp. 651-652, 2018. 8
- 26) 吉岡 昂造、積田 洋, 小林 美紀, 臼杵 大地: 建築内部空間の配色パターンによる相応性と心理的評価の分析 建築内部空間の色彩構成の研究 (その 2), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), E-1, pp. 627-628, 2015. 9
- 27) 大田 遼、積田 洋, 吉村 彰: 教会礼拝堂における空間構成要素の変化による神聖さの心理量分析 普通教室の開口形態とテクスチャーの心理的評価の分析-小中高における諸教室の景観構造に関する研究 (その 9), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道), E-1, pp. 437-438, 2013. 8
- 28) 猪俣 雄一、積田 洋: 教会礼拝堂における空間構成要素の変化による神聖さの心理量分析-日本の教会堂における聖堂空間と外部空間構成の研究 (その 6), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道), E-1, pp. 671-672, 2013. 8

- 29) 積田 洋、泉田 倭志、馬屋 原敦、小林 美紀：高速道路休憩施設における建築ファサードの心理的評価と指摘エレメントとの相関分析，日本建築学会計画系論文集，第 83 巻，第 752 号，pp. 1887-1895，2018. 10
- 30) 込山 敦司、橋本 都子、初見 学、高橋 鷹志：室空間の容積と印象評価に関する実験的研究 -容積を指標とした空間計画のための基礎研究（その 1）, 日本建築学会計画系論文集，第 496 号，pp. 119-124，1997. 6
- 31) 秋山 美早季、西名 大作、杉田 宗、浅見 有季、田中 貴広、大石 洋之、小林 亮平：室内空間の心理的評価における全天球画像の代替可能性に関する研究，日本建築学会環境系論文集，第 83 巻，第 748 号，pp. 503-513，2018. 6
- 32) 坂原 弘也：北海道町村部における集会研修および体育等の複合施設の利用者特性について，日本建築学会計画系論文集，第 397 号，pp. 80-88，1989. 03
- 33) 高野 洋平、森永 良丙、伊藤 里佳：公共施設における持続可能な市民参加型運営に関する研究 -3つの文化複合施設プロジェクトを事例として-，日本建築学会計画系論文集，第 718 号，pp. 2791-2801，2015. 12
- 34) 池添 昌幸：1990 年代以降の公共複合施設における機能変更と空間改変 公共複合施設の運用段階における機能変更に関する検証研究 その 1，日本建築学会九州支部研究報告，第 54 号，pp. 101-104，2015. 03
- 35) 岸本 達也：多層構造モデルによる複合施設の最適配置，日本建築学会計画系論文集，第 529 号，pp. 233-239，2000. 03
- 36) 鈴木 勉：サービスの組合せに着目した複合サービス施設の最適配置，日本建築学会計画系論文集，第 540 号，pp. 189-195，2001. 02
- 37) 種村 俊昭、杉山 茂一、横山 俊祐：世代間交流施設における複合タイプ別の計画特性と運営者からみた交流実態，日本建築学会計画系論文集，第 636 号，pp. 355-362，2009. 02
- 38) 岩本 学、高井 宏之：ホール及び劇場を持つ複合施設の利用特性に関する研究，日本建築学会東海支部研究報告集，第 57 号，pp. 373-376，2019. 02

- 39) 李 乙圭, 高橋 鷹志, 鈴木 毅: 社会的交流からみた地域施設の利用しやすさに関する考察 : 東京都の社会教育施設のケーススタディー, 日本建築学会計画系論文集, 第 493 号, pp. 145-152, 1997. 03
- 40) 丁 圓, 今井 正次: 複数施設の利用を前提とした図書館配置計画のモデル的検討 選択利用を促す地方都市における図書館計画に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 577 号, pp. 41-48, 2004. 03
- 41) 常世田 良: 図書館と複合施設・複合的サービス-そのメリットとデメリット-, 図書館の連携サービスの可能性と課題, 第 58 回研究大会シンポジウム基調講演, 2017. 02
- 42) 田中 隆一郎, 村瀬 久志, 中井 孝幸: 図書館のある複合施設における利用圏域と利用行動からみた施設像に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告書, 第 54 号, pp. 381-384, 2016. 02
- 43) 古田 大介, 小島 悠暉, 小松 尚: 市民の多目的利用の視点からみた全国の公共図書館の空間と運営の傾向, 日本建築学会計画系論文集, 第 759 号, pp. 1057-1065, 2009. 05
- 44) 伊藤 隆雄, 今井 正次: 公共施設用地の効率的利用のための複合化の手法 公共施設行政における複合化・複合施設計画のあり方に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第 35 号, pp. 577-580, 1997. 02
- 45) 千葉 遥, 込山 敦司: 中間領域の空間構成が内と外につながりに及ぼす影響 : 中間領域の奥行き, 開口幅, 床高さに関する実験研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海), E-1, pp. 829-830, 2012. 9
- 46) 細田 絵里子, 積田 洋, 井上 嘉文: 外部-内部-緩衝空間の心理評価分析-緩衝空間の構成に関する研究 (その 3) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), E-1, pp. 769-770, 2011. 8
- 47) 井上 嘉文, 積田 洋, 細田 絵里子: 外部-内部-緩衝空間の指摘量と心理量との相関分析-緩衝空間の構成に関する研究 (その 4) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), E-1, pp. 771-772, 2011. 8

- 48) 竹山 夏美, 積田 洋, 細田 絵里子: 外部・緩衝・内部空間の心理評価分析-緩衝空間の構成に関する研究(その5)-, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), E-1, pp. 749-750, 2012.9
- 49) 細田 絵里子, 積田 洋, 竹山 夏美: 外部・緩衝・内部空間の指摘と心理量相関分析-緩衝空間の構成に関する研究(その6)-, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), E-1, pp. 751-752, 2012.9
- 50) 積田 洋, 高野 翔太: 内部空間における開口形態と心理的評価の相関分析, 日本建築学会計画系論文集, 第77巻, 第675号, pp. 1009-1015, 2012.05
- 51) 三輪田 真人, 積田 洋: 建築の内外部空間における幅・奥行・高さの空間認知に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第791号, pp. 43-53, 2022.01
- 52) 美濃部 幸郎, 坂本 一成, 塚本 由晴: ヴォリュームの配列からみた複合建築の構成における統合形式, 日本建築学会計画系論文集, 第525号, pp. 137-1044, 1999.11
- 53) 渡邊 照彦, 森 一彦: 迷い行動の因子と情報空間との関連分析 建築空間における探索行動の認知心理学的考察 その4, 日本建築学会計画系論文集, 第491号, pp. 99-107, 1997.01
- 54) 巖 先鏞, 長谷川 大輔: 日常生活にかえる施設利用時の複数施設利用を考慮した拠点配置と自治体の利便性評価, 日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol. 55. No3. pp. 1078-1085, 2020.10
- 55) 井竿 千鶴, 松行 美帆子: 市街地再開発事業完了地区における再々開発の現状及び今後のあり方, 日本都市計画学会 都市計画論文集, No15. pp. 107-113, 2016.06
- 56) 積田 洋: 都市空間の構成と意識構造の相関に関する研究, 東京大学学位論文, 1993.03

## 参考文献（著書、雑誌）

- 57) 新建築学大系編集委員会編, 村尾 成文, 浜田 信義, :新建築学大系 3 4 事務所・複合建築の設計, 彰国社 1982
- 58) 建築大辞典, 彰国社, 1993. 06
- 59) 建築・都市計画のための空間学, 日本建築学会, 井上書院, 1990. 11
- 60) 空間体験-世界の建築・都市デザイン, 日本建築学会, 井上書院, 1998. 12
- 61) 空間演出-世界の建築・都市デザイン, 日本建築学会, 井上書院, 2001. 11
- 62) 空間要素-世界の建築・都市デザイン, 日本建築学会, 井上書院, 2003. 07
- 63) 建築・都市計画のための空間計画学, 日本建築学会, 井上書院, 2002. 05
- 64) 建築・都市計画のための調査・分析方法, 日本建築学会, 井上書院, 2012. 05
- 65) 建築空間計画, 積田洋, 福井 通, 赤木 徹也, 金子 友美, 鈴木 弘樹, 山家 京子, 彰国社, 2012. 09
- 66) 建築・都市計画のための空間学辞典, 日本建築学会, 井上書院, 2016. 10
- 67) 建築空間計画, 積田洋 福井 通 赤木徹也 金子友美 鈴木弘樹 山家京子 彰国社, 2012. 09
- 68) 複合市民施設 2 コミュニティセンター (DA 建築図集), 日本建築家協会 (編), 彰国社, 1986, 06
- 69) シェア空間の設計手法 4 9 事例の空間構成, 猪熊 純(責任編集), 他, 学芸出版社, 2016. 12
- 70) 建築設計資料 5 8 地域の複合文化施設, 建築思潮研究所編, 建築資料研究社, 1996. 09

- 71) 新建築, 新建築社, 1985. 01-2021. 12
- 72) 近代建築. 近代建築社, 1998. 01-2021. 12
- 73) 建築雑誌, 増刊 作品選集, 日本建築学会, 2018. 03-2020. 03
- 74) 石原 舜介, 小林 陽太郎, 曾根 幸一, 立石 真, 林 昌二, 早川 和男, 山本 学  
治, 石黒 哲郎, 田島 学:主集 複合建築とは何か, 建築雑誌, pp. 415-425, 1967. 07
- 75) 上野 洋:主集 複合建築と実例 (主集 複合建築とは何か), 建築雑誌, pp. 426-431,  
1967. 07
- 76) 山崎 兌:複合建築の特質 (主集 複合建築とは何か), 建築雑誌, pp. 432-436,  
1967. 07
- 77) 北畠 照躬: 建築の複合化と人工土地 (主集 複合建築とは何か), 建築雑誌, pp.  
437-441, 1967. 07
- 78) 東 孝光: 都市施設としてのターミナル周辺その複合化の生態について (主集 複  
合建築とは何か), 建築雑誌, pp. 442-447, 1967. 07
- 79) 今井 隆雄: 地下街の環境とその維持 (主集 複合建築とは何か), 建築雑誌, pp.  
448-451, 1967. 07
- 80) 福原 裕治: 施設建築物とその管理 (主集 複合建築とは何か), 建築雑誌, pp. 452-  
456, 1967. 07

## 注釈

注 1) 国土交通省, 都市計画ウェブサイト: 立地適正化計画制度,  
[https://www.mlit.go.jp/en/toshi/city\\_plan/compactcity\\_network.html](https://www.mlit.go.jp/en/toshi/city_plan/compactcity_network.html)  
(参照 2016. 9. 1~2020. 12. 20)

注 2) 国土交通省, 都市計画ウェブサイト: コンパクト・プラス・ネットワーク  
[https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi\\_ccpn\\_000016.html](https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_ccpn_000016.html)  
(参照 2020. 12. 25)

注 3) 本報告での「管理者」は建物の管理を主な業務としている場合と、建物の管理のほか、施設運営（一部の施設の場合も含む）もおこなっている場合、施設所有者（区分所有の場合を含む）でもある場合等、さまざまな形態であったが、共通しているのは「建物の管理者」または「建物の管理代表者」であったので総称として「管理者」とした。

注 4) インターネットの検索エンジン (google) を用いて「複合施設」「官民」「再開発」を主なキーワードとして検索し、以下のようなウェブサイトから官民複合建築の名称、所在地、竣工年、延べ面積、階数、用途などの資料を収集した。(参照 2016. 9~2020. 12. 20)

・国土交通省 都市計画 § 9 市街地再開発事業

[https://www.mlit.go.jp/toshi/city\\_plan/toshi\\_city\\_plan\\_gennkyoutyousa\\_9](https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_gennkyoutyousa_9)

・東京都都市整備局 都市計画 市街地再開発事業地区一覧

<https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/sai-kai.htm#b>

その他、各役所ウェブサイト 都市計画 再開発・市街地再開発事業  
各施設のウェブサイト、管理運営管理者のウェブサイト

注 5) 都市人口は国勢調査 平成 27 年国勢調査 人口等基本集計に基づいた。  
政府統計の総合窓口  
<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003148500>  
(参照 2016. 9~2020. 12. 20)

注 6) 地図は Google Maps 地図データ@2018, 2019, 2020 を使用した。

<https://www.google.co.jp/maps> (参照 2018, 9~2020. 12)

注 7) 本研究での「商店街」はアーケードのある商店街に隣接していることを対象とした。

注 8) 断面構成、コア形式は、管理者から提供を受けた図面のほか、新建築および近代建築の掲載図面、役所ウェブサイトの再開発・市街地再開発事業の資料、各施設ウェブサイトフロアマップ、および各施設のパンフレットを用いた。

注 9) 1995 年都市再開発法制度の改正により土地の有効高度利用が可能となり、2016 年までに施行区域要件の緩和などの改正※) がたびたびおこなわれている。地方都市でも高層化がすすんでおり、これらを鑑み事例抽出範囲を 2000 年から 2018 年に設定した。

※) 都市再開発法制定 50 周年記念誌 ~都市再開発法制定・改正の経緯と変遷

[https://www.uraja.or.jp/50th\\_anniversary/commemorative\\_publication/](https://www.uraja.or.jp/50th_anniversary/commemorative_publication/)

公益社団法人全国市街地再開協会

注 10) 吹抜け空間のなかに、大階段などの形状が違うものがある場合は別の空間として扱った。共有空間は時にイベント会場になり、時に休憩スペースになるなど用途が可変になることが想定され、対象空間の抽出の際に用途は考慮しなかった。

注 11) 心理的評価実験の概要

実験資料：360 度写真（全天球撮影カメラ、リコー製の THETA を使用）

実験期間：2019 年 11 月 20 日～12 月 10 日のうち自由な時間帯、所要時間約 3 時間

実験手順：被験者は各自のパソコン（モニターサイズ 14~23 インチ）で実験資料を入れた Google フォトの指定アドレスから写真（屋内、半屋外、屋外順、各写真はランダム順）を閲覧しマウス等で自由に動かして空間を体感した後、形容詞対 7 段階（左側の形容詞をポジティブなものにし統一）をランダムに配置した調査用紙に回答してもらった。



注 12) 計測調査、物理量抽出の概要

実施期間：2020 年 10 月から 11 月 延べ 14 日間

計測器：iPhone アプリ「計測」を使用した。

物理量の抽出にあたって、掲載雑誌の図面をもとに足りない部分を現地にて計測し、そのデータをもとに平面図、展開図を CAD で作成した。その上で各要素の寸法や面積等算出にあたっては CAD ツールを使って計測し物理量を算出した。

注 13) 43 形容詞 7 段階評価は次の選定ステップに基づいて設定した。

- ① 既往の研究 14) 23) の心理因子軸として得られた空間を評価する上で基本的かつ重要な尺度かつ共有空間に関連の深い形容詞を抽出した。
- ② 建築学生 6 名に「吹抜け」「通路」「広場」「休憩スペース」の共有空間について現地調査 19 事例の空間写真の印象から形容詞を収集した。
- ③ 既往研究 7)において建物利用者インタビューのなかから共有空間に関する形容詞を収集した。
- ④ 収集した形容詞について類似形容詞を整理して共有空間の評価に適した尺度を検討の上、43 形容詞を設定した。また、両極となる形容詞句対を用いて 7 段階（例「明るい感じ—暗い感じ」では、1:非常に明るく感じる、2:かなり明るく感じる、3:やや明るく感じる、4:どちらでもない、5:やや暗く感じる、6:かなり暗く感じる、7:非常に暗く感じる）の評定尺度とし左側にポジティブな形容詞を配置して統一を図った。

注 14) 既往研究<sup>29)</sup>により建物の利用者と建築学科学生との評価データに関する差異は少ないと判断した。

注 15) 因子抽出法：主因子法、回転後：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法の結果に基づき、固有値 1.0 以上の各事項について因子負荷量の大きい順に並べ、最上位の因子負荷量の評価尺度を代表評価尺度とした。

注 16) 統計解析ソフトは「IBM SPSS」を使用し、Pearson の相関係数とした。

注 17) 長辺（平均）及び短辺（平均）は、平面形状が例えば台形の場合、長辺（または短辺）の上底（短い a 寸法）と下底（長い b 寸法）の場合の平均寸法  $= (a+b)/2$  とした。

注 18) 平面形状数は壁面の枚数（視界を遮る仕切り、または扉や障害物を含む）をカウントした。

注 19) 表面積は立面の面積（周長×高さ）とした。

注 20) 統計解析ソフト「IBM SPSS」による多重共線性の診断から VIF（分散拡大要因）値が 2 未満であり、有意性のある分析結果であることを確認した。

## 発表論文等

- 1) 山田 由美子, 積田 洋: 官民複合建築の用途構成の類型化と管理者による運営・利用実態の評価について, 日本建築学会技術報告集, 第 68 号, pp. 391 - 396, 2022. 02
- 2) 山田 由美子, 積田 洋: 複合建築における共有空間の構成による利用実態と心理的評価との関係について, 日本建築学会計画系論文集, 第 87 巻, 第 793 号, pp. 545 - 556, 2022. 03
- 3) Yumiko YAMADA, Hiroshi TSUMITA: A Study on the Spatial Composition of the Complex Buildings-Classification of Public and Private Complex Buildings Based on Site Environment, Planar Configuration, Sectional Configuration-, 13th International Symposium for Environment-Behavior Studies, ENVIRONMENT - BEHAVIOR RESEARCH ASSOCIATION, pp.1022-1028, 2018. 11
- 4) Yumiko YAMADA, Hiroshi TSUMITA: A Study on the Spatial Composition of the Complex Buildings (part 2)- Actual Conditions and Behavior Characteristics of Users in Public-private Management Complex Buildings, 14th International Conference on Environment-Behavior Studies, ENVIRONMENT -BEHAVIOR RESEARCH ASSOCIATION, pp.1230-1235, 2020. 10
- 5) Takuma SUZUKI, Hiroshi TSUMITA, Yumiko YAMADA: Correlation Analysis between Psychological Evaluation and Space Composition in Shared Space of Complex Building, 14th International Conference on Environment-Behavior Studies, ENVIRONMENT -BEHAVIOR RESEARCH ASSOCIATION, pp.1188-1193, 2020. 10
- 6) 山田 由美子, 積田 洋, 小林 美紀, 高木 紫帆: 官・民運営複合施設の実態と用途からみた類型分析-複合施設の空間構成に関する研究 (その 1) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(中国), pp. 749 - 750, 2017. 08
- 7) 山田 由美子, 積田 洋, 小林 美紀, 高木 紫帆, 桑村 駿太, 鈴木 卓磨: 官・民運営複合施設における立地環境と空間構成からみた類型化-複合施設の空間構成に関する研究 (その 2) -. 日本建築学会大会学術講演梗概集(東北), pp. 569 - 570, 2018. 09

- 8) 高木 紫帆, 積田 洋. 小林 美紀, 山田 由美子, 桑村 駿太, 鈴木 卓磨: 事業者からみた複合施設の管理運営と利用状況-複合施設の空間構成に関する研究 (その 3) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東北), pp. 571 - 572, 2018. 09
- 9) 山田 由美子, 積田 洋. 小林 美紀, 高木 紫帆: 官・民運営複合施設の用途別面積構成からみた特徴-複合施設の空間構成に関する研究 (その 4) -日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 751 - 752, 2019. 09
- 10) 高木 紫帆, 積田 洋. 小林 美紀, 山田 由美子: 事業者と利用者からみた複合施設の利用実態と空間構成-複合施設の空間構成に関する研究 (その 5) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 753 - 754, 2019. 09
- 11) 山田 由美子, 積田 洋. 小林 美紀: 官・民運営複合施設の利用者の利用実況と行動特性-複合施設の空間構成に関する研究 (その 6) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), pp. 961 - 962, 2020. 09
- 12) 周 森林, 積田 洋. 小林 美紀, 山田 由美子: 中間領域の類型化と特徴の分析-複合建築の共有空間に関する研究 (その 1) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 767 - 768, 2019. 09
- 13) 鈴木 卓磨, 積田 洋. 小林 美紀, 山田 由美子: 商業施設を含む複合建築における空間構成の研究-複合建築の共有空間に関する研究 (その 2) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 769 - 770, 2019. 09
- 14) 桑村 駿太, 積田 洋. 小林 美紀, 山田 由美子: 集客施設を含む複合建築の利用実態と特徴-複合建築の共有空間に関する研究 (その 3) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 771 - 772, 2019. 09
- 15) 鈴木 卓磨, 積田 洋. 小林 美紀, 山田 由美子: 複合建築の中間領域における心理的評価と空間構成との相関分析-複合建築の共有空間に関する研究 (その 4) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), pp. 959 - 960, 2020. 09
- 16) 山田 由美子, 積田 洋. 小林 美紀: 複合建築の共有空間における心理的評価と素材構成との相関分析-複合建築の共有空間に関する研究 (その 5) -, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 1157 - 1158, 2021. 09

## 資料集

複合建築 1034 事例のリスト  
官民複合建築 208 事例の概要  
    管理者宛調査票  
    利用者宛調査票  
官民複合建築 78 事例（調査票回収）の概要  
    雑誌掲載 複合建築 50 事例のリスト  
        共有空間 19 事例のリスト  
        30 共有空間のリスト  
        共有空間シート

資料 1 複合建築 1034 事例のリスト

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
1	○	札幌エルプラザ	北海道
2		札幌三井JPビルディング+アカブラ(広場)	北海道
3		札幌JRタワー	北海道
4		琴似4・2地区再開発(コルテナ・プレミスト琴似スカイクロスタワー)	北海道
5		ジョイフルプラザ琴似3・1、東急ドエルフロントシティ琴似、ヴェルビュタワー琴似(琴似3・1地区第一種市街地再開発)	北海道
6		北洋大通センター	北海道
7		マルイト札幌ビル	北海道
8		8・3スクエア(スクエア北+D'グラフォート札幌ステーションタワー)(北8西3東地区第一種市街地再開発)	北海道
9		D'グラフォート東札幌、フィネス東札幌1条他(東札幌1条地区第一種市街地再開発)	北海道
10		札幌留学生交流センター、札幌国際ユースホテル(ラポール学園前)	北海道
11	○	さっぽろ創世スクエア	北海道
12		サン・リフレ函館(函館市勤労者総合福祉センター)	北海道
13		金森赤れんが倉庫	北海道
14	○	キラリス函館	北海道
15		ウイングベイ小樽	北海道
16		ツルハビルディング	北海道
17	○	釧路フィッシャーマンMOO	北海道
18		北網圏北見文化センター	北海道
19		岩見沢駅複合	北海道
20	○	キタカラ	北海道
21	○	ネーブルタウン	北海道
22	○	いざりえ	北海道
23	○	えにあず	北海道
24		東川町複合交流施設せんとびゅあⅡ	北海道
25		上士幌町生涯学習センター	北海道
26		青森駅前第一地区第一種市街地再開発事業(ミッドライフタワー)	青森県
27	○	アウガ	青森県
28		弘前市総合学習センター	青森県
29	○	ヒロロ	青森県
30		土手町コミュニティパーク	青森県
31		はっち(八戸市ホタルミュージアム)	青森県
32		トワール(市民交流プラザ)	青森県
33		イオンモールつがる柏	青森県
34	○	マリオス	岩手県
35		aiina いわて県民情報交流センター	岩手県
36		大船渡市民文化会館・図書館/リアスホール	岩手県
37		一関立川崎市民センター	岩手県
38	○	ビッグルーフ滝沢	岩手県
39		オガールプロジェクト	岩手県
40		せんだいメディアテーク	宮城県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
41	○	たいはつくる	宮城県
42		ソララプラザ	宮城県
43		ソララガーデン	宮城県
44	○	アエル	宮城県
45	○	卸町コミュニティプラザ(ほるせ)	宮城県
46		仙台マークワン	宮城県
47		国際センター駅	宮城県
48		石巻市遊学館こもれびの降る丘	宮城県
49		三日町キングスタウン	宮城県
50	○	多賀城駅北地区再開発A棟	宮城県
51	○	アルヴェ	秋田県
52	○	エリアなかいち	秋田県
53		横手駅東口第一地区第一種市街地再開発 よこてイースト	秋田県
54		由利本荘市文化交流館 カダール	秋田県
55		Anbee大曲	秋田県
56		アズ七日町	山形県
57		山形テルサ	山形県
58		ナナビーンズ	山形県
59		遊学館	山形県
60	○	霞城セントラル	山形県
61		ナセBA「市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー」	山形県
62		にこふる(鶴岡市総合保険福祉センター)	山形県
63	○	中町サントウン(中町第一ビル)	山形県
64		ひらたタウンセンター	山形県
65		酒田市総合文化センター	山形県
66		逍遙プラザ	山形県
67	○	天童ターミナルビル「バルテ」	山形県
68		まなびあテラス	山形県
69		創遊館	山形県
70	○	コラッセふくしま	福島県
71	○	福島市こどもの夢を育む施設・NHK福島放送会館	福島県
72		ふくしまテルサ	福島県
73		会津若松生涯学習センター会津稽古堂	福島県
74	○	ビックアイ	福島県
75		郡山市立中央公民館・勤労青少年ホーム	福島県
76		シティタワー郡山	福島県
77	○	T1ビル	福島県
78	○	LATOV	福島県
79		トモスみと(大工町1丁目地区市街地再開発)	茨城県
80		水戸芸術館	茨城県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
81		ミオス	茨城県
82		水戸サウスタワー	茨城県
83		日立シビックセンター	茨城県
84		荒川沖駅西口第一A市街地再開発事業「さらさ荒川沖」	茨城県
85		土浦駅前北地区第一種市街地再開発事業マイム アルカス	茨城県
86		ワークヒル土浦	茨城県
87		アルル(土浦市役所)	茨城県
88		アルカス土浦	茨城県
89		PLAYatré TSUCHIURA	茨城県
90	○	URARA	茨城県
91	○	URARA2	茨城県
92	○	URARA3	茨城県
93		古河駅西口第一市街地再開発事業アプリKOGA	茨城県
94		神峰町一丁目市街地再開発事業	茨城県
95		取手ウェルネスプラザ	茨城県
96		取手駅西口市街地再開発事業	茨城県
97		つくばカピオ	茨城県
98	○	つくばセンタービル	茨城県
99		勝田駅東口地区第一種市街地再開発事業win-win(ウィン-ウィン)	茨城県
100		ファッションクルーズひたちなか	茨城県
101		アルテリオ	茨城県
102	○	下館SPICA	茨城県
103		パセオ	栃木県
104		シティタワー宇都宮 宇都宮馬場通り西地区第一種市街地再開発事業	栃木県
105		宇都宮パルコ	栃木県
106		ララスクエア宇都宮	栃木県
107		東武宇都宮駅周辺再開発事業・宇都宮駅西口第四B地区第一種市街地再開発事業	栃木県
108		宇都宮駅東口再開発ビル	栃木県
109		宇都宮大手地区第一種市街地再開発事業	栃木県
110	○	うつのみや表参道スクエア	栃木県
111		ニューミヤコホテル足利本館	栃木県
112		足利市立美術館	栃木県
113	○	栃木市庁舎・東武宇都宮百貨店栃木店	栃木県
114	○	城山・サクラ・コモン	栃木県
115		小山駅西市街地再開発事業	栃木県
116		小山中央第一市街地再開発事業	栃木県
117		駅東通り一丁目第一地区市街地整備事業	栃木県
118		城山町三丁目第一地区第一種市街地再開発事業	栃木県
119		アルヴェ	秋田県
120		そすいスクエアAQUAS(あくあす)	栃木県



NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
121		アーツ前橋	群馬県
122		前橋元気プラザ	群馬県
123		前橋テルサ(勤労者福祉センター)	群馬県
124	○	高崎タワー21	群馬県
125		高崎市総合保険センター・中央図書館	群馬県
126		太田市民会館	群馬県
127		太田駅前再開発事業	群馬県
128		太田市美術館・図書館(太田駅北口駅前文化交流施設)	群馬県
129		エアリスホール・アリーナ(太田市新田文化会館)	群馬県
130		太田市金山地域交流センター	群馬県
131		テクノプラザ太田	群馬県
132		沼田市下之町市街地再開発事業	群馬県
133		鬼石多目的ホール	群馬県
134	○	北浦和ターミナルビル	埼玉県
135		LAMZA(ラムザ)	埼玉県
136		ランド・アクシス・タワー(明治安田生命さいたま新都心ビル)	埼玉県
137		MUSIC CITYザ・ファーストタワー	埼玉県
138		S4タワー	埼玉県
139		浦和コロソ・伊勢丹浦和店	埼玉県
140		浦和元町シティ	埼玉県
141		エイペックスタワー浦和	埼玉県
142		大宮スカイビル(そごう大宮、オズ24)	埼玉県
143		サウスピア	埼玉県
144		コスタ・タワー浦和	埼玉県
145		さいたま新都心	埼玉県
146	○	シーノ大宮	埼玉県
147		アルーサ(北与野駅北口市街地再開発)	埼玉県
148		シティマークタワー21	埼玉県
149	○	スカイレジデンシャルタワーズ	埼玉県
150	○	ストリームビル	埼玉県
151		プラムシティ	埼玉県
152		ナリア	埼玉県
153		びゅうサイトタワー	埼玉県
154		ブラウドタワー武蔵浦和マークス	埼玉県
155		ポルテ29	埼玉県
156		武蔵浦和SKY & GARDEN	埼玉県
157		ライブタワー武蔵浦和	埼玉県
158		ラムザタワー	埼玉県
159		浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業	埼玉県
160		大宮駅東口大門町2丁目中地区再開発事業	埼玉県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
161		中浦和駅前地区第一種市街地再開発事業	埼玉県
162		与野駅西口浦和地区再開発事業	埼玉県
163	○	大宮ソニックシティ	埼玉県
164	○	ワッツ西館	埼玉県
165	○	ワッツ東館	埼玉県
166		クボタビル	埼玉県
167		アトレマルヒロ	埼玉県
168		ウェスタ川越	埼玉県
169		川越ツインシティ	埼玉県
170		川越駅前脇田町市街地再開発事業	埼玉県
171	○	ティアラ21	埼玉県
172		NEWLAND	埼玉県
173	○	川口総合文化センターリリア	埼玉県
174	○	キューボ・ラ	埼玉県
175		リビオアクシスプレイス	埼玉県
176		CASTY	埼玉県
177		SKIPシティ	埼玉県
178		アリオ川口	埼玉県
179		カメラリアタワー川口	埼玉県
180		サウスゲートタワー川口	埼玉県
181		そごう川口店	埼玉県
182		リビエール栄町	埼玉県
183		西川口ヴィアーレ	埼玉県
184		川口駅西口市街地再開発事業	埼玉県
185		秩父市歴史文化伝承館	埼玉県
186	○	所沢ハーティア	埼玉県
187		新所沢複合施設	埼玉県
188		所沢駅西口北街区第一種市街地再開発事業(ワルツ所沢/西武)	埼玉県
189		所沢東町地区第一種市街地再開発事業(ブランドタワー所沢)	埼玉県
190		東飯能駅再開発事業	埼玉県
191		BELISTAタワー春日部	埼玉県
192		アーバンハイツ春日部	埼玉県
193		東部地域振興ふれあい拠点施設	埼玉県
194		春日部中央一丁目再開発事業	埼玉県
195		粕壁三丁目A街区市街地再開発	埼玉県
196		水野公民館	埼玉県
197	○	エルミこうのすアネックス	埼玉県
198		アリコペールプラザ館	埼玉県
199		シティタワー上尾駅前	埼玉県
200		上尾駅東口市街地再開発事業	埼玉県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
201		中山道 I-2市街地再開発事業	埼玉県
202		中山道 I 市街地再開発事業	埼玉県
203		中山道沿道仲町・愛宕市街地再開発事	埼玉県
204	○	ハーモネスタワー松原	埼玉県
205		さいゆうヴィレッジ	埼玉県
206		アコス(AKOS)	埼玉県
207		谷塚駅東口市街地再開発事業(プランベール谷塚駅前)	埼玉県
208	○	越谷ツインシティ	埼玉県
209	○	シティタワー蕨/くるる低層棟	埼玉県
210		中央三丁目桜橋市街地再開発事業(蕨マリエ)	埼玉県
211		北戸田ファーストゲートタワー	埼玉県
212		ipot	埼玉県
213		SAIOS	埼玉県
214		豊岡第一南口市街地再開発事業	埼玉県
215	○	フォーシーズンズ志木	埼玉県
216		ふるさと新座間	埼玉県
217	○	パトリア桶川(おけがわマイン)	埼玉県
218		久喜駅前西口再開発事業	埼玉県
219		三郷市立ビアラシティ交流センター	埼玉県
220		蓮田駅西口第一種市街地再開発事業	埼玉県
221	○	ココネ上福岡	埼玉県
222		ふじみ野市南口駅前再開発事業	埼玉県
223	○	千葉ポートスクエア	千葉県
224		ウエストリオ千葉	千葉県
225		千葉美浜文化ホール・保健福祉センター	千葉県
226		千葉セントラルタワー	千葉県
227	○	きぼーる	千葉県
228	○	千葉ツインビル2号館	千葉県
229		センシティ	千葉県
230		千葉新町市街地再開発事業	千葉県
231	○	アクス本八幡	千葉県
232		I-linkタウンいちかわA街区	千葉県
233		グランドターミナルタワー本八幡	千葉県
234		本八幡キャピタルタワー	千葉県
235	○	I-linkタウンいちかわB街区	千葉県
236		エスレ高須	千葉県
237	○	船橋フェイスビル	千葉県
238	○	船橋スクエア21	千葉県
239		ルネ ライラタワー船橋	千葉県
240	○	ライブ2000	千葉県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
241		船橋駅北口第二地区第一種市街地再開発事業(船橋ツインビル)	千葉県
242	○	スパークルシティ木更津,アクア木更津	千葉県
243		ピコティ	千葉県
244	○	南総サンヴェルプラザ	千葉県
245	○	スカイタウン成田A棟	千葉県
246		JR成田駅東口地区再開発事業	千葉県
247	○	Day Oneタワー	千葉県
248		アミュゼ柏	千葉県
249		ザ・柏タワー	千葉県
250		柏ゲートスクエアKOILパーク	千葉県
251		柏ゲートスクエア ホテル棟	千葉県
252		柏ゲートスクエア サテライト	千葉県
253		サンブラザ市原	千葉県
254		我孫子アビスタ	千葉県
255		四街道駅前市街地再開発事業	千葉県
256	○	飯田橋セントラルプラザ	東京都
257		丸の内トラストタワーn館	東京都
258		丸の内トラストタワー本館	東京都
259		アイガーデンエア(東京レジデンス)	東京都
260		アイガーデンエア(ガーデンエアタワー)	東京都
261		アイガーデンエア(大和ハウス東京ビル)	東京都
262		東京ガーデンテラス紀尾井町オフィス・ホテル棟	東京都
263		東京ガーデンテラス紀尾井町住宅棟	東京都
264		ジェイシティ東京(神保町101ビル)	東京都
265		ジェイシティ東京(東京パークタワー)	東京都
266		ジェイシティ東京(神保町三井ビルディング)	東京都
267		秋葉原クロスフィールド	東京都
268		千代田ファーストビル西館・ラ・トゥール千代田	東京都
269		千代田ファーストビル東館	東京都
270		平河町森タワー	東京都
271		有楽町センタービル	東京都
272		有楽町イトシア	東京都
273		プルデンシャルタワー	東京都
274		丸の内アオゾ	東京都
275		新丸の内ビルディング	東京都
276		KITTE丸の内	東京都
277		JPタワー	東京都
278		日経ビル・JAビル・経団連会館	東京都
279		大手町タワー	東京都
280		大手町ファイナルシャルシティグランドキューブ(3次開発)	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
281		大手町ファイナルシヤルシティノースタワー、サウスタワー(2次開発)	東京都
282		大手町フィナンシャルシティグランキューブ	東京都
283		大手町プレイス	東京都
284		常盤橋街区再開発事業(A~D棟)	東京都
285		大手町二丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
286		飯田橋ブルーノ・ブラウドタワー千代田富士見	東京都
287		御茶ノ水ソラシティ	東京都
288		ワテラス	東京都
289		飯田橋さくらパーク 業務棟	東京都
290		飯田橋さくらパーク 住宅棟	東京都
291		大手町フィナンシャルシティ(サウスタワー、ノースタワー)	東京都
292		飯田橋グラン・ブルーム・パークコート千代田富士見 ザタワー	東京都
293		富士見二丁目3番街区市街地再開発	東京都
294		飯田橋駅中央地区再開発事業	東京都
295		アイガーデンエア(ホテルメトロポリタン エドモント イーストウイング)	東京都
296		神田棟塚町地区第一種市街地再開発事業	東京都
297		クリスタルシティ	東京都
298		霞が関コモンゲート	東京都
299		神田小川町三丁目西A地区市街地再開発事業	東京都
300	○	京橋エドグラン	東京都
301		勝どきビュータワー	東京都
302		THE TOKYO TOWERS	東京都
303		GINZA・SIX(銀座6丁目プロジェクト)	東京都
304		東京日本橋タワー	東京都
305		リガール日本橋人形町	東京都
306		トルナーレ日本橋浜町	東京都
307		日本橋三井タワー	東京都
308		晴海アイランドトリトンスクエア	東京都
309		パークシティ中央湊ザタワー	東京都
310		ムーンアイランドタワー	東京都
311		日本橋IBM箱崎ビル	東京都
312		日本橋一丁目三井ビルディング(COREDO日本橋)	東京都
313		室町東三井ビルディング(COREDO室町)	東京都
314		室町古河三井ビルディング(日本橋東地区)	東京都
315		晴海三丁目西市街地再開発事業	東京都
316		武田薬品本社	東京都
317		勝どき一丁目市街地再開発事業	東京都
318		Sタワー	東京都
319		月島一丁目3.4.5番地区第一種市街地再開発事業	東京都
320		月島一丁目西仲通り地区第一種市街地再開発事業	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
321		勝どき五丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
322		日本橋二丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
323		OVOL(オヴォール)日本橋ビル(日本橋室町三丁目地区第一種市街地再開発事業)	東京都
324		勝どき東地区第一種市街地再開発事業	東京都
325		東京駅八重洲1丁目東地区再開発事業	東京都
326		八重洲二丁目北地区再開発事業	東京都
327		八重洲二丁目中地区再開発事業	東京都
328		月島三丁目南地区市街地再開発事業	東京都
329		勝どき駅南側8・9番地区再開発事業	東京都
330		アークヒルズ(アーク森ビル、アークタワーレジデンス、サントリーホール、ANAインターコンチネンタル東京)	東京都
331		赤坂インターシティAIR	東京都
332		パークコート赤坂ザタワー	東京都
333		パークコート赤坂檜町ザタワー	東京都
334		品川シーズンテラス	東京都
335		芝浦アイランド(グローヴタワー)	東京都
336		芝浦アイランド(ケープタワー)	東京都
337		芝浦アイランド(ブルームタワー)	東京都
338		芝浦アイランド(エアタワー)	東京都
339		白金アエルシティ(NBFプラチナタワー)	東京都
340		白金アエルシティ(白金タワー)	東京都
341		ニュー新橋ビル	東京都
342		虎ノ門ヒルズビジネスタワー	東京都
343		虎ノ門ヒルズ	東京都
344		パークコート浜離宮ザタワー	東京都
345		シティタワー麻布十番	東京都
346		パークコート麻布十番ザタワー	東京都
347		品川インターシティ(A～D棟)	東京都
348		元麻布ヒルズ(フォレストタワー、フォレストテラスイースト、フォレストテラスウエスト)	東京都
349		アークヒルズ仙石山森タワー	東京都
350		泉ガーデンタワー	東京都
351		パークコート六本木ヒルトップ	東京都
352		住友不動産六本木グランドタワー	東京都
353		THE ROPPONGI TOKYO	東京都
354		六本木ヒルズ(六本木ヒルズ森タワー、六本木ヒルズレジデンス、グランドハイアット東京、など)	東京都
355		愛宕グリーンヒルズ(MORIタワー、フォレストタワー)	東京都
356		品川グランドcommons(品川イーストンタワー)	東京都
357		品川グランドcommons(太陽生命品川ビル)	東京都
358		品川グランドcommons(品川グランドセントラルタワー)	東京都
359		品川グランドcommons(三菱重エビル)	東京都
360		品川グランドcommons(キャノンSタワー)	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
361		品川グランドcommons(品川V-TOWER)	東京都
362		品川グランドcommons(ストーリー品川)	東京都
363		みなとパーク芝浦	東京都
364		赤坂サカス 赤坂Bizタワー	東京都
365		赤坂サカス ライフハウス	東京都
366		赤坂サカス 住宅棟	東京都
367		東京ミッドタウン	東京都
368		東京ミッドタウン日比谷	東京都
369		環状2号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業	東京都
370		汐留シオサイト 1区 A街区(電通本社ビル/汐留アネックスビル・「カレッタ汐留」)	東京都
371		汐留シオサイト 1区 B街区(汐留シティセンター/旧新橋停車場)	東京都
372		汐留シオサイト 1区 B街区(パナソニック株東京本社ビル)	東京都
373		汐留シオサイト 1区 C街区(日本テレビタワー)	東京都
374		汐留シオサイト 1区 C街区(汐留タワー/「資生堂」・「ロイヤルパーク ザ 汐留」)	東京都
375		汐留シオサイト 2区 D北1街区(東京汐留ビルディング/「コンラッド東京」・「ペディ汐留」)	東京都
376		汐留シオサイト 2区 D北2街区(汐留住友ビル/ ホテル ヴィラフォンテーヌ汐留)	東京都
377		汐留シオサイト 2区 D北3街区(日本通運本社ビル)	東京都
378		汐留シオサイト 2区 E街区(汐留メディアタワー/「共同通信」・「パークホテル東京」)	東京都
379		汐留シオサイト 2区 E街区(トッパンフォームズビル)	東京都
380		汐留シオサイト 3区 D南街区(東京ツインパークス)	東京都
381		汐留シオサイト 3区 H南街区(アクティ汐留)	東京都
382		汐留シオサイト 4区 I-1街区(汐留芝離宮ビルディング)	東京都
383		汐留シオサイト 4区 I-2街区(スカイグランデ汐留)	東京都
384		汐留シオサイト 4区 I-2街区(汐留ビルディング/「ハマサイト・グルメ」)	東京都
385		汐留シオサイト 5区 西街区(イタリア街)	東京都
386		白金アエルシティ(テクノスクエア)	東京都
387		白金一丁目北部市街地再開発事業	東京都
388		白金一丁目東部北地区第一種市街地再開発事業	東京都
389		田町駅前西口市街地再開発事業	東京都
390		田町駅前東口地区第一種市街地再開発事業	東京都
391		虎ノ門二丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
392		虎ノ門・麻布台地区市街地再開発事業	東京都
393		虎ノ門駅前地区第一種市街地再開発事業	東京都
394		新橋田村町地区市街地再開発事業	東京都
395		泉岳寺駅地区第二種市街地再開発事業	東京都
396		泉岳寺周辺地区市街地再開発事業	東京都
397		三田三・四丁目地区再開発事業	東京都
398		新宿オークシティ(新宿区立産業会館)	東京都
399		新宿NSビル	東京都
400		新宿アイランドタワー	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
401		新宿東宝ビル	東京都
402		飯田橋セントラルプラザ	東京都
403		新宿フロントスクエア(新宿フロントタワー)	東京都
404		新宿フロントスクエア(ザ・パークハウス新宿タワー)	東京都
405		新宿3丁目イーストビル(新宿バルト9)	東京都
406		新宿ピカデリー	東京都
407		富久クロス	東京都
408		新宿アイランドタワー	東京都
409		新宿センタービル	東京都
410		ザ・パークハウス西新宿タワー60	東京都
411		新宿オークシティ(日土地西新宿ビル)	東京都
412		新宿セントラルパークシティ(住友不動産新宿セントラルパークビル)	東京都
413		新宿グリーンタワー	東京都
414		新宿セントラルパークシティ(セントラルパークタワー・ラ・トゥール新宿)	東京都
415		新宿アイタウン(アイタウン・レビア)	東京都
416		新宿アイタウン(アイタウン・プラザ)	東京都
417		新宿アイタウン(新宿スクエアタワー)	東京都
418		西新宿三井ビルディング	東京都
419		N.Y.Tアトラスタワー西新宿	東京都
420		新宿国際ビルディング	東京都
421		新宿オークシティ(住友不動産新宿オークタワー)	東京都
422		住友不動産新宿グランドタワー	東京都
423		アス西早稲田	東京都
424		西早稲田パークタワー	東京都
425		東京グローブ座	東京都
426		JR新宿ミライナタワー	東京都
427		西大久保市街地再開発事業	東京都
428		新宿副都心	東京都
429		西新宿三丁目西地区再開発	東京都
430		西新宿五丁目中央南地区第一種市街地再開発事業	東京都
431		西新宿五丁目北地区防災街区整備事業	東京都
432		新宿3丁目・新宿ピカデリー再開発事業	東京都
433		新宿3丁目イーストビル(新宿マルイアネックス)	東京都
434		新宿ゴールデン街	東京都
435		四谷駅前地区第一種市街地再開発事業	東京都
436		文京シビックセンター	東京都
437		アトラスタワー茗荷谷	東京都
438		エルアーージュ小石川	東京都
439		住友不動産飯田橋ファーストビル	東京都
440		住友不動産江戸川橋駅前ビル	東京都



NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
440		住友不動産江戸川橋駅前ビル	東京都
441		江戸川橋市街地再開発事業	東京都
442		江戸川橋第2市街地再開発事業	東京都
443		音羽一丁目市街地再開発事業	東京都
444		音羽二丁目市街地再開発事業	東京都
445		音羽二丁目第2市街地再開発事業	東京都
446		東京ドームシティ	東京都
447		後楽二丁目西市街地再開発事業	東京都
448		春日・後楽園駅前地区第一種市街地再開発事業	東京都
449		上野イーストタワー	東京都
450		国際ファッションセンター(KFCホール)	東京都
451		マークフロントタワー曳舟	東京都
452		アトラスタワー曳舟	東京都
453		アルカタワーズ錦糸町(アルカセントラル)	東京都
454		アルカタワーズ錦糸町(東部ホテルレバント東京)	東京都
455		アルカタワーズ錦糸町(すみだトリフォニーホール)	東京都
456		アルカタワーズ錦糸町(アルカウエスト)	東京都
457		アルカタワーズ錦糸町(アルカファイブ)	東京都
458		アルカタワーズ錦糸町(アルカキット錦糸町)	東京都
459		アルカタワーズ錦糸町(アルカイースト)	東京都
460		オリナス	東京都
461		白髭東市街地再開発事業	東京都
462		立花一丁目市街地再開発事業	東京都
463		押上駅東京スカイツリー中之郷アパートメント	東京都
464		アルカタワーズ錦糸町(アルカハビタ)	東京都
465		横川五丁目市街地再開発事業(同潤会柳島アパート建替え他)	東京都
466		曳舟駅前市街地再開発事業	東京都
467		京成曳舟駅前東第一種市街地再開発事業	東京都
468		イースト commons 清澄白河フロントタワー	東京都
469		東京イースト21(深川地区)	東京都
470		豊洲シエルタワー	東京都
471		ウエルタワー深川	東京都
472		イースト commons 清澄白河セントラルタワー・サウスフラッツ・パークフラッツ	東京都
473		アルファグランデ小岩スカイファースト(南小岩六丁目地区第一種市街地再開発 I・II・III街区)	東京都
474		AURO	東京都
475		旧砂町・小名木川貨物駅跡地再開発(北砂)および南砂町駅前再開発	東京都
476		大島五丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
477		東雲キャナルコート(東雲一丁目地区)	東京都
478		大島三丁目1番地地区市街地再開発事業	東京都
479		豊洲二丁目駅前地区第一種市街地再開発事業	東京都
480		江東区豊洲シビックセンター	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
481	○	大崎ブライトコア	東京都
482		天王洲郵船ビル	東京都
483		しのぎ文化プラザ	東京都
484		Brillia大井町ラヴィアンタワー	東京都
485		ゲートシティ大崎	東京都
486		パークシティ大崎(大崎ブライトタワー)	東京都
487		パークシティ大崎(ザ・タワー)	東京都
488		コア・スターレ西大井	東京都
489		Jタワー西大井	東京都
490		品川区立総合区民会館	東京都
491		オーバルコート大崎	東京都
492		大崎ニューシティ	東京都
493		アートヴィレッジ大崎	東京都
494		大崎ウエストシティタワーズ	東京都
495		東京サザンガーデン	東京都
496		ウィズシティ	東京都
497		ブリリアタワー目黒	東京都
498		大井町駅西口地区	東京都
499		西品川一丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
500		大井一丁目南第1地区第一種市街地再開発事業	東京都
501	○	中目黒ゲートタウン	東京都
502		中目黒アルカスタワー	東京都
503		中目黒アトラスタワー	東京都
504		プリズムタワー	東京都
505		クロスエアタワー	東京都
506		目黒天空都市	東京都
507	○	Luz大森	東京都
508		プラウドシティ蒲田	東京都
509		立正大学馬込キャンパス	東京都
510		ステーションツインタワーズ	東京都
511	○	キャロットタワー	東京都
512	○	ヴィルヌーヴタワー駒沢	東京都
513		二子玉川ライズⅡーa街区	東京都
514		二子玉川ライズⅠーa街区	東京都
515		二子玉川ライズⅢ	東京都
516		たまプラーズテラス	東京都
517		ブラッツ砦(祖師谷大蔵南地区再開発)	東京都
518		芦花公園駅南口再開発Ⅰ～Ⅴ	東京都
519		ROKA TERRAZZO	東京都
520		祖師谷大蔵駅南市街地再開発事業	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
521		恵比寿ガーデンプレイスタワー	東京都
522		渋谷マークシティ	東京都
523		渋谷ヒカリエ	東京都
524		代官山 蔦屋書店	東京都
525		代官山アドレス	東京都
526		表参道ヒルズ	東京都
527		恵比寿ガーデンプレイス	東京都
528		渋谷パルコ	東京都
529		道玄坂一丁目駅前地区第一種市街地再開発事業	東京都
530		千駄ヶ谷五丁目北地区第一種市街地再開発事業	東京都
531		渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業	東京都
532		渋谷ストリーム	東京都
533		中野サンブラザ	東京都
534		聖路加ガーデン	東京都
535		東京スクエアガーデン	東京都
536		中野ツインマークタワー	東京都
537		ハーモニスクエア	東京都
538		ユニゾンスクエア	東京都
539		なかのサンクォーレ	東京都
540		野方WIZ	東京都
541		中野坂上サンブライトツイン	東京都
542		アクロスシティ中野坂上(住友中野坂上ビル)	東京都
543		中野四季の都市	東京都
544		中野区役所・サンブラザ地区再開発	東京都
545		囲町東地区第一種市街地再開発事業	東京都
546		中野二丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
547		ヒューリック荻窪ビル	東京都
548		タウンセブン	東京都
549		蚕糸の森蚕糸試験場跡地再開発事業	東京都
550	○	としまエコムーゼタウン	東京都
551		サンシャインシティ	東京都
552		アウルタワー	東京都
553		エアライズタワー	東京都
554		ライズシティ池袋	東京都
555		サンシャインシティ	東京都
556		東池袋五丁目地区市街地再開発事業	東京都
557		東池袋四丁目2番街区地区市街地再開発事業	東京都
558		南池袋二丁目B地区市街地再開発事業	東京都
559		南池袋二丁目C地区市街地再開発事業	東京都
560		池袋駅西口地区市街地再開発事業	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
561		豊島区区役所跡地再開発	東京都
562		北トピア	東京都
563		バルロード赤羽	東京都
564		十条駅西口地区市街地再開発事業	東京都
565		アクトピア	東京都
566	○	イーストヒル町屋	東京都
567		マークスタワー(町屋駅前南地区再開発)	東京都
568		アトラスプラズタワー三河島(三河島駅前南地区再開発)	東京都
569		サンパール荒川	東京都
570	○	センターまちや	東京都
571	○	トミンタワー南千住四丁目	東京都
572	○	プラズタワー南千住/アクレスティ南千住	東京都
573		リバーハブスクエア	東京都
574		ウエストヒル町屋	東京都
575		町屋ニュートーキョービル	東京都
576		ステーションガーデンタワー	東京都
577		リーデンスタワー(東日暮里五丁目地区第一種市街地再開発)	東京都
578		LaLaテラス南千住	東京都
579		ウエストヒル町屋	東京都
580		ひぐらしの里西地区再開発	東京都
581		ひぐらしの里北地区再開発	東京都
582		西日暮里駅前地区市街地再開発事業	東京都
583		三河島駅前北地区市街地再開発事業	東京都
584	○	アイ・タワー	東京都
585		上板橋駅南口駅前地区第一種市街地再開発事業	東京都
586	○	アリエス成増	東京都
587		ACT成増(成増駅北口市街地再開発事業)	東京都
588		上板橋駅南口駅前市街地再開発事業	東京都
589		大山町ピッコロ・スクエア周辺地区市街地再開発事業	東京都
590		大山町クロスポイント周辺地区市街地再開発事業	東京都
591	○	ココネリ	東京都
592	○	学びピア(トミンタワー千住五丁目)	東京都
593	○	東京芸術センター	東京都
594		エミエルタワー竹ノ塚	東京都
595		神田シェアプレイス(リノベーション)	東京都
596		千住ミルディスⅡ(アトラスタワー北千住)	東京都
597	○	千住ミルディスⅠ	東京都
598		綾瀬一丁目市街地再開発事業	東京都
599		西新井ヌーヴェル	東京都
600		ボンテグランデTOKYO	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
601		千住一丁目地区第一種市街地再開発事業	東京都
602		シティタワー金町	東京都
603	○	ヴィナシス金町	東京都
604		亀有駅南口市街地再開発事業	東京都
605		立石駅南口東地区市街地再開発	東京都
606		立石駅北口地区再開発事業	東京都
607	○	篠崎ツインプレイス20街区	東京都
608		亀戸・大島・小松川地区市街地再開発事業	東京都
609		南小岩六丁目地区市街地再開発事業	東京都
610		JR小岩駅北口地区市街地再開発事業	東京都
611		平井駅北口再開発事業	東京都
612	○	エリム春日町パークタワー	東京都
613		プラウドタワー大泉学園	東京都
614		石神井公園駅北口再開発事業	東京都
615		江古田駅周辺再開発事業	東京都
616		石神井公園駅南口西地区再開発	東京都
617	○	大泉学園ゆめりあ1	東京都
618	○	サザンスカイトワー八王子	東京都
619	○	八王子オクトーレ	東京都
620	○	ビュータワー八王子	東京都
621		立川タクロス	東京都
622		柴崎学習館	東京都
623		立川都市軸A1南地区プロジェクト	東京都
624		ファーレ立川	東京都
625		シネマ・ワン	東京都
626		グランデュオ	東京都
627	○	武蔵野スイングビル	東京都
628		武蔵野タワーズスカイゲートタワー	東京都
629		武蔵野プレイス	東京都
630	○	F&Fビル	東京都
631		吉祥寺ダイヤ街	東京都
632		吉祥寺サンロード商店街	東京都
633		ネオ・シティ三鷹ビル	東京都
634		三鷹駅南口西側中央地区再開発事業	東京都
635	○	河辺タウンビル	東京都
636		東青海駅南口市街地再開発事業	東京都
637	○	ル・シーニュ	東京都
638		府中駅南口市街地再開発事業計画	東京都
639		中河原駅北口市街地再開発事業	東京都
640		グレースシア調布	東京都

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
641	○	グランタワー調布国領ル・パサージュ	東京都
642		調布駅南第1市街地再開発事業	東京都
643		調布駅北第1市街地再開発事業	東京都
644		調布駅南口再開発事業	東京都
645		プラザ町田ビル	東京都
646		原町田市街地再開発事業	東京都
647		原町田三丁目市街地再開発事業	東京都
648		原町田四丁目市街地再開発事業	東京都
649		原町田六丁目市街地再開発事業	東京都
650		プラウドタワー武蔵小金井	東京都
651		なかまちテラス	東京都
652		小平駅北口地区再開発事業	東京都
653		小川駅西口再開発事業	東京都
654	○	パークハウスワンズタワー	東京都
655	○	シティタワー国分寺ザ・ツインウエスト	東京都
656		西国分寺ライフタワー	東京都
657		西国分寺レガ	東京都
658		狛江駅北口第1、第2市街地再開発事業	東京都
659		清瀬駅南口駅前再開発事業	東京都
660		ベネッセコーポレーション東京ビル	東京都
661	○	ヴィータコミュニネ	東京都
662		羽村市生涯学習センター・ゆとろぎ	東京都
663		ステアビル(西友保谷店)	東京都
664		西武田無ステーションビル	東京都
665		ひばりが丘駅南口市街地再開発事業	東京都
666		保谷駅南口再開発事業	東京都
667		iプラザ	東京都
668		横浜ヘリオスタワー・カミオ(上大岡B地区第一種市街地再開発事業)	神奈川県
669		横浜ランドマークタワー	神奈川県
670		クイーンズスクエア横浜A棟	神奈川県
671		クイーンズスクエア横浜B棟	神奈川県
672		クイーンズスクエア横浜C棟	神奈川県
673	○	クイーンズスクエア横浜	神奈川県
674		横浜新都市ビル	神奈川県
675		横浜みなと博物館	神奈川県
676		横浜美術館	神奈川県
677		横浜ランドマークタワー	神奈川県
678	○	ココロツツ鶴ヶ峰	神奈川県
679		三菱重工横浜ビル	神奈川県
680		横浜スカイビル	神奈川県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
681		日石横浜ビル	神奈川県
682		横浜メディアタワー	神奈川県
683		横浜ワールドポーターズ	神奈川県
684		ナビオス横浜	神奈川県
685		クロスゲート	神奈川県
686		MMタワーズ(イースト、ウエスト、サウス)	神奈川県
687		富士ソフト本社ビル(みなとみらい27街区)	神奈川県
688		横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)	神奈川県
689		リーフみなとみらい	神奈川県
690		みなとみらいビジネススクエア	神奈川県
691		横浜みなとみらい 万葉倶楽部	神奈川県
692		MMパークビル	神奈川県
693		シンクロン本社ビル	神奈川県
694		横浜ブルーアベニュー	神奈川県
695		TOCみなとみらい	神奈川県
696		富士ゼロックスR&Dスクエア	神奈川県
697		みなとみらいセンタービル	神奈川県
698		みなとみらいグランドセントラルタワー	神奈川県
699		横浜三井ビルディング	神奈川県
700		MARK IS みなとみらい	神奈川県
701		横浜アイマークプレイス	神奈川県
702		PRYME GALLERY みなとみらい	神奈川県
703		MUFG グローバルラーニングセンター	神奈川県
704		横浜野村ビル	神奈川県
705		PRYME COAST みなとみらい	神奈川県
706		オーシャンゲートみなとみらい	神奈川県
707		ブランズタワーみなとみらい	神奈川県
708		北仲通地区再開発事業	神奈川県
709		新山下地区再開発事業	神奈川県
710		パークタワー横浜ステーションプレミア	神奈川県
711		ヨコハマポートサイド地区第二種市街地再開発事業	神奈川県
712		コットンハーバー地区	神奈川県
713		東高島駅北地区再開発事業	神奈川県
714		新子安駅西市街地再開発事業「オルトよこはま	神奈川県
715		かなっくシティ東部寮育ビル、リーデンスフォート横浜、ザ・ステーションタワー東神奈川	神奈川県
716		東神奈川1丁目地区再開発事業	神奈川県
717		横浜駅きた西口鶴屋地区再開発事業	神奈川県
718	○	横浜銀行本店ビル	神奈川県
719		(ゆめおおおか 商業棟)	神奈川県
720		(ゆめおおおか 中央棟)	神奈川県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
721		上大岡C北地区市街地再開発事業 mioka	神奈川県
722	○	県民共済プラザビル(みなとみらい29街区)	神奈川県
723		綱島駅東口駅前地区市街地再開発	神奈川県
724		アルコット二俣川	神奈川県
725		戸塚駅西口第1地区再開発「トツカーナ	神奈川県
726	○	らびすた新杉田・ヨコハマ・シーナリータワー	神奈川県
727		グレースィアタワー二俣川	神奈川県
728	○	シークレイン	神奈川県
729		戸塚駅東口市街地再開発事業	神奈川県
730	○	コブレ二俣川	神奈川県
731	○	ゆめおおおか オフィス+商業+中央棟	神奈川県
732	○	カスターリア桜木町	神奈川県
733		ブララ杉田	神奈川県
734		中山駅南口地区市街地再開発	神奈川県
735		金沢文庫駅東口地区第一種市街地再開発事業	神奈川県
736		マークワンタワー長津田	神奈川県
737		大船駅北第一市街地再開発事業	神奈川県
738		オルトヨコハマE棟	神奈川県
739	○	ミュージア川崎	神奈川県
740	○	エクラストワー武蔵小杉	神奈川県
741	○	小杉サードアベニュー	神奈川県
742	○	川崎駅前タワー・リパーク	神奈川県
743		川崎DICE	神奈川県
744	○	NOCTY	神奈川県
745		ラゾーナ川崎	神奈川県
746		川崎ルフロン	神奈川県
747		川崎区役所総合庁舎	神奈川県
748		サウザンドモール	神奈川県
749		鹿嶋田駅西部地区市街地再開発「パークタワー新川崎	神奈川県
750		キングスカイフロント	神奈川県
751		bono相模大野スカイフラッツ	神奈川県
752	○	橋本駅北口第一再開発ビル	神奈川県
753	○	ラクアル・オダサガ	神奈川県
754	○	クラウドタワー相模大野	神奈川県
755		ステーションスカイタワー小田急相模原	神奈川県
756		相模原市営上九沢団地	神奈川県
757		小田急相模原駅北口B地区再開発事業「ペアーナードオダサガ」	神奈川県
758	○	みなか小田原	神奈川県
759	○	ミウイ橋本	神奈川県
760		ザ・タワー横須賀中央	神奈川県



NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
761	○	ベイスクエアよこすか	神奈川県
762		サンビーチ追浜	神奈川県
763		ザ・タワー横須賀中央	神奈川県
764		追浜駅前市街地再開発事業	神奈川県
765		大船駅東口第1地区再開発事業	神奈川県
766		大船駅東口第2地区再開発事業	神奈川県
767		アイクロス湘南	神奈川県
768		さいか屋藤沢店	神奈川県
769		湘南C-X	神奈川県
770		藤沢駅南口再開発事業	神奈川県
771		小田原中町地区再開発事業	神奈川県
772	○	ハマミーナ、ランチ茅ヶ崎	神奈川県
773		茅ヶ崎駅南口市街地再開発事業	神奈川県
774		アミュあつぎ	神奈川県
775	○	厚木シティプラザ	神奈川県
776		厚木ガーデンシティビル	神奈川県
777		厚木中町二丁目B市街地再開発事業「厚木パークビル」	神奈川県
778		寿町三丁目市街地再開発事業「ルリエ本厚木」	神奈川県
779		中町北地区再開発事業「厚木セントラルハイツ」	神奈川県
780		東部地区市街地再開発事業「リバーツイン厚木」	神奈川県
781		東部第二地区第一種市街地再開発事業「厚木リヴァージュ21」	神奈川県
782		大和市文化創造拠点シリウス	神奈川県
783		ビナフロント	神奈川県
784		大雄山駅前市街地再開発事業	神奈川県
785		コープシティ花園「ガレツ」	新潟県
786	○	万代島ビル	新潟県
787		LEXN 1	新潟県
788		LEXN 2	新潟県
789		LEXN B	新潟県
790	○	フェニックス大手イースト	新潟県
791		アオーレ長岡	新潟県
792	○	ながおか町口御門	新潟県
793	○	フェニックス大手ウエスト	新潟県
794		十日町市民交流センター分じろう	新潟県
795		十日町市民交流センター十じろう	新潟県
796	○	あすとびあ高田	新潟県
797	○	富山ステーションフロントCiC	富山県
798	○	TOYAMAキラリ	富山県
799	○	富山市民プラザ	富山県
800		富山県立美術館	富山県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
801		富山市大庄地区 コミュニティセンター	富山県
802		桜町1丁目市街地再開発事業(建設中)	富山県
803	○	ウイング・ウイング高岡	富山県
804		滑川市民交流プラザ	富山県
805		福野文化創造センター(ヘリオス)	富山県
806	○	近江町いちば館	石川県
807		総曲輪レガートスクエア	石川県
808		HATCHI金沢	石川県
809		金沢パークビル	石川県
810	○	リファーレ	石川県
811	○	ミナ・クル	石川県
812	○	こまつアズスクエア	石川県
813		白山市松任学習センター	石川県
814	○	アオッサ	福井県
815	○	ハピリン	福井県
816		ココリ	山梨県
817		街のえき やまなし	山梨県
818		木の国サイト情報館	山梨県
819	○	権堂イーストプラザ北棟	長野県
820		えんパーク	長野県
821		エーワンシティ	長野県
822		TOiGO SBC/WEST (トイゴ エスピーシー/ウエスト)	長野県
823		ノルテながの	長野県
824		M ウィング	長野県
825		パレオ上田	長野県
826	○	トップヒルズ本町第一	長野県
827	○	いなっせ	長野県
828	○	もんぜんぶら座	長野県
829		岐阜シティ・タワー43	岐阜県
830		岐阜スカイウイング37	岐阜県
831		ぎふメディアコスモス	岐阜県
832	○	スイトアベニュー	岐阜県
833		ライオンズ大垣駅前ローレルタワー	岐阜県
834		可児市文化創造センターala	岐阜県
835		サウスポット静岡	静岡県
836		マークス・アネシスタワー草薙	静岡県
837	○	葵タワー	静岡県
838	○	ペガサートビル	静岡県
839	○	エスパティオ	静岡県
840	○	なゆた・浜北	静岡県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
841		浜松アクトシティ	静岡県
842		浜松アクトタワー	静岡県
843		浜松東第一25街区	静岡県
844		浜松東第一地区6街区	静岡県
845	○	ザザシティ浜松	静岡県
846		イーラde	静岡県
847	○	おび・りあ	静岡県
848		富士駅南駅地区(平成30年工事完了予定)	静岡県
849		サーラプラザ磐田	静岡県
850		豊岡中央交流センター	静岡県
851		ボレスター掛川ステーションレジデンス	静岡県
852		ウイタス138かけがわ	静岡県
853	○	BiVi藤枝	静岡県
854		オーレ藤枝	静岡県
855		FUJIEDA mikine	静岡県
856		JPタワー	愛知県
857		ミッドランド スクエア(豊田・毎日ビルディング)	愛知県
858		大名古屋ビルヂング	愛知県
859		グローバルゲート	愛知県
860		JRセントラルタワーズ	愛知県
861		サクランド岩倉	愛知県
862		豊橋サイエンスコア	愛知県
863		ココラフロント	愛知県
864		岡崎図書館交流プラザ「りぶら」	愛知県
865	○	一宮市尾張一宮駅前ビル	愛知県
866	○	パルティ瀬戸	愛知県
867	○	CLACITY(.クラシティ半田)	愛知県
868		半田市福祉文化会館	愛知県
869		ルネック	愛知県
870		文化フォーラム春日井	愛知県
871		アカリヤ	愛知県
872	○	とよた参合館	愛知県
873		コモ・スクエア	愛知県
874	○	ラピオ	愛知県
875		名古屋文理大学文化フォーラム	愛知県
876		ユウナル東海	愛知県
877		リリオコンサートホール	愛知県
878		サンコート三高	愛知県
879		武豊町民会館ゆめたろうプラザ	愛知県
880		津三交ビルディングアネックス	三重県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
881		三重県総合文化センター	三重県
882		四日市港ポートビル	三重県
883	○	サンファーレ	三重県
884		桑名メディアライヴ	三重県
885		くわなメディアライヴ	三重県
886	○	ハイトピア伊賀	三重県
887		ピエラ大津	滋賀県
888		くずの木センター	滋賀県
889	○	フェリエ南草津	滋賀県
890		あかね文化ホール	滋賀県
891		サンサ右京	京都府
892		京都アバンティ	京都府
893		京都駅ビル	京都府
894		京都市本能特別養護老人ホーム・堀川高等学校	京都府
895	○	バンビオ	京都府
896	○	NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館	大阪府
897		本町YUFURA	大阪府
898		あべのハルカス	大阪府
899		グランフロント大阪うめきた広場	大阪府
900		グランフロント大阪タワーA	大阪府
901		グランフロント大阪タワーB	大阪府
902		グランフロント大阪タワーC	大阪府
903		新大阪ブリックビル	大阪府
904	○	あべのベルタ	大阪府
905		あべのルシアス・ポポロ	大阪府
906	○	ベルマーージュ堺	大阪府
907		美原複合シビック施設	大阪府
908		堺駅西口再開発(ポルタス堺)	大阪府
909	○	アミナス北野田	大阪府
910	○	ベルヒル北野田	大阪府
911	○	ルシオーレA棟	大阪府
912		千里ニュータウンプラザ	大阪府
913		エアロプラザ	大阪府
914		ムーヴ21	大阪府
915		枚方T-SITE	大阪府
916		彩都西コミュニティセンター・図書館彩都西分室	大阪府
917		龍華コミュニティセンター	大阪府
918		八尾市生涯学習センターかがやき	大阪府
919		かほりまち	大阪府
920		アルカスホール(寝屋川市駅東地区)	大阪府

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
921		(キックス)	大阪府
922		ゆめニティまつばら	大阪府
923		大東市文化センター	大阪府
924		和泉シティプラザ	大阪府
925	○	アゼリア柏原	大阪府
926	○	希来里	大阪府
927	○	ヴェル・ノール布施	大阪府
928	○	ウェルブ六甲道二番街	兵庫県
929		神戸新港第1突堤プロジェクト	兵庫県
930		ティオ舞子	兵庫県
931		テラツ姫路	兵庫県
932		尼崎市総合文化センター	兵庫県
933		尼崎キューズモール	兵庫県
934	○	パビオスあかし	兵庫県
935	○	アスピアあかし	兵庫県
936		兵庫県立芸術文化センター	兵庫県
937		きららホール	兵庫県
938	○	加古川ウェルネスパーク	兵庫県
939	○	ピビアめふ	兵庫県
940		フレミラ宝塚	兵庫県
941	○	ジョイン川西(パレットかわにし)	兵庫県
942	○	アステ川西	兵庫県
943		キッピーモール	兵庫県
944	○	リーベル王子Aブロック	奈良県
945		メディカルコートあやめ池	奈良県
946		JR奈良駅周辺地区(第1街区)第一種市街地再開発事業(JR奈良駅前再開発第一ビル)	奈良県
947	○	ベルテラス生駒	奈良県
948		きのくに志学館(県立図書文化情報センター)	和歌山県
949		紀の川氏打田生涯学習センター	和歌山県
950		きーの和歌山	和歌山県
951		中島町総合文化センター	愛媛県
952		松江テルサ	島根県
953		松江市総合文化センター	島根県
954		大社文化プレイス	島根県
955		ビックハート出雲	島根県
956		バルメイト出雲	島根県
957		グラントワ(島根県芸術文化センター)	島根県
958	○	リットシティビル	岡山県
959	○	アルネ津山	岡山県
960		まなびの広場にいみ	岡山県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
961	○	大手町平和ビル	広島県
962		テリハ広島	広島県
963		安佐南総合福祉センター	広島県
964		基町クレド	広島県
965		広島サンプラザ	広島県
966		音戸市民センター	広島県
967		芸術文化センターポポロ	広島県
968		ONOMICHI U2	広島県
969		福山市中央図書館・福山市生涯学習プラザ まなびの館ローズコム	広島県
970		アイネスフクヤマ	広島県
971		広島国際プラザ	広島県
972		はつかいち文化ホール さくらピア	広島県
973		下関DREM SHIP	山口県
974		市川棚温泉交流センター	山口県
975		山口情報芸術文化センタービック'ウェア'YGAM(ワイカム)	山口県
976	○	ルルサス防府	山口県
977		防府市地域交流センターアスピラート	山口県
978		パストラルホール	山口県
979		周南市学び交流プラザ	山口県
980	○	アミコビル	徳島県
981	○	高松シンボルタワー	香川県
982		アヴァンサ千舟	愛媛県
983		アエル松山	愛媛県
984	○	はーばりー みなと交流センター	愛媛県
985		あかがねミュージアム(文化総合会館)	愛媛県
986		文化プラザかるぼーと	高知県
987	○	リバーウォーク北九州	福岡県
988	○	コムシティ	福岡県
989	○	博多リパレイン	福岡県
990	○	アクロス福岡	福岡県
991	○	薬院大通りセンタービル	福岡県
992		JRJP博多ビル	福岡県
993		JR博多シティ	福岡県
994		ソラリアプラザ	福岡県
995		マリンメッセ福岡	福岡県
996		チャンネルシティ博多	福岡県
997	○	六本松421	福岡県
998		KITTE博多	福岡県
999		アイランドシティ	福岡県
1000		MARKS IS 福岡もち	福岡県

NO.	官民複合	計画名称、建物名称	所在地
1001	○	久留米シティプラザ	福岡県
1002	○	サンメディアラック飯塚	福岡県
1003		大川交流プラザ	福岡県
1004		クローバープラザ	福岡県
1005		宮若リコリス	福岡県
1006	○	エスプラッツ	佐賀県
1007	○	大手口センタービル	佐賀県
1008		みらい長崎ココウォーク	長崎県
1009		アミュプラザ長崎	長崎県
1010		アルカスSASEBO	長崎県
1011		佐世保交通センタービル	長崎県
1012		COLAS平戸(平戸市未来創造館)	長崎県
1013		とぎつカナリーホール	長崎県
1014		国見町文化会館まほろば	長崎県
1015	○	びぶれす熊日会館A棟	熊本県
1016	○	くまもと森都心プラザA棟	熊本県
1017		テトリアくまもとビル	熊本県
1018		八代市鏡文化センター	熊本県
1019		不知火文化プラザ	熊本県
1020		ホルトホール大分	大分県
1021	○	OASISひろば21(lichiko総合文化センター)	大分県
1022		ビーコンプラザ	大分県
1023		コアやまくに	大分県
1024		アオーゼ	大分県
1025		くにさき総合文化センター アストくにさき	大分県
1026	○	ココレッタ延岡	宮崎県
1027		日南市多世代交流センター	宮崎県
1028	○	キャンセ	鹿児島県
1029		アエールプラザ	鹿児島県
1030	○	リナシティかのや	鹿児島県
1031	○	さいおんスクエア	沖縄県
1032		那覇新都市センタービル	沖縄県
1033		ピーススクエア	沖縄県
1034	○	パレットくもじ	沖縄県

資料2 官民複合建築 208 事例の概要

官民NO.	アンケート回収	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数		
								官	民	計
1	*	01S_ERU	北海道	1,952,356	2003	34,434	13	2	2	4
2		01S_SSK	北海道	1,952,356	2018	131,891	27	2	2	4
3	*	01H_KRH	北海道	265,979	2017	17,776	16	2	3	5
4	*	01K_KFM	北海道	174,742	1989	16,028	5	4	2	6
5	*	01W_KTK	北海道	36,380	2012	6,785	5	1	4	5
6	*	01F_NBT	北海道	22,936	2016	9,012	7	2	1	3
7	*	01E_IZR	北海道	69,702	2015	9,913	6	2	3	5
8	*	01E_ANI	北海道	69,702	2018	3,800	2	4	3	7
9		02A_AUG	青森県	287,648	2001	54,505	9	3	1	4
10	*	02H_HRR	青森県	177,411	1994	17,776	6	3	1	4
11	*	03M_MRO	岩手県	297,631	1997	52,625	20	2	3	5
12		03T_BGT	岩手県	55,463	2016	6,356	2	2	1	3
13	*	04S_THK	宮城県	1,082,159	2007	47,281	31	2	2	4
14	*	04S_SAE	宮城県	1,082,159	1998	73,131	31	3	2	5
15		04S_OMK	宮城県	1,082,159	2016	9,718	9	2	2	4
16	*	04T_TGK	宮城県	62,096	2016	6,898	3	1	1	2
17	*	05A_ALV	秋田県	315,814	2004	35,600	14	4	5	9
18	*	05A_ERA	秋田県	315,814	2013	41,493	13	2	3	5
19	*	06Y_KJS	山形県	253,832	2001	69,500	24	4	4	8
20		06S_NST	山形県	106,244	2006	13,156	12	1	3	4
21	*	06T_TDB	山形県	62,194	1994	11,700	4	1	3	4
22	*	07F_KRS	福島県	294,247	2003	21,226	12	2	2	4
23		07F_KYN	福島県	294,247	2005	15,842	5	2	1	3
24	*	07K_BGI	福島県	335,444	2001	51,900	24	3	2	5
25		07L_TBR	福島県	350,237	2002	24,755	17	1	3	4
26	*	07L_LAT	福島県	350,237	2007	46,666	9	3	2	5
27		08T_URR	茨城県	140,804	1997	69,145	31	2	1	3
28		08T_UR2	茨城県	140,804	1997	10,749	8	2	2	4
29		08T_UR3	茨城県	140,804	1997	7,335	8	1	2	3
30		08T_TST	茨城県	226,963	1983	32,902	12	2	1	3
31	*	08T_STS	茨城県	104,573	1991	25,647	7	3	3	6
32	*	09U_OSS	栃木県	518,594	2007	24,628	8	4	2	6
33		09T_TST	栃木県	159,211	1990	23,538	6	1	2	3
34		09K_SSC	栃木県	166,760	2013	16,323	21	1	3	4
35		09K_RBR	栃木県	166,760	1994	41,808	8	1	2	3
36		10T_TTN	群馬県	370,884	1998	25,048	22	1	2	3
37		11S_KUT	埼玉県	1,263,979	2002	14,098	13	1	3	4
38		11S_SNO	埼玉県	1,263,979	2004	81,139	20	1	2	3
39		11S_SRT	埼玉県	1,263,979	2003	15,100	20	1	1	2
40	*	11S_STB	埼玉県	1,263,979	2007	108,138	10	2	2	4



官民NO.	アンケート回収	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数		
								官	民	計
41	*	11S_OSS	埼玉県	1,263,979	1988	131,256	31	3	4	7
42	*	11S_WTW	埼玉県	1,263,979	1996	8,300	5	2	2	4
43	*	11S_WTE	埼玉県	1,263,979	1996	52,528	12	2	1	3
44	*	11K_MTA	埼玉県	198,742	2004	60,529	9	2	5	7
45		11K_RRA	埼玉県	578,112	1990	35,875	15	3	2	5
46		11K_KPR	埼玉県	578,112	2006	93,382	7	3	2	5
47		11T_TMK	埼玉県	340,386	2009	25,150	12	2	3	5
48		11K_ERM	埼玉県	118,072	2007	24,435	3	2	3	5
49		11S_HMT	埼玉県	247,034	1999	36,577	30	1	5	6
50		11K_TWB	埼玉県	337,498	2012	75,481	29	3	3	6
51	*	11Y_KKR	埼玉県	72,260	2010	31,751	30	2	2	4
52		11S_FSZ	埼玉県	72,676	2000	37,812	8	1	2	3
53	*	11O_OKM	埼玉県	73,936	1988	236,999	4	1	2	3
54		11F_CCK	埼玉県	110,970	2006	42,525	25	4	3	7
55		12C_CPS	千葉県	971,882	1993	186,742	28	2	3	5
56	*	12C_QBR	千葉県	971,882	2007	50,755	15	3	1	4
57		12C_TWB	千葉県	971,882	1989	24,223	14	2	1	3
58		12I_AKH	千葉県	481,732	1997	55,120	37	2	3	5
59		12I_ITA	千葉県	481,732	2009	86,500	45	2	3	5
60		12I_ITB	千葉県	481,732	2009	55,120	37	3	2	5
61	*	12F_FAB	千葉県	622,890	2003	46,489	14	1	2	3
62		12F_FSA	千葉県	622,890	1993	18,952	10	2	2	4
63		12F_LIV	千葉県	622,890	2000	23,219	14	1	1	2
64		12K_SCK	千葉県	134,141	1988	42,679	9	1	1	2
65		12M_MSP	千葉県	89,688	2002	28,008	6	1	2	3
66		12C_SKT	千葉県	131,190	2015	25,700	15	1	2	3
67		12K_DOT	千葉県	413,954	2016	34,136	27	1	2	3
68		13C_JSP	東京都	58,406	1983	54,539	16	2	2	4
69		13C_EDG	東京都	141,183	2016	113,562	32	1	2	3
70		13S_PSO	東京都	386,855	2015	44,769	20	1	2	3
71		13M_NMG	東京都	277,622	2002	58,313	25	2	3	5
72		13O_LOM	東京都	717,082	2011	14,802	8	2	3	5
73	*	13S_KRT	東京都	903,346	1996	77,365	27	2	2	4
74		13S_VTK	東京都	903,346	1999	13,915	21	1	3	4
75		13T_EKM	東京都	291,167	2015	94,682	49	3	2	5
76		13A_IHM	東京都	212,264	1990	20,489	14	2	1	3
77		13A_SMY	東京都	212,264	1997	27,020	22	2	2	4
78		13A_BTM	東京都	212,264	2012	32,650	29	2	4	6
79	*	13I_ITW	東京都	561,916	2002	23,380	30	2	4	6
80		13I_AEN	東京都	561,916	1997	16,681	8	2	2	4

官民NO.	アンケート回収	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数		
								官	民	計
81		13N_KKN	東京都	721,722	2014	226,943	8	1	2	3
82	*	13A_MBP	東京都	670,122	2000	32,459	21	2	2	4
83	*	13A_TGS	東京都	670,122	2006	26,542	22	2	2	4
84		13A_SMS	東京都	670,122	2004	80,437	13	2	1	3
85		13K_VNK	東京都	442,913	2009	79,563	41	1	2	3
86		13E_STP	東京都	681,298	2008	18,986	21	2	2	4
87		13N_EKP	東京都	721,722	1996	21,000	19	1	2	3
88	*	13N_OGY	東京都	721,722	2002	13,135	10	1	2	3
89		13H_SZS	東京都	577,513	2010	99,770	41	2	4	6
90		13N_HTS	東京都	577,513	1997	41,988	14	1	2	3
91		13H_BTH	東京都	577,513	2003	51,200	28	1	2	3
92		13T_TTK	東京都	176,295	2016	58,644	32	1	2	3
93	*	13M_MSB	東京都	144,730	1996	11,898	11	2	3	5
94		13M_FFB	東京都	144,730	1971	46,022	9	1	1	2
95		13M_MCC	東京都	186,936	1993	19,706	14	1	1	2
96	*	13O_KTB	東京都	137,381	2007	7,636	6	2	1	3
97		13F_FMS	東京都	260,274	2017	56,400	15	1	2	3
98	*	13C_GRC	東京都	229,061	2004	45,384	34	1	2	3
99	*	13H_PHW	東京都	149,956	2009	30,043	25	3	2	5
100	*	13K_STK	東京都	122,742	2018	57,317	36	1	2	3
101		13T_VKM	東京都	146,631	1999	68,024	27	1	2	3
102		14Y_QSY	神奈川県	3,724,844	1997	496,386	36	1	3	4
103		14Y_KRT	神奈川県	3,724,844	2007	48,100	29	1	4	5
104		14Y_YGB	神奈川県	3,724,844	1993	86,181	28	1	2	3
105	*	14Y_KKP	神奈川県	3,724,844	2004	16,000	14	2	2	4
106	*	14Y_RBS	神奈川県	3,724,844	2004	60,936	30	2	3	5
107		14Y_SKR	神奈川県	3,724,844	2010	57,400	31	3	3	6
108		14Y_FCF	神奈川県	3,724,844	2018	98,632	29	1	3	4
109		14Y_YOK	神奈川県	3,724,844	1997	181,957	26	2	3	5
110		14Y_KST	神奈川県	3,724,844	2001	14,135	13	1	2	3
111		14Y_MWT	神奈川県	3,724,844	2012	44,904	28	2	3	5
112		14Y_ORY	神奈川県	3,724,844	2000	35,272	7	1	1	2
113		14K_MZK	神奈川県	1,475,213	2003	114,322	27	1	3	4
114		14K_ETM	神奈川県	1,475,213	2013	66,465	39	1	2	3
115		14K_KSA	神奈川県	1,475,213	2020	68,995	38	1	2	3
116		14K_KTR	神奈川県	1,475,213	1994	34,769	22	2	2	4
117	*	14K_NCT	神奈川県	1,475,213	1997	10,359	13	1	3	4
118		14S_CPH	神奈川県	720,780	2000	105,624	28	1	1	2
119		14S_RAO	神奈川県	720,780	2008	36,071	20	2	2	4
120		14S_PRU	神奈川県	720,780	2013	68,000	26	1	2	3

官民NO.	アンケート回収	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数		
								官	民	計
81		13N_KKN	東京都	721,722	2014	226,943	8	1	2	3
82	*	13A_MBP	東京都	670,122	2000	32,459	21	2	2	4
83	*	13A_TGS	東京都	670,122	2006	26,542	22	2	2	4
84		13A_SMS	東京都	670,122	2004	80,437	13	2	1	3
85		13K_VNK	東京都	442,913	2009	79,563	41	1	2	3
86		13E_STP	東京都	681,298	2008	18,986	21	2	2	4
87		13N_EKP	東京都	721,722	1996	21,000	19	1	2	3
88	*	13N_OGY	東京都	721,722	2002	13,135	10	1	2	3
89		13H_SZS	東京都	577,513	2010	99,770	41	2	4	6
90		13N_HTS	東京都	577,513	1997	41,988	14	1	2	3
91		13H_BTH	東京都	577,513	2003	51,200	28	1	2	3
92		13T_TTK	東京都	176,295	2016	58,644	32	1	2	3
93	*	13M_MSB	東京都	144,730	1996	11,898	11	2	3	5
94		13M_FFB	東京都	144,730	1971	46,022	9	1	1	2
95		13M_MCC	東京都	186,936	1993	19,706	14	1	1	2
96	*	13O_KTB	東京都	137,381	2007	7,636	6	2	1	3
97		13F_FMS	東京都	260,274	2017	56,400	15	1	2	3
98	*	13C_GRC	東京都	229,061	2004	45,384	34	1	2	3
99	*	13H_PHW	東京都	149,956	2009	30,043	25	3	2	5
100	*	13K_STK	東京都	122,742	2018	57,317	36	1	2	3
101		13T_VKM	東京都	146,631	1999	68,024	27	1	2	3
102		14Y_QSY	神奈川県	3,724,844	1997	496,386	36	1	3	4
103		14Y_KRT	神奈川県	3,724,844	2007	48,100	29	1	4	5
104		14Y_YGB	神奈川県	3,724,844	1993	86,181	28	1	2	3
105	*	14Y_KKP	神奈川県	3,724,844	2004	16,000	14	2	2	4
106	*	14Y_RBS	神奈川県	3,724,844	2004	60,936	30	2	3	5
107		14Y_SKR	神奈川県	3,724,844	2010	57,400	31	3	3	6
108		14Y_FCF	神奈川県	3,724,844	2018	98,632	29	1	3	4
109		14Y_YOK	神奈川県	3,724,844	1997	181,957	26	2	3	5
110		14Y_KST	神奈川県	3,724,844	2001	14,135	13	1	2	3
111		14Y_MWT	神奈川県	3,724,844	2012	44,904	28	2	3	5
112		14Y_ORY	神奈川県	3,724,844	2000	35,272	7	1	1	2
113		14K_MZK	神奈川県	1,475,213	2003	114,322	27	1	3	4
114		14K_ETM	神奈川県	1,475,213	2013	66,465	39	1	2	3
115		14K_KSA	神奈川県	1,475,213	2020	68,995	38	1	2	3
116		14K_KTR	神奈川県	1,475,213	1994	34,769	22	2	2	4
117	*	14K_NCT	神奈川県	1,475,213	1997	10,359	13	1	3	4
118		14S_CPH	神奈川県	720,780	2000	105,624	28	1	1	2
119		14S_RAO	神奈川県	720,780	2008	36,071	20	2	2	4
120		14S_PRU	神奈川県	720,780	2013	68,000	26	1	2	3

官民NO.	アンケート回収	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数		
								官	民	計
121		14O_MNO	神奈川県	194,086	2020	31,419	14	2	5	7
122		14Y_MUH	神奈川県	720,780	2001	59,043	9	1	1	2
123		14Y_GBS	神奈川県	406,586	1993	73,707	20	2	2	4
124		14A_HBC	神奈川県	239,348	2015	7,778	4	2	2	4
125		14A_ACP	神奈川県	225,714	1984	11,529	7	2	1	3
126		14N_MDB	新潟県	810,157	2003	51,000	31	3	3	6
127	*	15N_FNE	新潟県	130,190	2009	18,200	8	2	2	4
128		15N_NMO	新潟県	130,190	2018	17,415	14	1	3	4
129	*	15N_FNW	新潟県	130,190	2010	11,480	18	2	2	4
130		15J_ATT	新潟県	196,987	2013	18,000	16	1	2	3
131		16T_TCC	富山県	418,686	1992	31,918	15	3	1	4
132	*	16T_KRR	富山県	418,686	2015	26,792	10	1	2	3
133	*	16T_TSP	富山県	418,686	1989	22,702	7	3	2	5
134	*	16N_VWT	富山県	172,125	2004	31,500	14	2	3	5
135	*	17K_OIK	石川県	465,699	2009	17,349	5	1	1	2
136		17K_RFR	石川県	465,699	1996	56,500	18	1	4	5
137		17F_MNK	石川県	55,325	2006	14,000	6	2	1	3
138		17K_KAS	石川県	106,919	2017	9,422	8	2	2	4
139	*	18F_AOS	福井県	265,904	2007	33,170	10	2	2	4
140		18F_HPR	福井県	265,904	2016	35,140	21	1	2	3
141	*	20N_GIP	長野県	377,598	2015	4,593	4	1	2	3
142		20N_TSW	長野県	377,598	2006	22,436	10	1	2	3
143		20N_NNN	長野県	377,598	1998	34,847	13	1	1	2
144		20M_MWG	長野県	243,293	1999	16,932	8	2	2	4
145		20U_PRU	長野県	156,827	2003	8,452	6	1	1	2
146	*	20L_THH	長野県	101,581	2001	14,010	10	1	3	4
147		20I_INS	長野県	68,271	2003	18,242	8	1	2	3
148	*	20S_MZP	長野県	67,135	2003	23,941	8	1	2	3
149		21O_SAB	岐阜県	159,879	2016	24,865	17	1	2	3
150	*	22S_AOT	静岡県	704,989	2010	40,793	25	1	2	3
151	*	22S_PSB	静岡県	704,989	2004	24,000	21	2	2	4
152		22S_EPO	静岡県	704,989	2003	38,224	14	1	3	4
153	*	22N_NYT	静岡県	797,980	2001	28,455	3	1	2	3
154	*	22H_ZZH	静岡県	797,980	2001	64,183	17	1	2	3
155		22S_OBR	静岡県	98,112	2012	12,540	10	2	2	4
156		22F_BVF	静岡県	143,605	2009	29,323	5	1	2	3
157		22I_IOI	愛知県	380,868	2012	21,407	7	2	1	3
158	*	23S_PRT	愛知県	129,046	2004	13,760	6	4	1	5
159		23H_KKH	愛知県	116,908	2006	25,848	17	1	2	3
160	*	23T_SGK	愛知県	202,302	1998	45,460	13	1	2	3

官民NO.	アンケート回収	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数		
								官	民	計
161		23A_RPO	愛知県	149,462	1995	49,159	5	1	1	2
162		24K_NWN	三重県	140,303	2006	26,372	18	3	2	5
163		24_HPI	滋賀県	90,581	2017	10,248	5	1	2	3
164		25K_FKS	滋賀県	137,247	2002	6,700	6	3	2	5
165	*	26N_BBO	京都府	80,090	2005	13,000	8	1	1	2
166		27O_NKR	大阪府	2,691,185	2001	90,026	18	1	1	2
167	*	27O_ABB	大阪府	2,691,185	1987	101,244	17	1	3	4
168		27B_BBS	大阪府	839,310	1990	145,597	43	1	2	3
169		27S_AAK	大阪府	839,310	2005	30,376	19	3	1	4
170		27S_ABH	大阪府	839,310	2007	67,389	32	1	2	3
171	*	27T_RCO	大阪府	395,479	2003	51,832	7	4	2	6
172		27O_AZK	大阪府	71,112	2006	20,487	15	1	4	5
173		27H_KCH	大阪府	502,784	2002	62,282	39	3	2	5
174		27H_VNF	大阪府	502,784	1996	69,700	18	2	1	3
175		28K_VBR	兵庫県	1,537,272	2003	49,050	14	1	3	4
176	*	28A_PPO	兵庫県	293,409	2016	65,848	34	3	3	6
177	*	28A_ASP	兵庫県	293,409	2001	91,198	14	2	2	4
178	*	28K_KUP	兵庫県	267,435	1998	10,677	2	2	1	3
179	*	28T_PPM	兵庫県	224,903	1999	16,700	6	3	3	6
180		28K_JKN	兵庫県	156,375	1999	8,444	14	1	1	2
181	*	28K_ASK	兵庫県	156,375	1989	74,212	6	2	1	3
182	*	29K_RBO	奈良県	24,215	2004	68,750	11	1	4	5
183		29L_BRI	奈良県	118,233	2016	23,000	5	1	2	3
184		30O_RSB	岡山県	719,474	2005	54,867	19	1	3	4
185	*	33T_ARN	岡山県	103,746	1999	72,000	8	2	1	3
186		34H_OHB	広島県	1,194,034	2004	13,800	11	3	1	4
187		35B_RSB	山口県	115,942	2006	21,100	3	2	1	3
188	*	36T_AMK	徳島県	258,554	1983	87,653	11	3	4	7
189	*	37T_TMS	香川県	420,748	2004	103,264	30	3	2	5
190	*	38L_HBM	愛媛県	158,114	2016	3,310	4	3	1	4

官民NO.	アンケート回収	建物符号	所在地	都市人口	竣工年	のべ面積 (㎡)	階数 (地上)	用途の数		
								官	民	計
191		40K_RBU	福岡県	961,286	2003	154,368	16	2	2	4
192	*	40K_KMS	福岡県	961,286	2001	91,206	12	4	4	8
193	*	40F_HRB	福岡県	1,538,681	1999	154,368	13	1	3	4
194	*	40F_AKF	福岡県	1,538,681	1995	97,493	14	2	2	4
195		40F_YSB	福岡県	1,538,681	2005	22,400	18	0	5	5
196		40F_RMY	福岡県	1,538,681	2017	37,000	13	2	3	5
197	*	40K_KSP	福岡県	304,552	2016	33,748	6	3	1	4
198		40I_SMI	福岡県	129,146	2015	14,712	11	1	4	5
199	*	41S_ESP	佐賀県	236,372	1998	22,930	12	3	4	7
200		41O_OTS	佐賀県	122,785	2011	8,773	6	2	3	5
201		43K_BPR	熊本県	740,822	2002	56,206	14	1	5	6
202	*	43K_MTP	熊本県	740,822	2012	52,473	6	3	3	6
203		44O_OHB	大分県	478,146	1998	83,000	21	1	3	4
204		45N_CCN	宮崎県	125,159	2007	3,986	3	1	2	3
205		46K_CYS	鹿児島県	599,814	1999	30,509	8	2	1	3
206		46N_RSK	鹿児島県	103,608	2007	15,953	4	3	1	4
207		47N_SIO	沖縄県	319,435	2011	22,369	12	1	2	3
208		47O_PKM	沖縄県	139,279	1991	55,779	9	2	4	6

資料3 管理者宛調査票

【研究テーマ：複合施設の空間構成に関する研究】

複合施設 \_\_\_\_\_

事業者様、施設管理者様、施設運営者様

**アンケートご協力をお願い**

ご回答締切り  
/

.....

私たちの研究室では「複合施設の空間構成に関する研究」を行っています。このたび、その研究の一環として、複合施設の事業者様、施設管理者様、施設運営者様の方々を対象とした調査アンケートの御協力をお願いしております。

なお、このアンケートは研究資料にすることを目的とするものであり、ご記入いただいた個人情報は、研究目的以外で使用するは一切ありません。ご同意くださいましたら、ご協力よろしくお願いいたします。

担当：高木 紫帆(修士1年)、 山田 由美子(博士課程3年)  
周 森林(修士1年)、 桑村 駿太(学部4年)、 鈴木 卓磨 (学部4年)  
FAX:03-5284-5696 (建築学科事務室)  
〒120-8551東京都足立区千住旭町5番 東京電機大学未来科学部建築学科 建築・都市空間研究室

.....

■それぞれの該当するところに○印をつけ、( )内はご記入願います。

**Q1. この施設の運用時期について記入してください。**

① 建物の新築竣工当時 (西暦 年 または昭和、平成 年) から

② 建物の改修(リニューアル) (西暦 年 または昭和、平成 年) してから

③ テナントとして入居 (西暦 年 または昭和、平成 年) してから

④ 施設ごとに運用開始時期が異なる場合は、以下にご記入ください。

施設名	運用時期 西暦または平成・昭和 年

**Q2. 管理運営体制について記入してください。**

① 一社(株式会社)単独

② 複数社(例：〇〇組合)

③ 官公署(例：市役所)

④ 他( )

**Q3-1. この施設は複合施設ですが、管理運営の効果的な点など、ございますか。**

例：諸室の相互利用ができる。利便性が高い

**Q3-2. この施設で 不都合、非効率な点など、ございますか。**

例：施設が混在していて案内がわかりにくい、他施設の音が時間帯によっては気になる

1 / 7

Q4. 来場者の総人数、一番多いと思われる時間帯等を記入してください。(複数回答可)			
曜日	総人数(約)	来場者の多い時間帯	来場者の多い時間帯の人数
	例) 1000人時	例) 12時～15時	例) 500人
①平日			
②土曜日			
③日曜日			

Q5. この施設で、イベントの開催の有無、内容、頻度はどの程度でしょうか

- ① イベント開催は、ない → Q6.へ  
 ② イベント開催は、ある場合は下記に記入していただくか、または一覧表などがありましたら同封してください。

イベント内容	開催する場所	開催頻度(程度)
例) フリーマーケット	例) エントランスホール	例) 月1回 日曜日

Q6. この施設の利用者年代の多い順に数字と、利用者割合を( )内に記入ください。

順位	年代	利用者割合(%) ※おおよその割合
( )	未就学児	( ) %
( )	小学生	( ) %
( )	中学生、高校生	( ) %
( )	大学生、20代	( ) %
( )	30代～60代	( ) %
( )	70代以上	( ) %



Q 7. この施設の利用者間同士の交流状況はいかがでしょう。感想をお聞かせください。

例) 大人と大人 (普段は交流が見られないが、イベント開催時には見られる)

①大人と大人

[ ]

②家族連れと家族連れ

[ ]

③ 子供と子供

[ ]

④ 大人と子供

[ ]

Q 8. この施設の中で気に入っている場所・自慢したいところはどこですか。(複数回答可)

階数	場所	理由 (自由記載)

その他ございましたら下記にご記入ください。

[ ]

Q9. 施設の中で、もう少し改善が必要と思われる場所はどこですか。(自由記載)

例 △△の場所は、○○が不足

階数	場所	理由(自由記載)

その他ございましたら下記にご記入ください。

--

Q10. この複合施設内に、あればよいと思う施設や空間はありますか。(自由記載)

例)託児所があればよい。ラウンジはもう少し広いほうがよい。

--

Q 11-1. この複合施設で混雑する場所はありますか。

場所	混雑状況 あてはまるものに○をつけてください。	混雑する理由（自由記載）
玄関ロビー、 エントランスホール	・混雑する ・混雑しない	
エレベーターホール	・混雑する ・混雑しない	
吹き抜け・アトリウム	・混雑する ・混雑しない ・左記場所なし	
待合ロビー、ラウンジ、ホワイエ	・混雑する ・混雑しない ・左記場所なし	
水まわり（トイレ・洗面等）	・混雑する ・混雑しない	
給湯室・ リフレッシュコーナー	・混雑する ・混雑しない ・左記場所なし	
喫煙スペース	・混雑する ・混雑しない ・左記場所なし	
屋上庭園・展望台	・混雑する ・混雑しない ・左記場所なし	
屋外スペース （テラス・中庭）	・混雑する ・混雑しない ・左記場所なし	

Q 11-2. この複合施設の中でもっとも利用されている室・場所を5つあげてください。

例) 1階 学習室

高校生が勉強でよく利用している

階数	場所	その理由（利用率など）

Q11-3. この施設であまり利用されていない室・場所がありますか。5つあげてください

階数	場所	その理由（利用率など）

Q12. この複合施設の総合的な印象を記入してください。

項目	該当する箇所に○をつけてください。
12-1 この施設の外観	[1]不満、[2]やや不満、[3]どちらともいえない、 [4]やや満足、[5]満足 その理由をお聞かせください。 [ ]
12-2 この施設の内観 (エントランスホールなど)	[1]不満、[2]やや不満、[3]どちらともいえない、 [4]やや満足、[5]満足 その理由をお聞かせください。 [ ]
12-3 こ屋外スペース (この施設の敷地内)	[1]不満、[2]やや不満、[3]どちらともいえない、 [4]やや満足、[5]満足 その理由をお聞かせください。 [ ]

アンケートは以上です。有難うございました。  
お手数をおかけいたしますが、  
ご回答は同封の返信封筒を 月 日 ( ) までに投函いただきますようお願いいたします。



資料 4 利用者あて調査票（複合建築一例を示す）

利用者の皆様

**アンケートご協力をお願い**

簡単なアンケートですのでご協力お願いいたします。

.....

東京電機大学大学院建築学科建築・都市空間研究室(横田研究室)では、「複合施設の空間構成に関する研究」を行っています。このたび、その研究の一環として、複合施設「 \_\_\_\_\_ 」の利用者の方々を対象に調査アンケートの御協力をお願いし、人々が好む施設空間やデザインを探求することを目的としています。

なお、このアンケートは研究資料を目的とするものであり、ご記入いただいた個人情報は、研究目的以外で使用するは一切ありません。お忙しいところ、ご協力いただき、心より感謝いたします。

東京電機大学未来科学部建築学科 建築・都市空間研究室  
担当：山田 由美子(博士課程3年)、高木 紫帆(修士2年)  
周 森林(修士2年)、鈴木 卓磨(修士1年)

.....

Q 1. この施設への主な訪問目的を教えてください。(複数回答可)

食事      買い物      待ち合わせ      公演、展示、イベント      会議

勤務       休息、休憩      トイレ・オムツ替え      商談      見学

その他 ( \_\_\_\_\_ )

Q 2. どなたと一緒にですか。(複数回答可)

ひとりで      家族・親戚      友達      恋人      会社の人

その他 ( \_\_\_\_\_ )

Q 3. 利用した入り口を教えてください。

①地下2階      ②1階

Q 4. この施設に訪れるのは、何回目ですか。

①初めて (06へ)      ②2回目 (05へ)      ③3回以上 (05へ)

Q 5. 2回目以上訪問の方におたずねします。

★この施設を訪れるのはいつもどの時間帯ですか。

①朝      ②昼      ③夕方      ④ 夕方～閉館までの間      ⑤その他 ( \_\_\_\_\_ )

★この施設の利用頻度はどのくらいですか。

①毎日      ②週に1回以上      ③月に1回以上      ④年に1回以上      ⑤その他 ( \_\_\_\_\_ )

Q 6. 滞在時間(予定)を教えてください。

①30分未満      ②30分～1時間      ③1～2時間      ④2～3時間      ⑤3時間以上

Q 7. 施設内を移動する際、目的地に迷わず行くことができましたか。また、その理由を教えてください。

できた(迷わなかった) ・ できなかった(迷った)

理由： \_\_\_\_\_

Q 8. 施設の利用順序を教えてください。順序が不明な場合は、利用施設に○を記入してください。

- |   |                                       |                                    |
|---|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> シンフォニーホール      | <input type="checkbox"/> イベントホール      | <input type="checkbox"/> 国際会議場     |
| <input type="checkbox"/> 円形ホール          | <input type="checkbox"/> 交流ギャラリー      | <input type="checkbox"/> セミナー室     |
| <input type="checkbox"/> 会議室            | <input type="checkbox"/> 練習室          | <input type="checkbox"/> 匠ギャラリー    |
| <input type="checkbox"/> メッセージホワイエ      | <input type="checkbox"/> コミュニケーションエリア | <input type="checkbox"/> 文化観光情報ひろば |
| <input type="checkbox"/> チケットセンター       | <input type="checkbox"/> アトリウム        | <input type="checkbox"/> 書展示エリア    |
| <input type="checkbox"/> ショップ           | <input type="checkbox"/> レストラン        | <input type="checkbox"/> オフィス      |
| <input type="checkbox"/> ステップガーデン（屋上緑化） | <input type="checkbox"/> パスポートセンター    | <input type="checkbox"/> こくさいひろば   |
| <input type="checkbox"/> その他（           |                                       | ）                                  |

Q 9. この施設でもう少し改善が必要だと思われる場所はどこですか。

[場所： ]

その理由も教えてください（複数回答可）

- |   |   |  |                                 |                              |
|---|---|--|---------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 案内（受付・サイン等）                | <input type="checkbox"/> 空調                   | <input type="checkbox"/> 照明                    | <input type="checkbox"/> 広さ     | <input type="checkbox"/> トイレ |
| <input type="checkbox"/> 施設内移動（EV・ESL わかりにくい、迷う、遠い） | <input type="checkbox"/> 駐車場（広さ、わかりにくい、迷う、遠い） | <input type="checkbox"/> 喫煙コーナー 分煙について不満・満足・禁煙 | <input type="checkbox"/> 待合スペース |                              |
| <input type="checkbox"/> 音（静か・うるさい）                 | <input type="checkbox"/> 清掃                   | <input type="checkbox"/> 休憩スペース                |                                 |                              |
| <input type="checkbox"/> 玄関の雰囲気                     | <input type="checkbox"/> におい                  | <input type="checkbox"/> バリアフリー 安全配慮           |                                 |                              |
| <input type="checkbox"/> その他（                       |   |  |                                 | ）                            |

Q 10. この施設の中で お気に入りの場所は どこですか。（具体的な場所を教えてください）

例） 1階の エントランスロビーの吹き抜け空間

[場所： ]

その理由も教えてください（複数回答可）

- |                                     |                                  |                                       |
|-------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 快適・居心地がいい  | <input type="checkbox"/> 広い・開放的  | <input type="checkbox"/> 入りやすい・利用しやすい |
| <input type="checkbox"/> キレイ・清潔感がある | <input type="checkbox"/> 静か・落ち着く | <input type="checkbox"/> 賑やか・楽しい      |
| <input type="checkbox"/> その他（       |                                  | ）                                     |

Q 11. この施設について外観の印象はいかがですか（複数回答可）

- |                                      |                                 |   |
|--------------------------------------|---------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> かっこいい、斬新    | <input type="checkbox"/> 新鮮     | <input type="checkbox"/> つまらない          |
| <input type="checkbox"/> 目立つ         | <input type="checkbox"/> 親しみやすい | <input type="checkbox"/> 奇抜、派手          |
| <input type="checkbox"/> 街並みと調和している  | <input type="checkbox"/> 古風     | <input type="checkbox"/> 現代風            |
| <input type="checkbox"/> 建物に入ってみたくなる | <input type="checkbox"/> 自慢したい  | <input type="checkbox"/> 興味がない、考えたことがない |
| <input type="checkbox"/> その他（        |                                 | ）                                       |

Q 12. この施設について内観の印象はいかがですか（複数回答可）

- |                               |                                 |   |
|-------------------------------|---------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 落ち着く | <input type="checkbox"/> 派手     | <input type="checkbox"/> 統一感がある         |
| <input type="checkbox"/> 暗い   | <input type="checkbox"/> 賑わいがある | <input type="checkbox"/> 開放としている        |
| <input type="checkbox"/> 明るい  | <input type="checkbox"/> 開放的    | <input type="checkbox"/> 閉鎖的            |
| <input type="checkbox"/> 楽しい  | <input type="checkbox"/> 緑が多い   | <input type="checkbox"/> 興味がない、考えたことがない |
| <input type="checkbox"/> その他（ |                                 | ）                                       |

Q 13. あなたの性別・年齢について教えてください。

- |                             |                             |                              |      |      |      |        |
|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|------|------|------|--------|
| <input type="checkbox"/> 男性 | <input type="checkbox"/> 女性 | <input type="checkbox"/> その他 |      |      |      |        |
| ①10代                        | ②20代                        | ③30代                         | ④40代 | ⑤50代 | ⑥60代 | ⑦70代以上 |

アンケートは以上です。有難うございました。

資料5 官民複合建築（調査票回収）78事例の概要

建物符号	所在地	都市人口	竣工年	タイプ		延面積㎡	地上階数	断面構成	用途数
38I_HBM	愛媛県	158,114	2016	C1	C1-I	3,310	4	S2	4
40K_KSP	福岡県	304,552	2016	C1	C1-I	33,748	6	S1	4
37T_TMS	香川県	420,748	2004	C1	C1-I	103,264	30	S4	5
01E_ANI	北海道	69,702	2018	C1	C1-I	3,800	2	S1	7
08T_STS	茨木県	104,573	1991	C1	C1-I	25,647	7	S1	6
20N_GIP	長野県	377,598	2015	C1	C1-I	4,593	4	S1	3
20S_MZP	長野県	67,135	2003	C1	C1-I	23,941	8	S1	3
14N_FNE	神奈川県	130,190	2009	C1	C1-I	18,200	8	S1	4
22S_PSB	静岡県	704,989	2004	C1	C1-I	24,000	21	S1	4
40F_AKF	福岡県	1,538,681	1995	C1	C1-I	97,493	14	S1	4
01S_ERU	北海道	1,952,356	2003	C1	C1-I	34,434	13	S1	4
07F_KRS	福島県	294,247	2003	C1	C1-I	21,226	12	S1	4
13S_KRT	東京都	903,346	1996	C1	C1-I	77,365	27	S1	4
03M_MRO	岩手県	297,631	1997	C1	C1-I	52,625	20	S4	5
04S_SAE	宮城県	1,082,159	1998	C1	C1-I	73,131	31	S2	5
11S_OSS	埼玉県	1,263,979	1988	C1	C1-II	131,256	31	S4	7
36T_AMK	徳島県	258,554	1983	C1	C1-II	87,653	11	S1	7
05A_ALV	秋田県	315,814	2004	C1	C1-II	35,600	14	S4	9
13M_MSB	東京都	144,730	1996	C1	C1-II	11,898	11	S1	5
22S_AOT	静岡県	704,989	2010	C1	C1-II	40,793	25	S1	3
16T_KRR	富山県	418,686	2015	C1	C1-II	26,792	10	S1	3
23T_SGK	愛知県	202,302	1998	C1	C1-II	45,460	13	S1	3
12F_FAB	千葉県	622,890	2003	C1	C1-II	46,489	14	S1	3
40F_HRB	福岡県	1,538,681	1999	C1	C1-II	154,368	13	S1	4
13N_OGY	東京都	721,722	2002	C1	C1-III	13,135	10	S1	3
16N_WWT	富山県	172,125	2004	C1	C1-III	31,500	14	S4	5
14K_NCT	神奈川県	1,475,213	1997	C2	C2-I	10,359	13	S1	4
28A_PPO	兵庫県	293,409	2016	C2	C2-I	65,848	34	S1	6
13H_PHW	東京都	149,956	2009	C2	C2-I	30,043	25	S1	5
01H_KRH	北海道	265,979	2017	C2	C2-I	17,776	16	S1	5
13A_TGS	東京都	670,122	2006	C2	C2-I	26,542	22	S1	4
43K_MTP	熊本県	740,822	2012	C2	C2-I	52,473	6	S4	6
14N_FNW	神奈川県	130,190	2010	C2	C2-I	11,480	18	S1	4
28A_ASP	兵庫県	293,409	2001	C2	C2-I	91,198	14	S1	4
04S_THK	宮城県	1,082,159	2007	C2	C2-I	47,281	31	S4	4
11Y_KKR	埼玉県	72,260	2010	C2	C2-I	31,751	30	S4	4
05A_ERA	秋田県	315,814	2013	C2	C2-I	41,493	13	S3	5
11S_WTW	埼玉県	1,263,979	1996	C2	C2-I	8,300	5	S1	4
11O_OKM	埼玉県	73,936	1988	C2	C2-I	236,999	4	S1	3



建物符号	所在地	都市人口	竣工年	タイプ		延面積㎡	地上階数	断面構成	用途数
41S_ESP	佐賀県	236,372	1998	C2	C2-Ⅱ	22,930	12	S1	7
13A_MBP	東京都	670,122	2000	C2	C2-Ⅱ	32,459	21	S1	4
18F_AOS	福井県	265,904	2007	C2	C2-Ⅱ	33,170	10	S1	4
09U_OSS	栃木県	518,594	2007	C2	C2-Ⅱ	24,628	8	S1	6
28K_KUP	兵庫県	267,435	1998	C2	C2-Ⅱ	10,677	2	S3	3
13O_KTB	東京都	137,381	2007	C2	C2-Ⅱ	7,636	6	S1	3
12C_QBR	千葉県	971,882	2007	C2	C2-Ⅱ	50,755	15	S1	4
28K_ASK	兵庫県	156,375	1989	C2	C2-Ⅱ	74,212	6	S1	3
33T_ARN	岡山県	103,746	1999	C2	C2-Ⅱ	72,000	8	S1	3
04T_TGK	宮城県	62,096	2016	C2	C2-Ⅱ	6,898	3	S3	2
23S_PRT	愛知県	129,046	2004	C2	C2-Ⅱ	13,760	6	S1	5
27T_RCO	大阪府	395,479	2003	C2	C2-Ⅱ	51,832	7	S1	6
07K_BGI	福島県	335,444	2001	C2	C2-Ⅱ	51,900	24	S1	5
07I_LAT	福島県	350,237	2007	C2	C2-Ⅱ	46,666	9	S1	5
16T_TSP	富山県	418,686	1989	C2	C2-Ⅱ	22,702	7	S1	5
06Y_KJS	山形県	253,832	2001	C2	C2-Ⅱ	69,500	24	S1	8
11S_STB	埼玉県	1,263,979	2007		C3	108,138	10	S1	4
22H_ZZH	静岡県	797,980	2001		C3	64,183	17	S1	3
01W_KTK	北海道	36,380	2012		C3	6,785	5	S1	5
06T_TDB	山形県	62,194	1994		C3	11,700	4	S2	4
11K_MTA	埼玉県	198,742	2004		C3	60,529	9	S1	7
02H_HRR	青森県	177,411	1994		C3	17,776	6	S1	4
11S_WTE	埼玉県	1,263,979	1996		C3	52,528	12	S1	3
13K_STK	東京都	122,742	2018		C3	57,317	36	S1	3
17K_OIK	石川県	465,699	2009		C3	17,349	5	S1	2
23N_NYT	愛知県	797,980	2001		C3	28,455	3	S3	3
26N_BBO	京都府	80,090	2005		C3	13,000	8	S1	2
01K_KFM	北海道	174,742	1989		C3	16,028	5	S2	6
28T_PPM	兵庫県	224,903	1999		C3	16,700	6	S1	6
13I_ITW	東京都	561,916	2002		C3	23,380	30	S1	6
29K_RBO	奈良県	24,215	2004		C3	68,750	11	S1	5
20I_THH	長野県	101,581	2001		C3	14,010	10	S1	4
27O_ABB	大阪府	2,691,185	1987		C3	101,244	17	S1	4
13C_GRC	東京都	229,061	2004		C3	45,384	34	S1	3
01E_IZR	北海道	69,702	2015		C3	9,913	6	S1	5
14Y_RBS	神奈川県	3,724,844	2004		C4	60,936	30	S3	5
14Y_KKP	神奈川県	3,724,844	2004		C4	16,000	14	S1	4
40K_KMS	福岡県	961,286	2001		C4	91,206	12	S1	8
01F_NBT	北海道	22,936	2016		C4	9,012	7	S1	3

資料6 雑誌掲載 複合建築 50 事例のリスト

No.	施設名	掲載雑誌	No.	施設名	掲載雑誌
1	ミュージア川崎	新建築 2004年4月号200頁	26	中之島フェスティバルタワー	新建築 2013年1月号113頁
2	アイランドシティ	新建築 2005年9月号84頁	27	御茶ノ水ソラシティ	新建築 2013年5月号122頁
3	表参道ヒルズ	新建築 2006年5月号060頁	28	東京スクエアガーデン	新建築 2013年5月号086頁
4	ラゾーナ川崎プラザ	新建築 2006年12月号122頁	29	グランフロント大阪	新建築 2013年6月号042頁
5	アーバンドッグららばーと豊洲	新建築 2006年12月号130頁	30	サウスウッド	新建築 2013年12月号102頁
6	横浜ベイクォーター	新建築 2006年12月号140頁	31	KIRARITO GINZA	新建築 2014年12月号102頁
7	ミッドランドスクエア	新建築 2007年4月号094頁	32	湘南T-SITE	新建築 2015年3月号084頁
8	東京ミッドタウン	新建築 2007年5月号058頁	33	二子玉川ライズII	新建築 2015年9月号136頁
9	新丸の内ビルディング	新建築 2007年6月号118頁	34	東急プラザ銀座	新建築 2016年6月号060頁
10	高松丸亀町	新建築 2011年10月号086頁	35	KITTE博多	新建築 2016年6月号061頁
11	赤坂Bizタワー	新建築 2008年4月号150頁	36	JR新宿ミライナタワー	新建築 2016年6月号068頁
12	ブリーゼタワー	新建築 2008年11月号130頁	37	大名古屋ビルヂング	新建築 2016年6月号092頁
13	Ao	新建築 2009年5月号172頁	38	東京ミッドタウン日比谷	新建築 2018年5月号088頁
14	近江町いちば館	新建築 2009年7月号162頁	39	枚方T-SITE	新建築 2016年7月号046頁
15	丸の内ブリックスクエア	新建築 2012年7月号071頁	40	東京ガーデンテラス紀尾井町	新建築 2016年10月号050頁
16	たまプラーザテラス	新建築 2011年3月号140頁	41	札幌三井JPビルディング	新建築 2016年10月号078頁
17	上本町YUFURA	新建築 2011年4月号079頁	42	柏の葉T-SITE	新建築 2017年5月号126頁
18	JR博多シティ	新建築 2011年5月号082頁	43	GINZA SIX	新建築 2017年6月号190頁
19	Maruya gardens	新建築 2011年5月号161頁	44	富山県美術館	新建築 2017年9月号112頁
20	二子玉川ライズI	新建築 2011年6月号155頁	45	京橋エドグラン	新建築 2017年9月別冊
21	チャンネルシティ博多	新建築 2012年1月号89頁	46	JRゲートタワー	新建築 2018年1月号160頁
22	東急プラザ表参道原宿	新建築 2012年5月号148頁	47	グローバルゲート	新建築 2018年1月号170頁
23	東京スカイツリー	新建築 2012年6月号038頁	48	渋谷ストリーム	新建築 2018年11月号42頁
24	渋谷ヒカリエ	新建築 2012年7月号078頁	49	大手町プレイス	新建築 2018年11月号80頁
25	KITTE丸の内	新建築 2012年11月号068頁	50	MARK IS 福岡もち	新建築 2018年12月号156頁

資料7 共有空間 19 事例のリスト

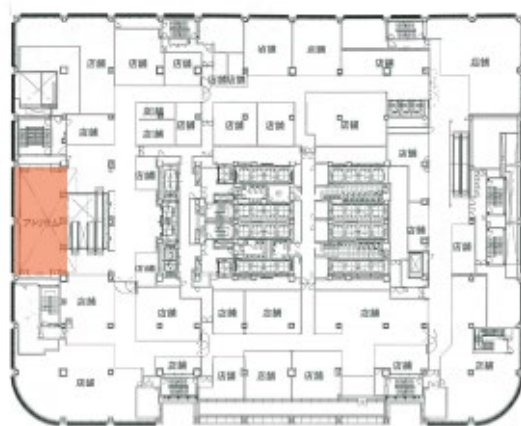
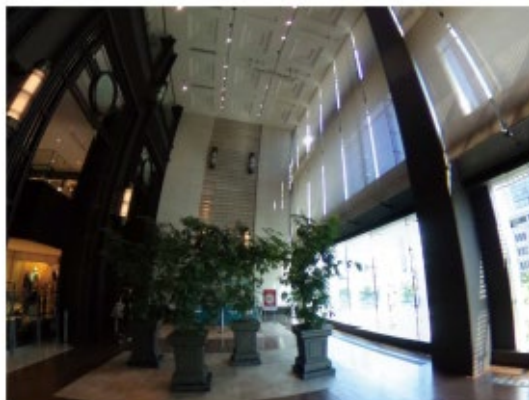
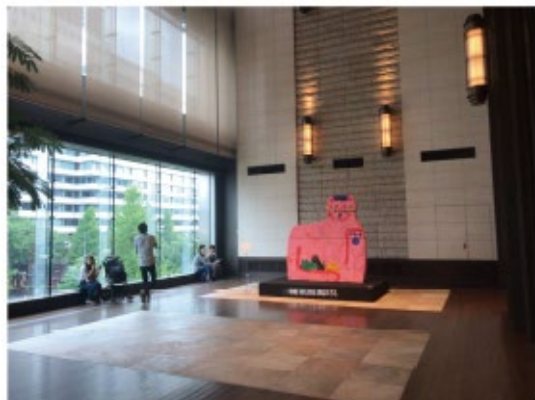
建物 符号	建物名称	延面積 (㎡)	階数 (地上)	建物高 (m)	雑誌掲載 (出典)
TCK	東京ガーデンテラス紀尾井町	227,200	36F	177	新建築2016年10月号 p.184
PO	大手町プレイス	353,800	35F	178	新建築2018年11月号 p.192
MK**	ミューザ川崎	114,300	27F	128	新建築2004年4月号 p.209
Q	近江町いちば館	17,300	5F	21	新建築2009年7月号 p.194
ICS	アイランドシティ中央公園各施設	5,000	1F	9	新建築2005年9月号 p.215
SMB	新丸の内ビルディング	195,400	38F	197	新建築2007年6月号 p.200
TMH	東京ミッドタウン日比谷	189,200	35F	191	新建築2018年5月号 p.58
KMU	KITTA丸の内	212,000	38F	200	新建築2012年11月号 p.190
COH	キャナルシティ博多	234,000	13F	50	新建築2016年10月号 p.294
MM	MARK IS 福岡もち	123,000	8F	32	近代建築2018年11月号 p.161
KE**	京橋江戸グラン	113,400	32F	170	近代建築2017年1月号p.67
TT	たまプラーザテラス	87,800	4F	30	近代建築2011年3月号 p.109
FTR**	二子玉川ライズ	157,000	30F	137	新建築2011年6月号 p.155 新建築2015年9月号 p.136
TMI	東京ミッドタウン	246,600	54F	248	新建築2007年5月号 p.206
JHC	JR博多シティ	199,000	11F	59	新建築2011年5月号 p.173
SS**	渋谷ストリーム	118,300	36F	179	新建築2018年11月号 p.42
CH	キャナルシティ博多シティイースト	18,500	4F	21	近代建築2012年1月号 p.50
OS	御茶ノ水ソラシティ	102.2	23F	109	新建築2013年5月号 p.196
TEK	富山美術館	14,900	3F	19	新建築2017年9月号 p.206
**印は利用実態調査の対象事例 延面積は100㎡未満を切り捨て表示					

資料 8 30 共有空間のリスト

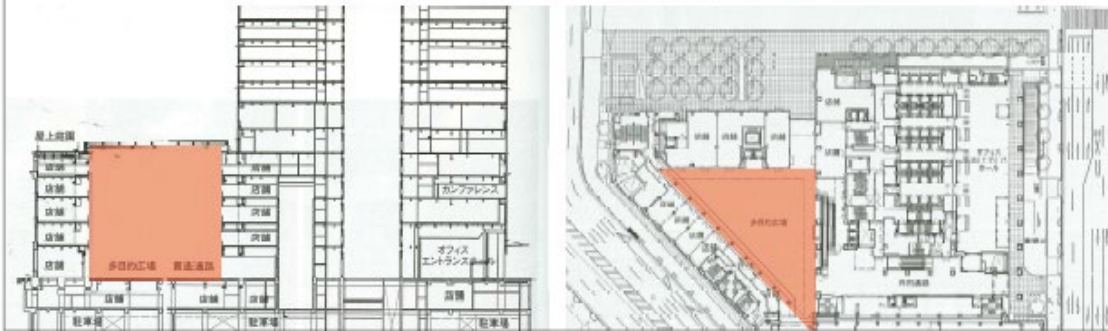
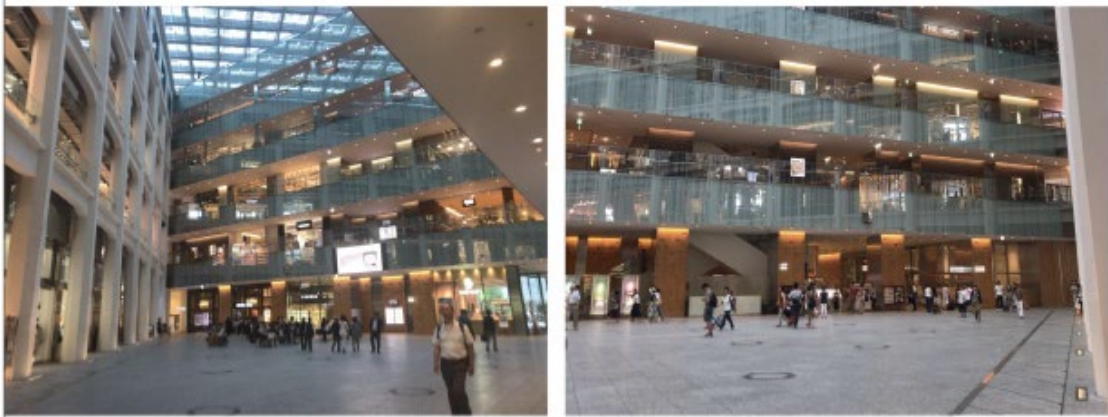
対象空間				心理的 評価実験	利用実態 調査	物理量 計測調査
空間符号	タイプ	分類	小分類			
SMB-ia	屋内	吹抜け	アトリウム	○		○
KMU-ia	屋内	吹抜け	アトリウム	○		
CCH-ia	屋内	吹抜け	アトリウム	○		
MK-ig	屋内	吹抜け	ガレリア	○	○	
KE-sg	半屋外	吹抜け	ガレリア	○	○	○
FTR-eg	半屋外	吹抜け	ガレリア	○	○	
MHM-is	屋内	通路	大階段	○		
KE-ss	半屋外	通路	大階段	○	○	○
TMH-ipa	屋内	通路		○		○
JHC-spa	半屋外	通路		○		
SS-epl	屋外	広場		○	○	
TGK-ipl	屋内	広場		○		○
ICS-ipl	屋内	広場		○		
TMT-spl	半屋外	広場		○		
CHI-spl	半屋外	広場		○		
OI-spl	半屋外	広場		○		
FTR-epl	屋外	広場		○	○	○
CCH-epl	屋外	広場		○		
PO-epl	屋外	広場		○		
KMU-epl	屋外	広場		○		
OS-epl	屋外	広場		○		○
MK-epl	屋外	広場		○	○	○
FTR-erpl	屋外	広場	屋上広場	○	○	○
TBK-erp	屋外	広場	屋上広場	○		
PO-ir	屋内	休憩スペース		○		○
OI-ir	屋内	休憩スペース		○		○
KE-st	半屋外	休憩スペース	テラス	○	○	○
SS-st	半屋外	休憩スペース	テラス	○	○	○
TT-st	半屋外	休憩スペース	テラス	○		○
TMH-et	屋外	休憩スペース	テラス	○		○

資料9 共有空間シート

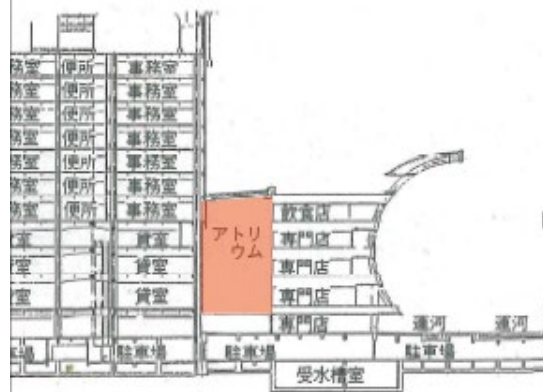
1 SMB-ia 屋内/吹抜け/アトリウム



2 KMU-ia 屋内/吹抜け/アトリウム

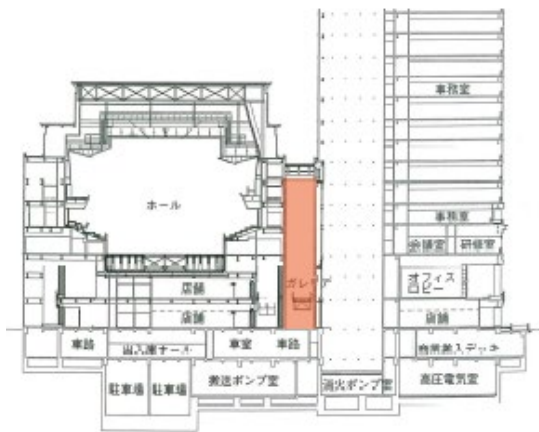
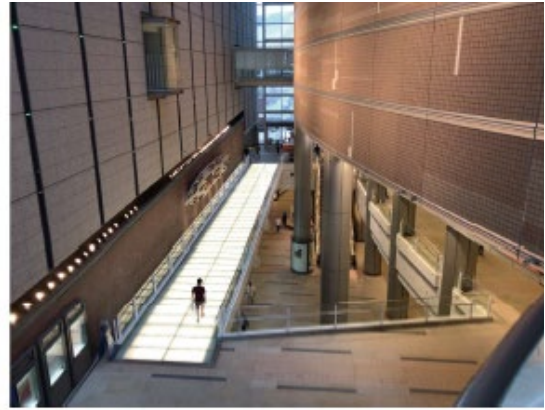


3 CCH-ia 屋内/吹抜け/アトリウム





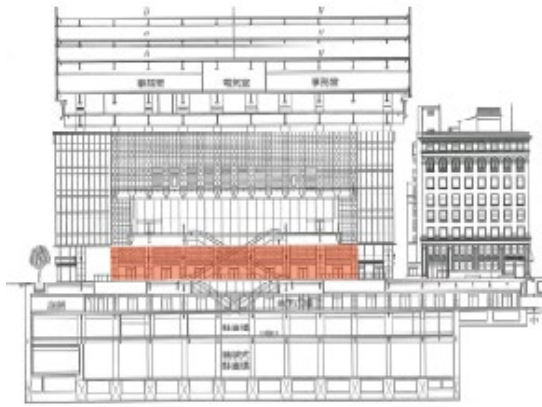
4 MK-ig 屋内/吹抜け/ガレリア



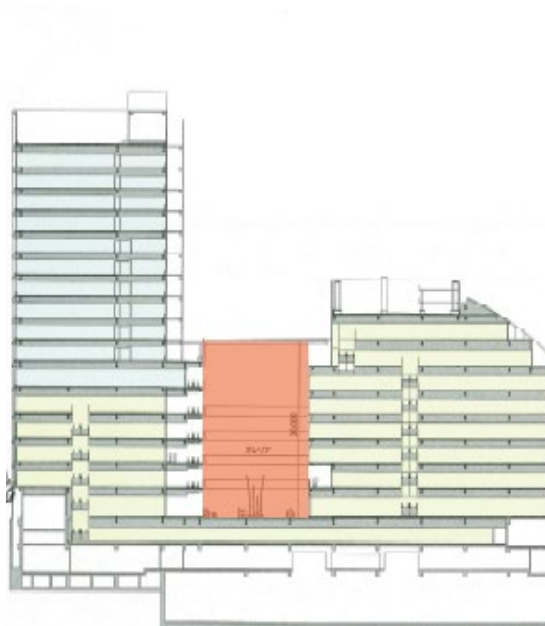
1階平面図 縮尺1/1,300



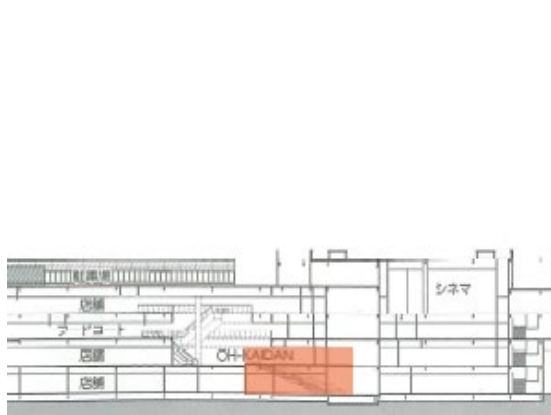
5 KE-sg 半屋外/吹抜け/ガレリア



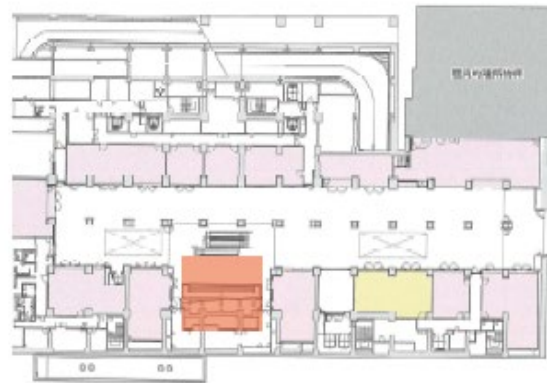
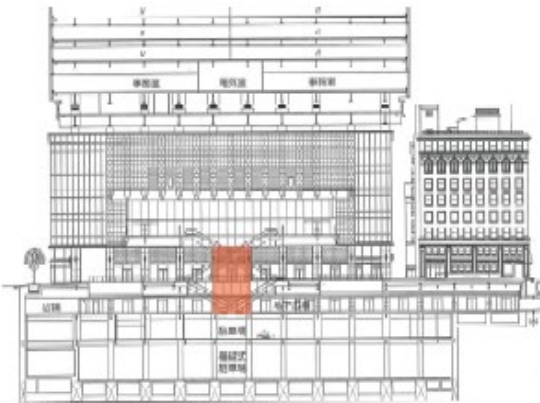
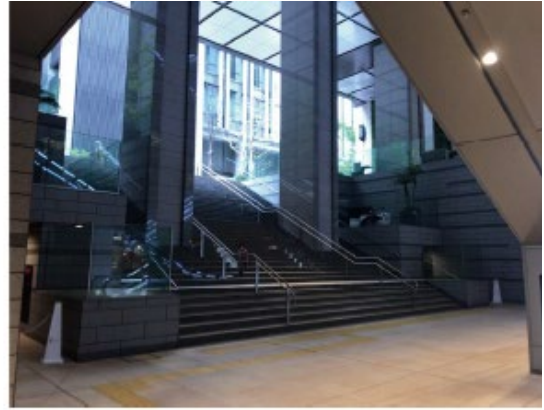
6 FTR-eg 半屋外/吹抜け/ガレリア



7 MHM-is 屋内/通路/大階段



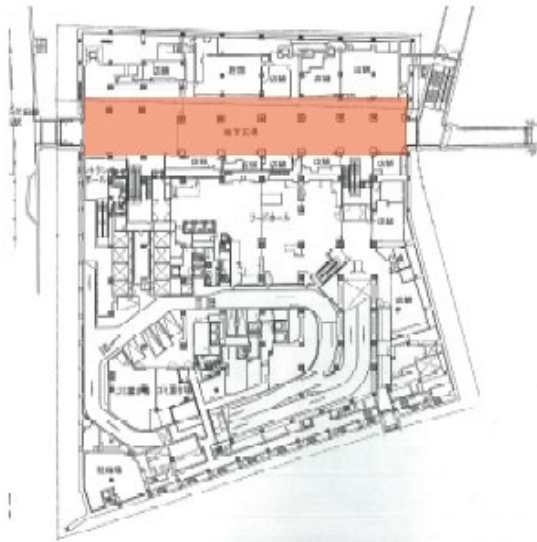
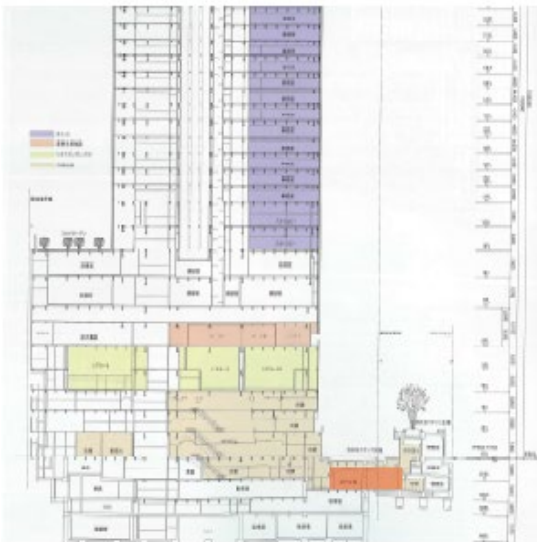
8 KE-ss 半屋外/通路/大階段



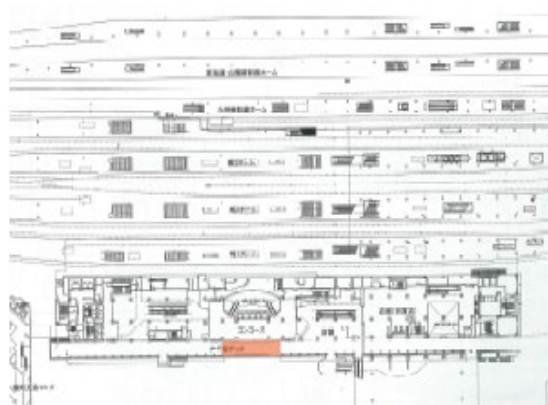
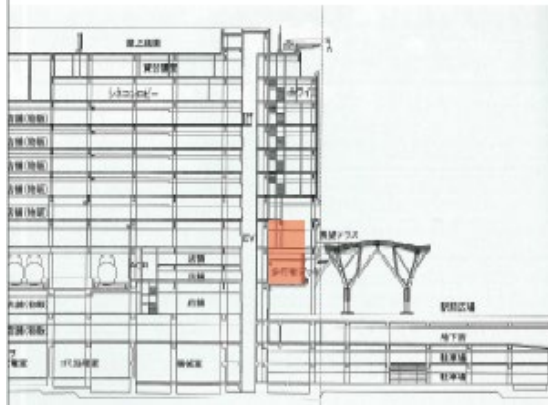
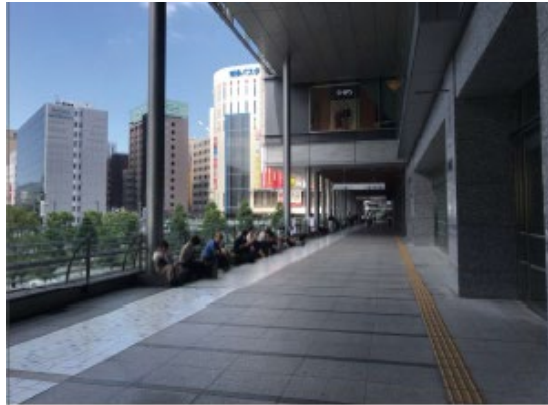
※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す



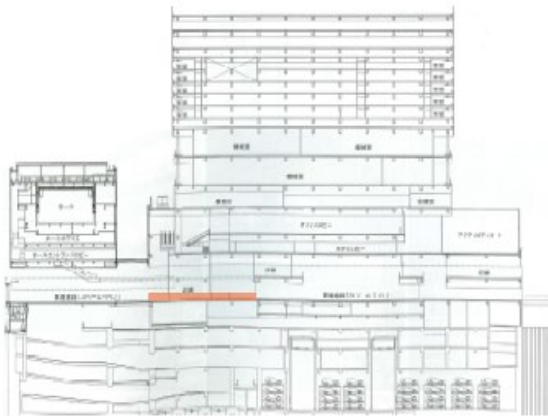
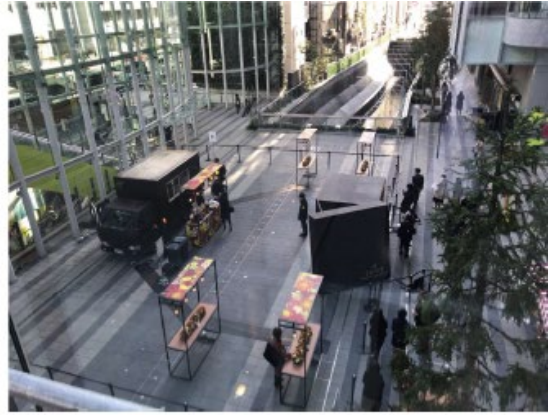
9 TMH-ipa 屋内/通路



10 JHC-spa 半屋外/通路



11 SS-epl 屋外/広場



※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す

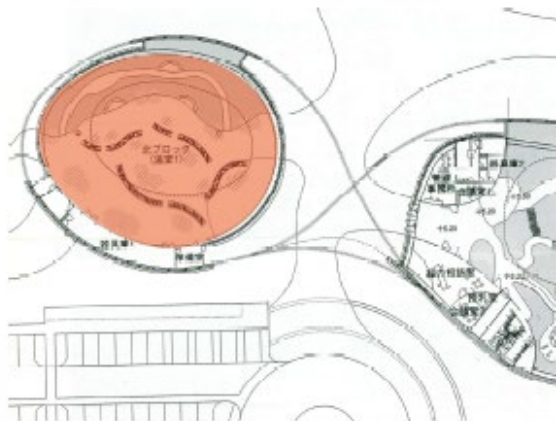
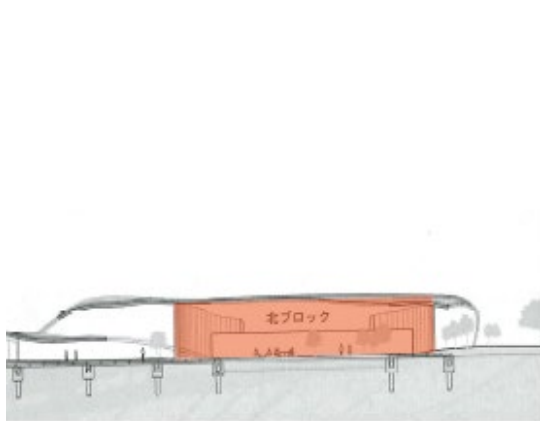
12 TGK-ipl 屋内/広場



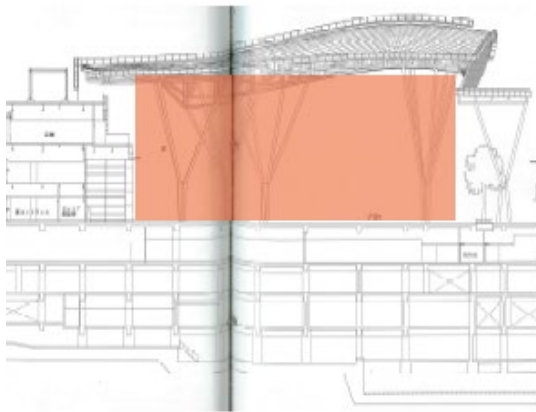
※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す



13 ICS-ipl 屋内/広場



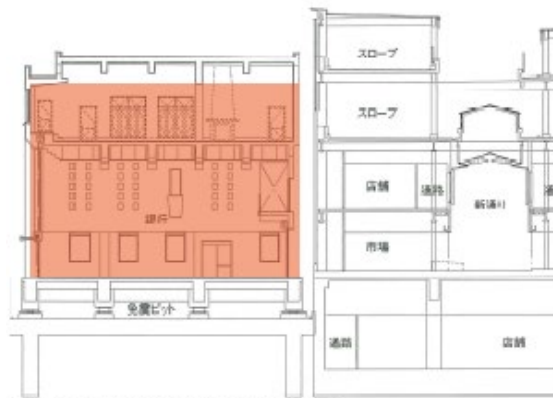
14 TMT-spl 半屋外/広場



15 CHI-spl 半屋外/広場



16 OI-spl 半屋外/広場

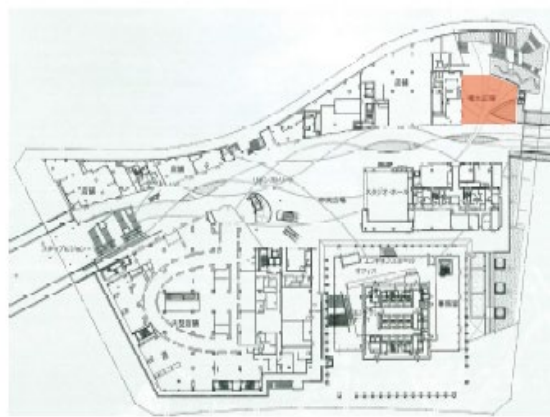


※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す



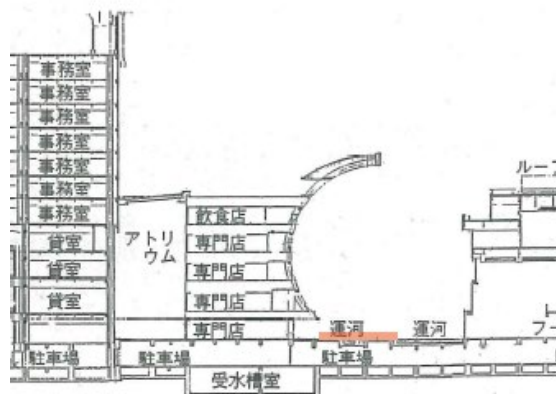


17 FTR-epl 屋外/広場



※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す

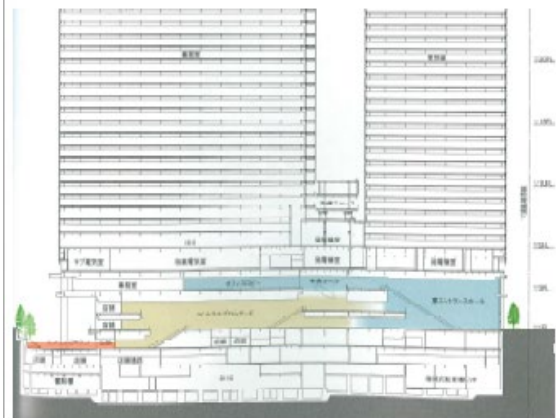
18 CCH-epl 屋外/広場



※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す

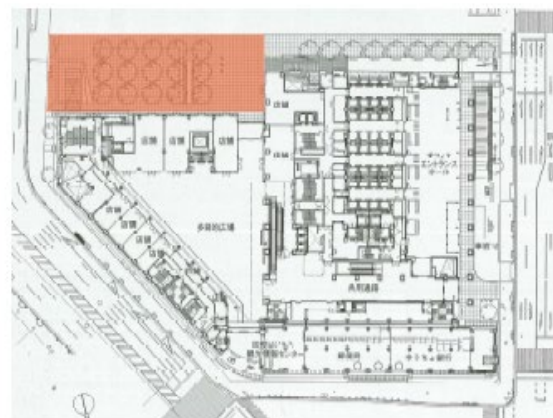
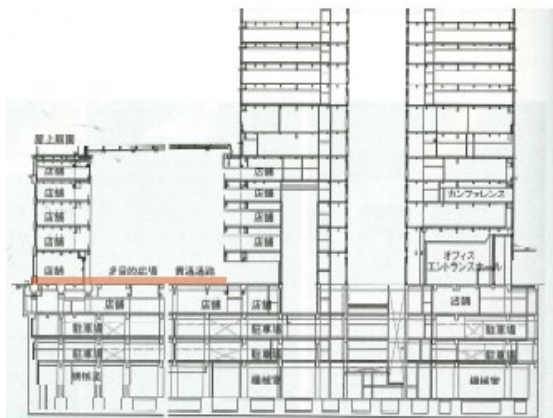
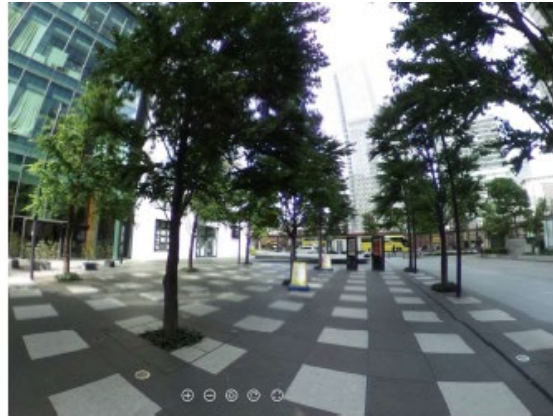


19 PO-epl 屋外/広場





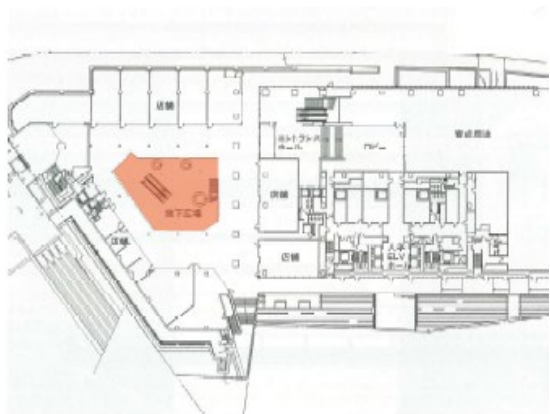
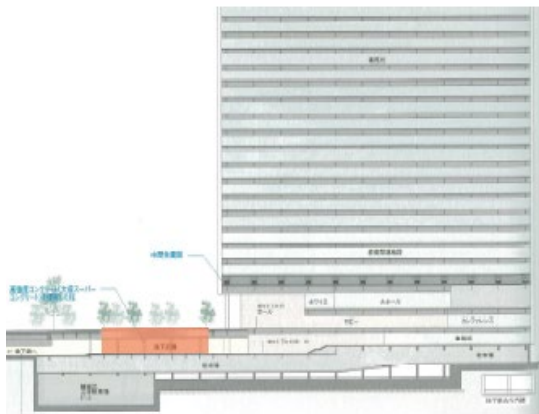
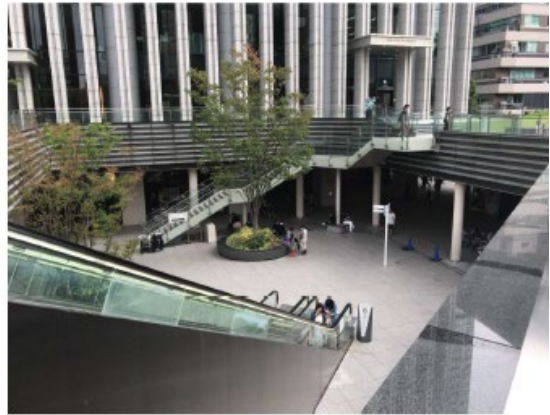
20 KMU-epl 屋外/広場



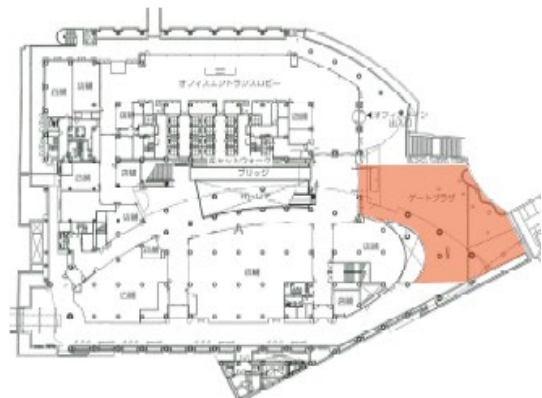
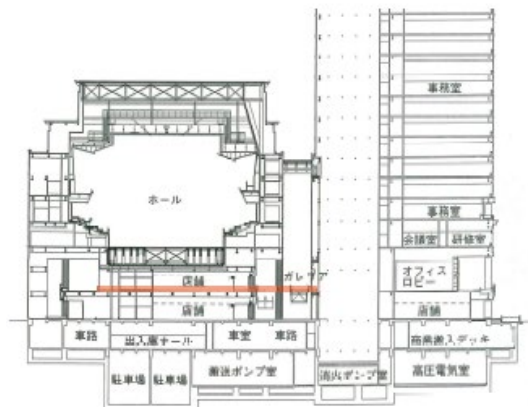
※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す



21 OS-epl 屋外/広場

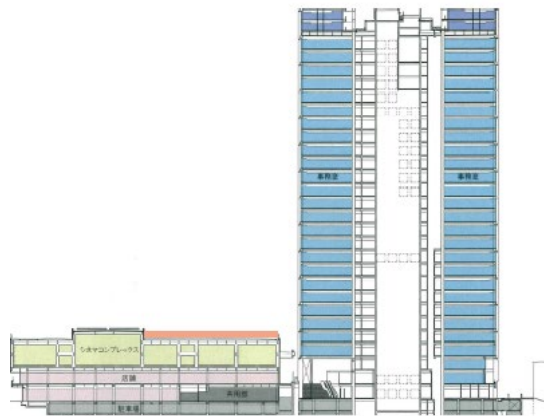


22 MK-epl 屋外/広場

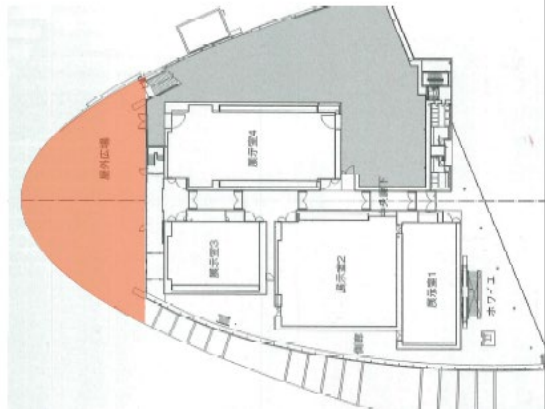
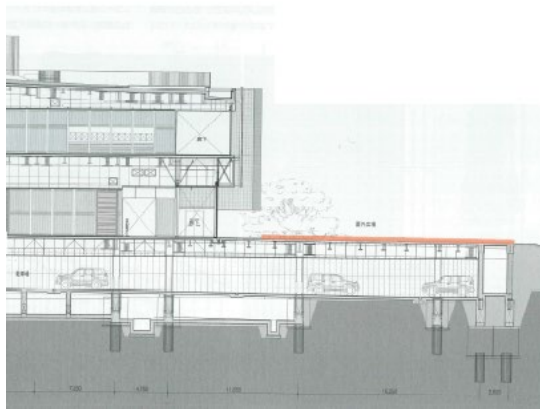


※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す

23 FTR-erpl 屋外/屋上広場

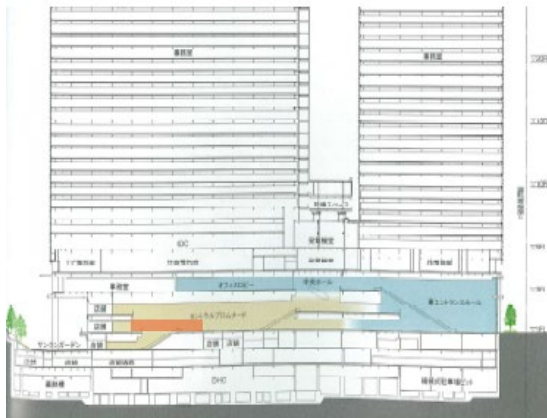


24 TBK-erpl 屋外/屋上広場



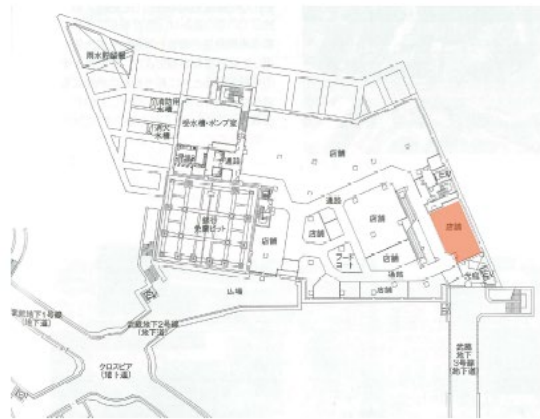
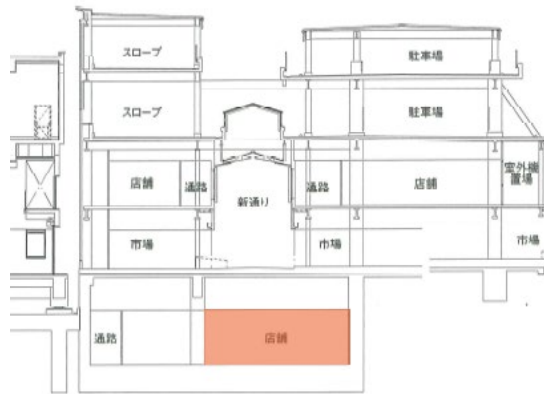


## 25 PO-ir 屋内/休憩スペース

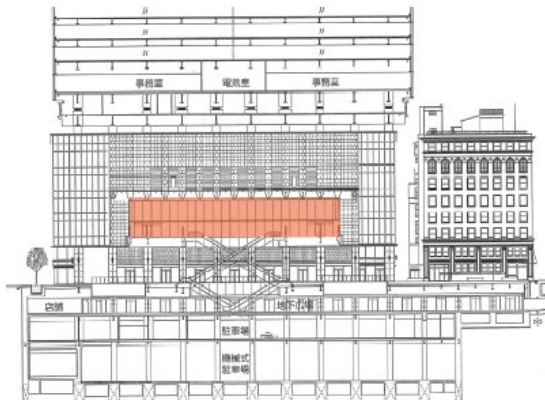


※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す

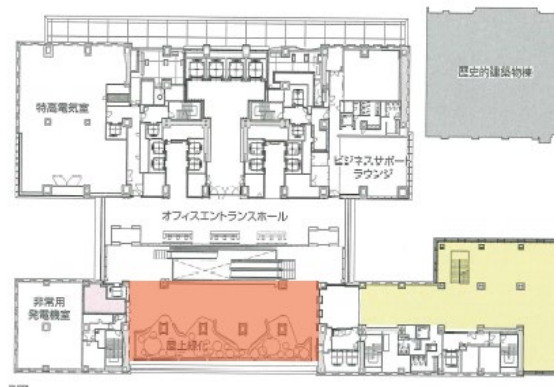
26 OI-ir 屋内/休憩スペース



27 KE-st 半屋外/休憩スペース/テラス

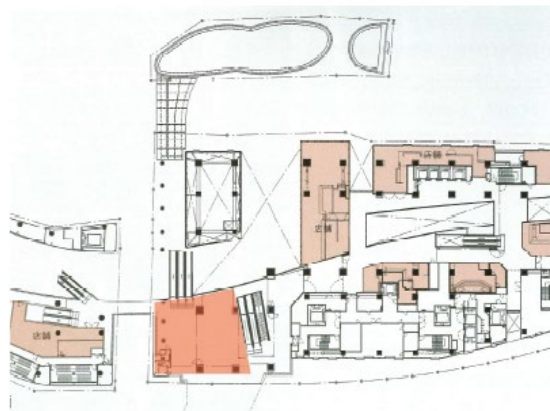
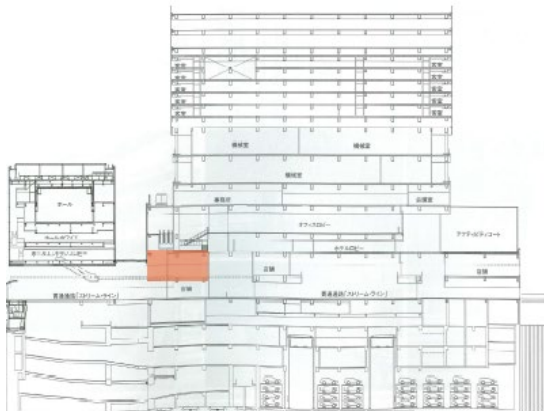
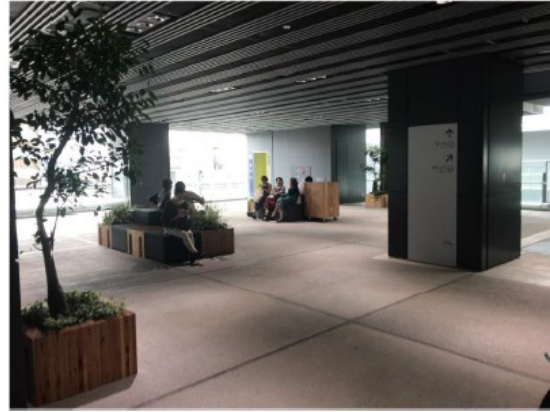


※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す



断面

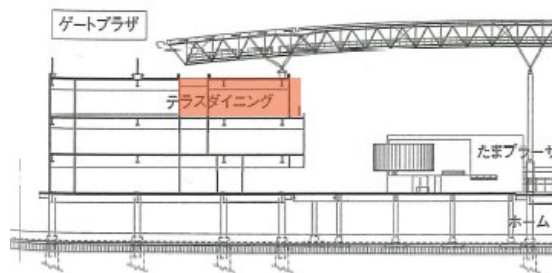
28 SS-st 半屋外/休憩スペース/テラス



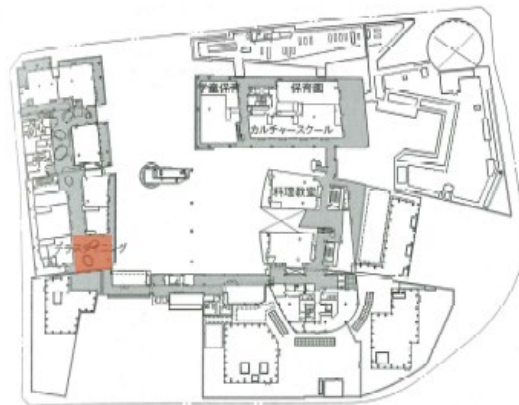
※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す



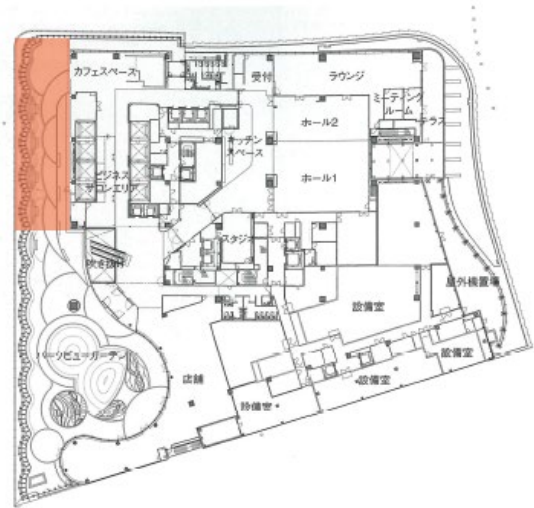
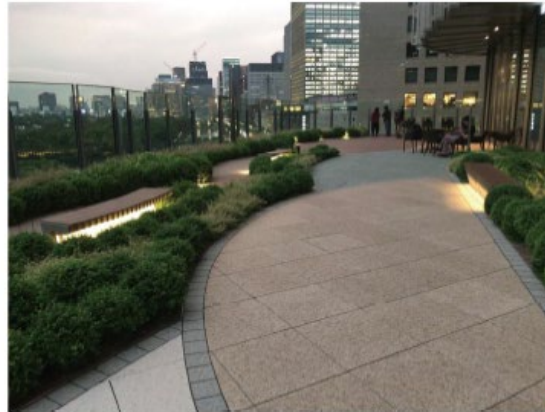
29 TT-st 半屋外/休憩スペース/テラス



※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す



30 TMH-et 屋外/休憩スペース/テラス



※この断面図では見かけ上の共有空間の位置を示す